라3Y21
44
280

監獄學全

小河滋次郎著

警察監獄學會發兌

閑眾惡

趣罪諸

閱衆惡

趣罪諸

巷間世外

序

余曾テ內務省警保局長タリシ時穗積法學博士ノ薦ニ依リ大學撰科生岳洋小河滋次郎ヲ擧テ局僚トナス當時內務大臣山縣伯銳意獄政ヲ釐革スゼーバッハ氏ヲ孛漏生國ヨリ招聘シテ獄務顧問官ト爲シ監獄官練習所ヲ起シ監獄巡閱規程ヲ定メ監獄評議委員會ヲ設ケ其他監獄行政ニ關スル諸般ノ規則ヲ改正ス岳洋每ニ調査立案ノ事ニ從ヒ曾テ學フ所ヲ實地ニ應用シ與リテ力アリ其後監獄課長ト爲リ更ニ神奈川縣典獄ニ轉任ス學者典獄トナル司獄社會ノ一大慶事ナリ頃ロ公務ノ餘暇ヲ以テ監獄學ヲ著ス亦以テ斯學ニ素アルノ深キ經驗ニ富ムノ厚キヲ觀ルニ足レリ往年余伯林府ニ遊フモアビ―ト監獄長クロ―ネ―氏ト屢獄政ヲ

談ス氏ハ監獄學者及監獄事務家トシテ特ニ孛漏生國ニ顯著ナルノミナラス歐洲ノ司獄社會ニ令聞アリ其著ハス所ノ監獄論ハ光輝アル鴻著ニシテ爲メニ伯林大學名譽博士ノ稱號ヲ享クルニ至レリ令名ノ顯著ナル斯ノ如シ而シテ其官職ヲ問ヘハ渺乎タル一監獄長ニシテ高等官ノ末班ニ列スルニ過キス然レトモ氏ハ斯道ノ爲メニ盡スコトヲ樂ミテ敢テ他ノ名譽ノ府利益ノ地ヲ顧ミサル者也岳洋ノ位置及志行頗ルクロ―ネ―氏ニ類シ而ソ此著亦クロ―ネ―氏ノ監獄論ニ似タリ其曾テ著ス所ノ獄務提要監獄管理法監獄法講義業既斯道ノ爲メニ裨益尠シトセス此著ノ該博精覈ナル前著ノ比ニアラサレハ其司獄社會ヲ益スル果シテ如何ソヤ岳洋年壯氣雄志遠大ニ在リ若シ一タヒ泰西ノ

地ヲ經歷シ彼ノ學理ヲ叩キ彼ノ獄政ヲ察シ平素懷抱スル所ヲ啓發セハ其得ル所更ニ幾多ナルヲ知ラサル也一日穗積博士ト會ス談偶岳洋ノ事ニ及フ博士曰ク人文ノ進ムニ從ヒ學者亦穿井的主義ヲ要ス彼レ亦穿井的學者タラシムヘシト意フニ學問ノ道夫ノ畦ヲ耕スカ如クナル可カラス徒ニ廣クシテ淺キハ竟ニ世用ナシ彼ノ井ヲ穿ツカ如クナラサル、可カラス狹クシテ深カケレハ必ス泉源ニ達ス汲用盡クルナキヲ得ヘシ博士ノ言實ニ然リ余ハ岳洋ニ望ムニ監獄專門家トシテ我國ノクロ―ネ―氏タランコトヲ以テスルモノナリ之ヲ卷端ニ題シテ他日ヲトス

明治二十七年六月　　清浦奎吾識

序

本縣典獄小河君著一書。名曰監獄學。來謁余序。受而閱之。曰監獄沿革。分項五節。甲乙二款附焉。曰犯罪刑罰。分項八節。曰行刑法。分項四節。曰犯罪豫防。分項三節。曰監獄構造法。分項八節。曰監獄管理法。分項九節。甲乙丙三款附焉。曰監督權。分項二節。是爲第一編。曰收監。分項二節。甲乙二款附焉。曰檢束法。曰戒護官吏勤務法。曰遇囚法。曰懲罰。曰賞譽。曰書信接見。曰監房訪問。曰釋放。分項七節。曰作業。分項五節。曰給與。分項三節。曰會計。曰衛生。分項三節。曰教誨。分項二節。曰教育。曰書籍。曰監獄統計。曰補遺。分項四節。是爲第二編。條分縷析。網羅靡遺。嗟君專精其職如此。余頗嘉此著。乃不敢辭。舉其概目以弁卷端。

明治甲午夏五月　　神奈川縣知事　中野健明撰

序

明治革新以來文物制度月漸。諸般改良日就。獄務亦着々雖見進步。區々有未全者何乎。所謂有法不得其人屬無法。司獄官吏而不究行刑之理術蘊奥。則善制美法亦何異往昔之牢屋乎。友人小河君夙奉職於監獄。頗有見于此。勵精積年。博徵歐米諸國之實歷。兼取其諸名家之說。基諸本邦監獄之制度。編述以爲一書。題曰監獄學。將以附剞劂。徵序於余。余受而閱之。立意精深。眞能闡明其運用之道者。可謂獄務之指南車矣。其益于吏務蓋不尠少也。豈得不序。乃綴數言以塞責云

明治甲午初夏小松原英太郎識於靜機山下之僑居

序

社會の進歩と犯罪の增加とは互に正比例をなすものなり。今夫れ生存競爭は、人智發達の最大誘因たるに相違なきも、その極や貧富の間に天地の隔絶を生じて、忽ち家産を破り恒心を失墜するものなきにあらず。是に於いてか浮浪無賴の徒、蛆の如くに湧き出て、悉く獄底の鬼とならさるはなし。人智の發達は社會進化の一大利劍たるに相違なきも、時に或は道德の軌道を脫して邪徑に陷るものなきにあらず。是に於いてか猾才兇惡の徒、蟻の如くに集り來りて、悉く法網の蜮たらさるはなし。人口愈增殖すれば、糊口の途に彷徨するもの愈多く、機械力益進歩すれば、多數職工の生業は、忽ち奪ひ去られつゝあり。さては今日社會進歩の利器を供給す

るの必要を感ずると同時に、犯罪滅却の利器なかるへからず。犯罪滅却の利器とは、いかに。監獄制度の善美是れなり。小河滋次郎君は嘗つて内務省に在りて、久しく獄務に從事したりしが、今や轉して神奈川縣に典獄たり。その學は獨逸に通して、殊に心を監獄の事に注きつ。頃者監獄學を著はして、叙を余に請ふ。余披いて之れを一覽するに、現行監獄則を基礎とし、旁ら歐洲各國、殊に獨逸現行の制度と諸家の說とを參酌して、綱擧り目張り、而してその分類亦た宜を得たり。且つ之の學理を說いて學理に流れず、實務を談して實務に偏せざるは、是れ君が最も苦心の存する所、而して本書の特色も亦た此に在り。さては本書の監獄制度を善美ならしむる上に於いて、その裨益する所、實に鮮少ならざるべし。

あはれ君の心も既に獄務の上に注きつ。君の手も既に獄務の上に揮ひつ。今や君の心と君の手とは遂に迸り出てゝ君の筆底に凝りつ。凝りて監獄の制度に良結果を及ぼすや知るへきのみ。是に於いてか君の一身は、社會の進運に關するや大なりと謂ふべし。しかはあれど、今君や春秋に富み、前途尙ほ多望、而して監獄に施設を要するもの多々益〻劇し。然らば則ち本書の如きは、獄務の上、その益實に少からざるべしとはいへ、君か將來監獄の上に施設すへき事業に比しては、誠に九牛の一毛たらむとを望みてゐむ。

明治二十七年六月入梅後一日　　小野田元熙識

序

小河滋次郎君ノ嘗テ大學ニ在ルヤ余モ亦其教授ニ與カル君人トナリ深沈寡言才學勤勉共ニ其等儕ヲ拔ク講學ノ餘暇君時時來リテ獘廬ヲ訪ヒ質スニ學事ヲ以テス余一日談餘君ニ謂テ曰ク監獄ノ事タル社會風教ノ淑慝ノ關ル所國帑歲費ノ增減ノ係ル所實ニ國家至重ノ制ニシテ當路者ノ當サニ深ク心ヲ用ヒサルヘカラサル所ノモノタリ故ニ歐洲諸邦ノ如キハ之ヲ講スルモノ嚴然トシテ別ニ一科專門ノ學ヲナシ以テ審カニ其利害關係ヲ討尋ス而シテ吾國ニ在テハ一ニ之ヲ忽諸ニ付シ未タ學理上ニ就ヒテ之ヲ稽査スルモノアラス誠ニ缺典ト謂ツヘシ君豈率先之ヲ補フニ意ナキカト君頗ル余ノ言ヲ然トシ是ヨリ而後心ヲ斯學ニ

留メ沈潛研磨矻矻トシテ倦マス大ニ造詣スル所アリ時ニ清浦奎吾氏警保局ニ長タリ余君ヲ氏ニ薦メ之ニ語ルニ君ノ志行ヲ以テス氏聞テ大ニ悅ヒ便チ之ヲ内務省ニ引キ專ラ監獄ノ事ヲ掌ラシム是ニ於テ君カ嚮ニ學フ所獄舍ノ制治囚ノ法防罪ノ策ヨリ夫ノ課工教訓衛生ノ道ニ至ルマテ利病ヲ親驗シ得失ヲ實試シテ左右原ニ逢ヒ自得スル所愈多シ而シテ數年ノ中前後著作スル所亦尠カラス是ヲ以テ凡ソ今日監獄ノ學ニ窺キ者ヲ舉レハ人必ス先ツ指ヲ君ニ屈スルニ至ル蓋シ刑事ノ法ハ古來學者ノ精ヲ殫シ心ヲ竭シテ研究スル所タリト雖トモ監獄ノ事ニ至リテハ之ニ意ヲ注ク者甚タ鮮ク概ネ以テ刑法ノ末事トナス豈知ラムヤ刑法ノ人類ニ實効ヲ奏スルト否トハ多ク監獄ノ良惡何如

ニ係リ監獄ノ制度ハ學者ノ爲メニ長ク等閑ニ付セラルヘキモノニ非ルコトヲ輓近一派ノ刑法學以太利ニ興リ特ニ心ヲ犯罪者ノ性質ニ潛メ之ヲ徵スルニ人類學社會學解剖學心理學病理學精神病學諸科ノ理ヲ以テシ專ラ實試經驗ノ方法ヲ採リ因テ空想虛構ノ推理ヲ排ス而シテ此派ノ起ル日尚ホ淺ク未タ以テ鞏確ノ根底ヲ成スニ至ラスト雖トモ而モ形勢ノ趣ク所ヲ察ルニ其唱フル所行々且サニ弘ク世ニ行ハレ天下ノ刑理ハ渙然トシテ之レカ爲メニ其面目ヲ一變シ諸派ノ理論ハ盡ク茲ニ朝宗スルノ日アラムトスルモノヽ如シ而シテ人ノ性質遺傳誠ニ犯罪ノ原因タルノ理漸ク明ナレハ囚徒ノ體質ヲ觀其動作ヲ察ルコト必ス刑法學者ノ急務トナリ獄舍ハ猶ホ病院ノ醫學ニ於ケルカコ

トク將ニ刑法學材料蒐集ノ場トナラムトス且ツ夫レ犯罪ノ根本其人ニ存スルコト既ニ詳ナレハ必ス之ニ應スルノ救治法ナカル可ラス故ニ新刑法學ニ多般ノ材料ヲ供スルモノハ實ニ獄舍ニシテ新刑法學ト相伴ヒテ起ルモノモ亦想フニ必ス獄制ノ更正ナラム是ニ由テ之ヲ觀レハ向來學者カ輕視セシ所ノ監獄學ハ局面一轉刑律學中至重ノ科トナリ他日刑法ノ釐革ハ必ス將ニ監獄ヨリ來ラムトス今ヨリシテ監獄ノ學ハ多年ノ屈ヲ伸ヘ日ニ其効用ヲ顯ハシ日ニ世ノ留意ヲ致スニ至ラムカ前途望多シト謂ツヘキナリ君頃コロ更ニ監獄學ヲ著シ序ヲ余ニ需ム其書一部二編二十五章哀然タル大册ニシテ凡ソ監獄ニ關スルノ事項ハ大小畢ク擧ケ巨細漏ラスコトナシ公務鞅掌簿書堆積ノ間其成ス所能ク此ノ如シ斯道ニ鋭意ニシテ精勤人ニ超フルニ非レハ焉ソ此ニ至ルヲ得ムヤコレヨリ而往孳孳トシテ倦マス愈其學ヲ長シ益其才ヲ老シメハ洵ニ吾國斯學ノ木鐸タルノ任ニ愧チサルナリ余ハ監獄ノ學ニ於テ固ヨリ其專門ニ非ス然レトモ君ノ斯學ヲ攻究スルヤ余聊カ因緣アリ君カ此有望ノ學ニ於テ名ヲ成シ志ヲ行フヲ見テ余ノ心中之ヲ喜フコトモ蓋シ亦他人ニ愈ルモノアラムトス君ノ囑託其意亦此ニ在ルカ然ラハ則チ數言ノ拙辭豈之ヲ辭スヘケムヤ因テ懷フ所ヲ書シテ之ニ贈ルト云フ

明治二十七年六月七日

穂積陳重君序

穂積陳重識

序

監獄改良の談を聽くこと既に尚一矣而かも未た之れか赫灼たる實効の擧かるものあるを見ず是れ豈に監獄理術の尚ほ未だ割合に進歩且つ普及せさるが爲めなるに非らず や我か國今日に於ける監獄の事況は大に昔日の面目を更新したる所のものありと稱す然かも其實際に就き科學的の眼を以て之を觀察するときは遇囚諸般の事尚ほ行刑の要義を充たす能はさるもの蓋し一二にして足らさるなり而して其の結果は偶ま行刑の爲めに反つて社會の危害を增大ならしむるに至らんとす之を想ふごとに予輩は益々一日も斯の事業の忽諸に付すへからさるを感せすんはあらさるなり

行刑の要義とは何ぞや曰く約言すれは遇囚規律を一て嚴正摯實且つ公平なら一むること即ち是れなり嚴正以て國權の强大なるを知ら一むるを得へく公平以て大法の尊尙すへきを感せ一むるを得へく摯實以て公道の侵犯すへからさるを確信せ一むるを得へく三者相俟つて始めて能く刑の眞面目を保全一依つて以て彼れ囚人を懲毖感化する所以の旨趣を貫徹するを得へ一我か國今日に於ける治獄の實況果一て如何となす監房と言ひ工場と言ひ殆んと一も刑法要求する所の自由刑を執行するに適一たる構造と認むるに足るものな一甚一きは即ち未た自由刑の行はれさり一舊幕時代の牢屋若くは米倉を其儘若くは多少修補一て之を襲用一つゝあるが如きもの亦た啻だに二三の地方のみにあらさるなり。役業は行刑を組成するの要素なり最も主要の部分を占むる所のものに屬す然るに工場即ち役業を執行する所の場所の如き數種の犯罪者膝を交へ肩を接一て一堂に相集り啻だに老幼相嚴隔する能はさるのみならず甚一きは即ち彼の刑法上の無能力者なる辨別なく一て罪を犯すに至りたる懲治人の如きものすらも亦た他囚殊に老黠なる慣習的犯罪種族と雜居せ一むるものあるの實況に一て其の犯數身分教育行狀性質等個人的諸般の關係に就て完全なる別異法を執行する能はさるものに至つては到る所比々殆んと皆な是れならさるはな一と謂ふも可なり而一て之れか監視を爲す所の者は數十囚に就き一名乃至二三名に過きさるの少數戒護者なるか故に到

底嚴密なる緘默規律を厲行する能はず此を制すれは則ち彼れに起り彼を抑ふれは則ち此に破る宛然恰かも是れ不紀律なる職工場の光景と一般なり纏つて監房起臥の狀況を觀察するに一房大概多數の囚徒を聚禁し甚しきは則ち一疊殆んど三人强に當るの割合を以て百人内外の大數を混同雜居せしむるが如きものなきにあらず斯くの如くにして何くんぞ能く監獄則要求する所の罪質年齡犯數行狀等に據る囚人別異の方法を實行することを得へけんや看視者ありと雖も是れ亦た多くして二三の少數たるに止まり結局以て彼れ多數の怪勢力を壓伏するに足らず交談泉の如く嬉戲雲の如し得々として犯罪の秘術を講演する所の者揚々として不倫の經歷を說述する所の者聽く者は歡び言ふ者は傲る啻だに身に刑罰の苦痛あるを感せざるのみならず彼れ反つて束脩を入れずして犯罪の學校に留學し若くは宿賃を拂はずして衣食に不自由なき羈旅に安住しあるを樂むものゝ如し樂む所獨り此に止まらしめば尙ほ可なり亦た言ふへからさる一種の醜風行はれ彼れ囚人をして獸行的蠻夢に夏の夜の短かきを嘲たしむるの弊を防遏する能はず偶々犯則に露顯せるものあるも其の處分の重もなるものは幾んと唯た減食の一あるのみ食を節し房内に閉坐すること幾日なれば則ち處分了はる且つや減食被罰者ハ概ね他の同被罰者と其の居房を同ふするを以て同病相憐れむの情ハ機微の間に互ひに相神通して相慰め曾つて饑餓の其の身に迫まるものあるを感ぜず或ハ反

つて處罰益々多くして愈々彼れ被罰者の同囚に對するの勢力を增大せしむるに至るを免かれず、之を要するに愚直は罰せられ狡猾は多く常に苟免す僞善は益々進み誠實は冷かよ嘲笑の裡に埋葬し了せらる。顧みて又監獄衛生上の實況を觀察するときは給養甚だ不可なりと言ふにあらざるにも拘はらず死亡疾病の割合は殆んと社會良民の二倍に該當するの多數にして殊に憐れむへき初犯短期の囚人に於て最も此の不幸の運命に遭遇する者多きを占むるものゝ如し加之監獄に於ては結核、窒扶斯、虎列刺、皮膚病其他諸般恐るへき傳染性疾患の發生すること頻數にして激烈なるものは則ち立所に幾百の人命を掠奪し寛慢なるものは則ち深く其の根蔕を監獄の內部に培養し出沒自在幾ん

ど此に出入する總へての生靈を侵蝕す衛生斯くの如くにして果して能く摯實に自由刑を執行するものと謂ふを得べきか撿束彼れが如くにして果して能く嚴正均一に刑罰を執行し據つて以て國法の威信を保ち彼れ罪囚を懲誡感化する所以の旨趣を貫徹し得へしと謂ふを得へきか、犯罪ハ年一年より益々多く增殖し且つ再三監獄に出入する者の多數あること殆んと現囚員の六七分以上を占むるの割合にして甚しきハ則ち自ら故らに微罪を犯し骨休め的に監獄に寄食せんことを計るものあるを見る嗚呼何んぞ彼れの國權を侮辱するの甚しきや天下の大法も此に至つては殆んど半錢の價直をも有する能はさるものと謂ふへし而して其の結果は偶ま以て犯罪を養成し病毒を媒介し益

々社會の危害を增大ならーむるに至らんとす予輩は一々之れか事實を證據立てゝ徒らに世人を驚動するを欲せず識者の明必らず能く之を詳悉する所あらん

嗚呼是れ果ーて誰れの罪ぞや、言ふ勿れ政府之れか改良に鋭意ならず當局者亦た漫に其の職を曠ふすと予輩固とより政府及ひ監獄當局者の斯の改良事業に熱心精勵なるを多とす然りと雖も如何なる名匠も之れに利刀を與へずーて成工の巧みならんことを注文するの至難なるか如く諸般改良の設備未だ全からずーて漫に成績の擧がらんことを求むるは所謂難きを以て人を責むるものなりと謂はさるを得ず。獄制の上乘なるもの之を分房個人主義と云ふ行刑必要の條件は此の主義の適實に執行せらるゝを俟つて始めて能く完全に之を具備せーむるを得へきなり我か國今日の監獄果ーて能く此の主義を實行ー得へきもの幾何ある少くも其の幾分にても之を實行ー得るの設備あるもの果して幾何かある遺憾ながら予輩は未だ一も我か國に於て之れが設けあるの事實を見聞せざるなり、而ーて又刑法は治獄の由て生ずる所の基礎と稱す然るに此の基礎なる所のもの果ーて能く完全に治獄の成績を擧けーむるに適ーたるものなりとおすを得へきや刑法は社會の民度に適應ー且つ時勢の變遷に伴ふて大に亦た改良進歩する所なかるへからず、和蘭、伊太利、白耳義等の刑法は獨逸聯邦の刑法に優さり獨逸刑法は即ち佛國刑典を抽んすること數等なり佛國刑典か今日に在つて往々道理外れ、時勢後れの

欠陷あるを免かれざるのことは決して予輩の一私言のみにあらざるかり我か現行刑法は則ち佛國刑典に繼受したる所最も多く從つて彼れに存する所の欠陷は我れも亦た盡く之を承襲せり其の我か今日の民情に適せす時勢に當て欽まらさるものゝ多さこと固より深く怪むに足らさるなり殊に其の苟くも罪あれは輕重に論なく一も二もなく盡く捕へて之を監獄に拘禁し容易に十數日若くは一個月内外に過ぎさる短期刑を以て處斷するもの頻々なるか如き得る所は即ち輕犯微罪の者を化育して重罪極惡の者に醜了せしむるの結果たるに過きす之れか爲め國帑の消靡せらるゝもの亦た幾何そや警察組織の如きも亦た動もすれは輒ち機宜の措置を欠き勞すること多くして反つて益々犯罪を助長するの失態なきを保せす現行監獄則亦た改正を要すへきもの啻たに二三のみにあらさるなり約言すれは則はち直接間接に監獄改良事業に關係ある内外諸般の設備に於て尚ほ未た完全なること能はさるなり獨り斯の事業の改良を計らんと欲するの至難なること知るへきのみ

刑法及ひ監獄則の改正は我か政府も亦た既に此に着手する所ありと聞く之れに關する予輩の希望は今敢て此に之を開陳せす警察組織の事亦た敢て深憂とせすに足らす唯た夫れ上乘なる個人的分房離隔の制度を實行して一面罪惡傳播の弊を防遏すると共に一面懲戒矯治の目的を貫徹せんか爲めには一時先つ少からざる若干監獄改築の費用

を支給するに至らーめんこと最も其の前途に苦慮する所なくんはあるへからす予輩敢て國家經濟の程度をも顧みず漫然急激突飛の大改良を希望するものに非されとも少くも責めて完然ある階級制を執行ー若くは犯罪の嫩芽たる初犯囚又は幼年囚丈けにても之を拘禁するに足るの分房設備あるに至らーめんことを切望す果ーて若ー之れに由つて犯罪減少の好結果あるを見るに至らは之れか爲め節減ー得る幾多の費用は移ーて以て直ちに之を分房制擴張の費途に供充するを得へく漸次推及ーて終に完然ある分房制施行の機會に達ー其の結果は愈々益々犯罪減少「經費節減の効果を將來ー得る所は則ち建築其他諸般改良の爲めに要せー所の若干の費用を償ふて尚ほ餘りあるを見るに至るへく其の國家百年の長計たること照々乎とーて火を觀るよりも尚ほ明らかあり然れとも之を言ふは易すく之を行ふは即ち難ー之を行ふの難さは蓋ー世人の尚ほ未た斯の事業に對ー同情を表することの冷淡なるを免かれさるの實況あるを以てなり如何せは則ち彼れを此に導くことを得へき曰く先つ彼れに監獄の智識を注入すると同時に當局者も亦た益々大に之れか智識を養成ー熱心誠意出來得らるへき範圍に於て着々改良進歩の實効を擧け一層進んて世人の信望を繫くに至るの覺悟なくんはあるへからす

監獄は監獄其れ自らの働らきのみを以て其の機能を全ふー得へからさること既に前述する所の如ー刑法修正すへ

く司法、警察の操縦運用も亦た大に之を改善すへ〻殊に社會公共の事業たる救貧、教育、保護等の如きも亦た宜しく監獄事業に前後相關聯〻て完全に組織せらるゝ所なくんはあるへからす然るに社會か尙ほ未た是等の事業に對〻て冷淡に看過するの事況あるは是れ豈に監獄即ち言ひ換ふれは犯罪防遏に關する智識の普及せさるか爲めなるに非らすや監獄當局者も亦た進んて大に之を勸奬誘掖する信樣能力に十分ならさる所あること幾分か與つて力ありと謂はさるを得す予輩監獄の前途を憂ふる者常に是を以て憾みとなす友人小河岳洋君亦た夙に此に見る所あり今復た監獄學と題する一書を著はし〻て之を世に公けにす、精を取ること多く〻て力を用ふること勤めたりと謂ふへ〻寔に以て斯道の指南車となすに足る我國監獄學の著ある蓋し君を以て嚆矢とあす君の名譽の大に揚かるの時は即ち監獄智識の普及するの機なり予は監獄改良事業の爲めに一日も早く其の機會の到來する所あらんことを祈る聊か平生懷抱する所の鄙見を陳へて本書の序辭に代ふ

明治廿七年六月

文學士　都筑馨六識

拜啓陳者貴著監獄學今般剞劂に付せられ候に就てゝ何に
か序辭として一言可致旨御書面之趣承知仕候乃ち小生は
斯く許與せられ候機會に乘じ何寄最先に一言致度は貴兄
の此書を著述せらるゝに當り盡されたる精勵と熱心に對
し小生か表示すへき感情は如何計りか切なるべき又貴兄
が監獄學の如き範圍の廣濶なる一科に就き幾多雜駁なる
材料を蒐集網羅し物の見事に之を統合整理せられたる巧
妙に對し小生が有する歎賞は如何計りか厚かるべき殆ん
と筆紙に述べ盡し難き次第に有之候との一事は先以て御
諒察を仰き度所に御坐候
監獄に關する事項を科學的に記述したるもの我國には未
た之れなく世人か一齊に遺恨とせる所に候折柄貴著は實

に之か嚆矢となり、啻に其缺乏を補填せる而已にあらざるは小生の信一て疑はさる所よ有之候、小生は未た貴著を通讀するの餘暇を得す候間、詳細なる批評は致兼候得共貴兄が兼てより斯道に通曉せらるゝこと、並に斯事業の實驗に富まるゝこと、唯此二つを以て推度候ても所論の精確に一て材料の富饒なる殊更云はでものことに可有之候。又貴兄が此書を編述せらるゝに當り參照せられたるも孰れも歐洲大陸に於ける斯學の泰斗と一て世人の尊崇する人々に一て特にクロー子、スタルケ、ホルツェンドルフ、ヤーゲマン等の名を聞くだに貴兄が渉獵の宏博なるを推知すべく、況一て世人か動もすれば陷る所の彼の先輩拜崇の弊の如きは露程もなく、如何なる碩學大家と雖とも其所論の不可な

るものは會釋もなく排斥一、卓拔の見識を以て斬新なる論理を闡明せられ候段は小生が一閲一たる部分丈けにても確かに認了一得られ只管敬服する而已に御坐候

我ゝ監獄ハ最近四五年の間に頓に進歩致候ことは御同慶に御坐候得共尚ほ精査候に、其所謂、進歩は多くは唯形骸に止まり、神髄を得たるもの鮮さは實に遺憾に不堪所に御坐候、分房制は當今、各地方とも何つれも或る程度に於て試驗的よ實行一つゝあるとことは御承知の通に有之候、然るに此分房制の要義に關一てすら監獄管理者の腦裡に明確なる見解を缺くは寔に痛惜の至に御坐候、今日まで小生の聞き得たる所に依れは分房制實施の效果に關一當該官殊に典獄の云ふ所は殆んと異口同音に出て、何れも囚徒之か爲め

に苦み、隨つて懲戒に效ありとの事に有之候、此一言は極めて單純なるものには候得共全く分房制の本旨を誤解し隨つて又之を誤用せることは明かに徵證ー得らるへくと存ー候、畢竟、分房制の要義は罪惡の浸染傳播及ひ增大を防遏するに過ぎずーて謂はゝ消極的の効驗あるものに有之候、若ー囚徒之に苦むか故に效驗ありと云はゝ是れ分房制を以て一種の懲罰法と爲すものにして分房制の本旨と相去ると天淵も啻ならずとも可申歟、勿論此れは唯分房制に關する些細なる一例に過きす候得共唯此一事を以てーても、分房の外形を具ふる丈にて其精神ハ未だ全く乘り遷らさるものと斷定ー得べくと存ー候

監獄に關する諸般の事項を仔細に吟味するときは此類の誤謬甚だ多く前途のため轉た杞憂に堪へさる次第に御坐候、畢竟監獄の學理未だ判明ならず、又は既に判明なるも之を實施するゝ當り能く咀嚼融液せさるの致す所に外ならずと存候。元來理論と實際とは決ーて相背馳するものに無之、若し枘鑿相容れさるが如きことも有之候はゝ是れ其理論自身の正確を缺くか又は應用其宜ーさを得さるか、二者必ず其一に居るべき筈に有之候。今日監獄の實況果ーて前段例示ーたるか如きものに候はゝ今の時に當り監獄の精理を闡明すると同時に之が應用の次第を說示ー監獄管理の當局者を指導するは最も必要の事業に可有之存候貴著は殊に此の點に注意せられ監獄學の名を以て管理術の實を兼ねられ候は小生の最も喜ふ所に御坐候敬具

明治二十七年七月十日　久米金彌

岳洋詞兄

例言

一監獄行刑の理術は刑法民法等と同一く法學系統に屬する專門的一科學として研究するの價直及ひ必要あるものあることは獨り著者の私言なるのみならず泰西文明の諸國は大概ね既に取つて之を實行し法科大學中特に之れか爲めに一の講坐を設けあるもの亦た尠からず治獄の事斯くの如くにして始めて改良進歩の實効を奏し犯罪を防滅し治安を保維する所以の作用も亦た此に其の全さを期待するを得へし甚しい哉此學の尚ほ未た我國に明らかならさるや世の法曹を以て任し先覺を以て許るす所の者にして尚ほ且つ之を等閑に付し或は之を以て刑法附帶の一部而かも娯樂的好奇心を充たすの瑣

明治二十七年七月十日　久米金彌

岳洋詞兄

例言

一監獄行刑の理術は刑法、民法等と同一く法學系統に屬する專門的一科學とーて研究するの價値及ひ必要あるものかることは獨り著者の私言なるのみならず、泰西文明の諸國は大概ね既に取つて之を實行ー法科大學中、特に之れか爲めに一の講坐を設けあるもの亦た尠からず、治獄の事、斯くの如くにーて始めて改良進歩の實効を奏ー犯罪を防滅ー治安を保維する所以の作用も亦た此に其の全きを期待するを得へー、甚ーい哉此學の尚ほ未た我國に明らかならさるや、世の法曹を以て任ー先覺を以て許るす所の者にーて尚ほ且つ之を等閑に付ー或は之を以て刑法附帶の一部、而かも娯樂的、好奇心を充たすの瑣

事と見做し甚しきハ則ち庸人俗吏の主務に一任すへき
閑事業なりと思料するもの比々殆んと皆ゐ是れならさ
るはなし況んや夫の滔々たる衆愚に於てをや忽ち監獄
改良の聲を聞て驚駭し或は反て之れか爲めに罪囚を增
加し治平を擾亂するの階を爲くるものなりと盲斷し或
は俗人の所謂自主自由の妄權を振張し漫に放縱遊佚を
寛恕する所以の道を啓くものなりと速了するに至らし
むること抑も亦た偶然に非さるゐり浩嘆に堪ふへけん
や

一本書題して監獄學と云ふ敢て此の高遠深奥ゐる監獄行
刑の理術を科學的に研究述作したるものゐりと云ふに
非す然れとも著者下愚自ら量らす此學の講せさるを痛

んて竊かに之を發明するに志あり少くも請自愧始焉の
顰に倣ひ後の識者をして大ゴ此に奮志激勵する所あら
しめ扶持砥礪終に以て恰かも白日の雲霧を開くか如く
豁然として大に此學の闡明せらるゝに至らんことを期
するの微衷は正しく本書に據つて表彰し得られたるへ
きを信す著者の希望する所また實に此に外あらさるな
り

一著者か本書の起稿に從事せんと欲するの意思を決した
るハ決して一朝一夕のことに非す拙著日本監獄法講義
の緒言に曰く

前略著者此に慨あり微力自ら揣らす公務の餘暇を以
て監獄學と題する一書を編纂せんと欲するの意思を

決し稿を起すこと既に數十葉云々

と然り、啻たに起稿の意思を決したるのみならず、其の幾分の端緒は今を距る四五年以前に於て既に之れに着手せり、然るに、身事動もすれは輒ち意の如くなる能はず、況んや淺學の身、疎懶の性、研究するに從つて益々深奥、及ふへからさるを感し、着手するに從つて愈々難澁堪ふへからさるを覺え到底、駑才予か如きものゝ企つへからさる大事業なるを嘆し惘然として筆を投したるもの前後、幾回あるを知らず、偶ま恩人清浦奎堂先生、歐洲の觀光を終へて歸朝せられ其の齎らし歸へる所の獄事關係の新刊書數部を惠贈し併せて大に著者の素志を激勵せらるゝ所あり、退いて先生の厚誼を謝し進んで斯道の前途を懷

ひ終に淺學を憚らず、疎懶を矯め、奮つて益々此の事業の完成を期するの必要を感し、潛心、先つ惠賜の書籍に就て研究を凝らしつゝあるに當り、繆つて實務操縱の現職に轉任せしめらるゝに會し、幸に理術、並らひ併せて一層大に練修を遂くるの便宜を得、研修の結果、聊か自ら得る所あるを信し、此に復た稿を改めて本書の述作に從ふことゝなりぬ、爾來營々或時は夜を徹し或時は病を冒し、斯くの如きもの凡そ六閲月、幸に公務に欠くる所なくして終に不完全あからも本書の成功を見るを得たり、迂濶疎謬の譏は固とより自ら甘んする所なりと雖も唯た著者精勵未た足らず十年、尚ほ此學に於て舊阿蒙たるを免かれさるは師友諸氏に對して深く慚悚の至りに堪へさる所

なり

一、穂積陳重、クローチ、ダルケ、ゲンツメル、ホルツエンドルフ、ヤーゲマン、ゼーバッハ、小原重哉、ウルフ、小野田元熙、スタルケ、ベルチル、リスト、清浦奎吾、ベール、ペーメ、エーゲルト、等諸氏の監獄及ひ刑法に關する著書若くハ論文は本書述作の際に於て最も參考の惠を蒙むりたるものなりとす、殊に叙次の體裁は殆んと全くクローチ氏所著の監獄教科用書の範に基つき筆法、亦た氏に摸倣したるもの甚た多く交ふるに先師ゼーバッハ先生を祖述したる所尠からす、著者、修學の系統を知悉せらるゝ者、必すしも深く之を怪まれさるへしと信す、唯た夫れ本書、立論の基礎とする所、本邦現行及ひ將來に於て焦眉の改正を望む所の監獄制度にあるか故ゝ往々に」て脱體融化の妙を失し、支牾干格、所謂竹に木を接くの不體裁あるを免かれさるのことは偏へに賢明なる讀者諸氏の寛容を請ひ適宜、其の自ら取捨せらるゝ所あらんことを希ふに外なさなり」

一、著者か直接に得たる監獄學上の智識は先師ゼーバッハ先生の惠に賴るもの最も多しとす、今や偶然にも先生墳墓の地に來つて本書の述作に從事す、先生在天の靈、筆硯の間に髣髴として庇護を加へらるゝ所あるを覺へしも、の啻たに一再のみに非す、先生尚ほ若し健在せられ本書述作に就て親しく其の命提を承くることを得たらんには砥成の功、何んそ唯た此に止まらんや中心、焚くか如きの情、偏へに讀者諸氏の矜察を望む

一、ゼーバッハ先生曾て拙著日本監獄法講義に序して曰く

前畧斯くの如き方法を以て囚人の心性を改良感化すること實に行刑の要務たり然れとも亦た能く此の要務を盡すと決して容易の業に非す、充分、行刑の要領を理解したる有識の司獄官、其人を得るに非すんは輒ち能はさるなり

本書は即ち司獄官をして充分に行刑の要領を解得せしめんとするの目的を以て之を編著したるものとす

云々

と然り本書監獄學の目的とする所また此にあり少くも之れに據つて我か同僚監獄官諸氏と共に大に相講求切劘する所あらんと欲すること實に著者の最も切望して

止まさる所あり諸氏若し著者の爲めに高教を吝まるゝことと勿くんは幸亦甚矣

一、又曰く

然れともまた本書編纂の目的い敢て此の狹範圍に止まらす官と民とに論なく普く世人をして行刑の主義方法のある所を知得せしめんと欲するにあり

大に監獄の改良進歩を企圖し益々犯罪防遏の大事業を完全せしめんとならは社會も亦た宜しく其責任の一部を負擔せさるへからさるなり云々

と本書普及の範圍を同僚以外、博く社會官民の間に擴張せしめんとと實に著者の熱望して止まさる所なりと雖も是は到底言ふへくして行ふへからさるの難事たるを

如何んせん、若し夫れ僥倖にして責めて世の先覺を以て任じ法曹を以て許るす所の有數の人士間にありとも本書の普及を見るを得は豈ゝ獨り著者の光榮のみあらんや

明治二十七年六月　小河滋次郎識

監獄學目次

第一篇　總論
第一章　監獄ノ沿革
第一節　古代　一丁
第二節　中古　六丁
第三節　監獄改良ノ開始　二十三丁
第四節　近世及各國ニ於ケル獄制改良ノ現況　三十一丁
第五節　日本帝國ニ於ケル近世獄制改良ノ沿革　五十丁
第二章　犯罪及刑罰　七十一丁
第一節　犯罪者

第二節　犯罪　七十六丁
第三節　刑罰　八十丁
第四節　刑罰ノ種類　八十六丁
第五節　自由刑ノ種類　八十八丁
第六節　附加刑　百四丁
第七節　財産刑　百十二丁
第八節　名譽刑　百十五丁
第三章　行刑法　百十七丁
第一節　雜居制　百十八丁
第二節　分房制　百二十六丁
第三節　階級制　百三十六丁
第四節　假出獄　百四十丁
第四章　犯罪ノ豫防　百四十六丁
第一節　出獄人保護事業　百六十五丁
第二節　救貧及教育事業　百六十七丁
第三節　警察　百六十八丁
第五章　監獄構造法
第一節　總論　百七十四丁
第二節　監獄構造ニ關スル一般ノ原則　百八十四丁
第三節　分房制大監獄ノ構造　百八十九丁
第四節　監房ノ構造　百九十三丁
第五節　拘置監　百九十四丁
第六節　留置場

第七節　懲治場　百九十五丁
第八節　結論　百九十六丁
第六章　監獄管理法
第一節　監獄ノ定義及其種類　二百丁
第二節　中央監獄及地方監獄附監獄費國庫支辨ノ理由　二百十三丁
第三節　監獄官吏　二百二十一丁
第四節　官吏採用法　二百二十七丁
第五節　看守教習法　二百三十丁
第六節　俸給及給助　二百三十五丁
第七節　監獄官吏ノ職務　二百四十三丁
第八節　監獄官吏ノ一般義務　二百七十五丁

(甲)　服務紀律　仝　丁
(乙)　服制　二百八十丁
(丙)　懲戒　二百九十四丁
第九節　精勤證書及休暇　二百九十六丁
第七章　監督權ノ所在
第一節　最上監督權ノ所在　二百九十七丁
第二節　直接監督權ノ所在　三百十三丁
第二篇　各論
第一章　收監
第一節　收監ノ手續　三百十九丁
(甲)　收監ノ要件　三百二十一丁
(乙)　收監拒絶ノ理由　三百二十七丁

第二節　收監者取扱手續　三百三十一丁
第二章　在監人檢束法　三百八十六丁
第三章　戒護官吏勤務法　四百十一丁
第四章　遇囚法　四百三十三丁
第五章　懲罰　四百六十六丁
第六章　賞譽　四百九十八丁
第七章　書信及接見　五百十二丁
第八章　監房訪問　五百四十四丁
第九章　釋放
第一節　釋放ノ事由　五百五十五丁
第二節　釋放取扱手續　五百六十四丁
第三節　假出獄施行手續　五百七十八丁

第四節　免幽閉(特赦及大赦　五百九十三丁
第五節　免刑及押送手續　五百九十八丁
第六節　死亡手續　六百七丁
第七節　宅預及病院送致　六百二十一丁
第十章　作業
第一節　作業ノ旨義　六百二十六丁
第二節　作業施行法ノ種類　六百三十三丁
第三節　作業ノ種類　六百六十一丁
第四節　使役法　六百六十八丁
第五節　工錢　六百八十八丁
第十一章　給與
第一節　食料　七百二丁

第二節　被服及臥具　七百四十五丁
第三節　清潔法　七百五十二丁
第十二章　衛生
第一節　病者處遇法　七百五十九丁
第二節　精神病者處遇法　七百六十九丁
第三節　監獄醫ノ職務　七百七十一丁
第十三章　會計　八百六丁
第十四章　教誨
第一節　教誨ノ主義及方法　八百五十五丁
第二節　教誨師ノ職務　八百六十四丁
第十五章　教育　八百七十七丁
第十六章　書籍　八百八十二丁

第十七章　監獄統計　八百九十四丁
第十八章　補遺
第一節　女監取締ノ職務　九百九丁
第二節　押丁ノ職務　九百十七丁
第三節　授業手ノ職務　九百二十七丁
第四節　用達契約事項　九百三十四丁

監獄學

小河滋次郎著

第一篇　總論

第一章　監獄ノ沿革

第一節　古代

獄制ハ刑法ト形影相伴ヒ表裏相對スルノ關係ヲ有ス、故ニ獄制ノ沿革ハ一ニ刑法ノ歴史ト其發達ノ歩武ヲ同フスヘキコト事理ノ當サニ然ラシムル所ナリ、人衆相聚ツテ此ニ社會ヲ結ヒ國家ヲ成ス、社會アレハ則チ此ニ政令アリ、法令ノ存スル所之レカ制アリ國家アレハ則チ此ニ刑罰ノ必要アル所ナカルヘカラス、是レ則チ刑罰ノ必要アル所ノモノ禁治スル所ノモノ以ニシテ何レノ世何レノ時カ刑罰ナクシテ能ク法令ノ威信ヲ保チ効果ヲ全フシ因ツテ以テ社會國家ノ治平ヲ保全シ得ヘケンヤ、史ニ曰ク神武天皇即位ノ年、罪名若干條ヲ定メ其輕重ニ從ヒ贖物ヲ徵シ其ヲシテ神明ニ誓テ拔除シ惡ヲ去リ善ニ遷ラシム若其元惡大憝怙終悛ムル

ナキモノハ物部氏ニ命シ之ヲ戮セシム又崇神天皇即位ノ十年武埴安彥出雲振根ヲ誅シ履中天皇即位ノ元年仲皇ノ謀反ヲ平ケ其黨阿曇連、濱子等ヲ捕フ其罪死ニ當ス特ニ詔シテ死ヲ宥メ之ヲ黥シ從タルモノハ役使ニ供スト。支那ニアッテハ舜典、唐虞ノ呂刑周穆王刑法秋官周ノ刑法等唐虞三代ノ時ヨリ既ニ刑典ノ粲然トシテ備ハルアリ舜ハ四凶ヲ罰スルニ當テ鯀ヲ羽山ニ殛シ桀紂ハ炮烙ノ虐刑ヲ行ヒ戰國ノ世ニハ湯鑊ノ刑ヲ用フ。又太古、水草ヲ沙原ニ逐フテ轉々漂泊セシ所ノイスライル人モ夙ニ既ニ十章ノ禁令ヲ有シ羅馬、亞典ニ於テハ史上、歷々トシテ刑制ノ見ルヘキモノ尠カラス。刑アレハ此ニ之レカ主體即チ犯人ノ身體ヲハ其目的ヲ達スルマテノ幾何時間、拘收禁治スル或ル一定ノ場所ナカルヘカラス故ニ縱令ヒ史ニ明記スル所ナキモ振古草創ノ世ニ在テ刑制ノ存在ト共ニ既ニ監獄、少クモ其嫩芽トシテ見ルヘキモノヽ設備アリシコト推知スヘキナリ。

"政ヲ亂リ治ヲ害スル所ノ者、(犯罪人)即チ是レ社會ノ讎敵ナリ之ヲ誅戮スル爲メニハアラユル方法手段ヲ以テセザルベカラストハ古代一般ニ行ハレシ所ノ法想ニシテ未タ曾テ"社會モ亦タ犯罪ニ"對シテ責務ヲ有スト"ノ觀念ニハ想ヒ到リシコトアラサルナリ、是ヲ以テ一タヒ罪ニ決スル所ノ者ハ其生命身體及ヒ財產ヲ擧ケテ盡ク之ヲ國權カ刑罰ノ目的ヲ達スル爲メノ犧牲ニ供シ其間ニ於テ亦些ノ個人的ノ權利及社會的諸般ノ事情ヲ顧慮斟酌スル所アラサルナリ、故ニ死刑、肉刑、體刑、追放、加辱、罰金、奴役、等ハ即チ當時ニ於ケル刑罰ノ種類ニシテ東西殆ント其軌ヲ同フスルモノヽ如シ"刑"ハ聖賢君子ノ道ニ非ス"人"ヲ殺スコトヲ嗜マサル者能ク天下ヲ一ニセン"孟子"トノ格言ノ行ハレシ支那ニ在ッテモ所謂殺、一生、萬懲、前戒、後ノ主義ニ基キ周以前ノ五刑ト稱スル墨、劓、剕、宮、大辟ト稱スル所ノモノハ凡ベテ皆死刑又ハ肉刑ニアラサルハナシ、此他尙ホ刵ト稱シ朴ト稱シ髡ト稱シ或ハ鉗或ハ梏或ハ桎或ハ流或ハ贖刑ト稱スルモノハ何レモ皆唐虞ヨリ三代ノ末ニ至ルマテ行ハレシ所ノ刑ノ種類ニシテ現ニ又唐虞ノ代ニハ三苗ノ主、慘刻ナル刑ヲ作テ

古代ニ於ケル刑罰ノ種類

民ヲ苦シメタルコト書（尚書呂刑）ノ記スル所ニ由テ明カニ、或ハ炮烙ノ虐或ハ湯鑊ノ慘要スルニ前謂フ所ノ犯人ノ生命、身體及ヒ財産ヲ舉ケテ國櫂ノ犧牲ニ供セシムルノ旨義ニ出テタル手段ニ非サルハナク降テ漢ノ世、文帝カ淳于意ナル者ノ女ノ孝ニ感シテ墨、劓、剕、宮等ノ肉刑ヲ除キタリト稱スル以來モ笞、杖、徒、流、死（五刑ト稱ス）又ハ贖等、因革損益アリト雖モ相襲テ以テ後世ニ到リ歸スル所終ニ死刑、體刑又ハ財産刑ノ範圍ヲ出ツルナシ。我國ニ在ツテモ亦タ刑史見ハルヽ所略ホ各國ト其轍ヲ等フスルモノヽ如ク大寶律（文武天皇大寶元年）貞永式目（堀川天皇貞永元年）等ヨリ降テ德川氏ノ制法ニ至ルマヲ大概唐代以後ノ律令ニ因テ取捨スル所多ク從テ其刑名ノ如キモ別ニ特色ノ見ルヘキモノアラサルナリ

古代ニ於ケル監獄ノ性質

古代ニ於ケル刑ノ種類ハ各國ヲ通シテ大概上來列記スル所ノ如シ故ニ監獄モ亦タ當時ニ在テハ唯ダ犯罪刑事上審問ノ爲メニ或ハ取締ノ爲メニ或ハ之レカ畏嚇ヲ過重スルカ爲メニ犯罪者ヲ拘禁シ若クハ之レニ對シ其一時ノ結局ヲ付クルガ爲メニ必要トセシ機關タルニ過キス。所謂地ヲ劃シテ獄ト爲ス民仍ホ之ヲ恐ルノ類ニシテ其目的ノ單純ナルカ如ク其組織ノ如キモ亦タ極メテ粗笨簡略且ツ荒敗ナリシコト論ヲ俟タス監獄ナル用語、羅甸語ニテ「カルセル」Carcer ト稱シ瑞典語ニテ「ヘクタ」Häkta ト稱シ獨逸語ニテ「ケルケル」Kerker 又ハ「ゲフエングニス」Gefängniss ト稱シ何レモ人蓄ヲ捕擒若クハ繫留スルノ文辭ヨリ轉化シ來リタルモノナルヲ以テモ知ルヘキナリ（宰屋ノ宰ノ字義ハ閑養犬馬圈也トアリ東西其轍ヲ同フスルヲ見ルベシ）是ヲ以テ多クハ監獄トシテ特ニ設備シタル一定ノ建物アルニ非ス或ハ宮殿、廳舍、寺院若クハ塔宇ノ一隅ヲ以テ之レニ宛テ或ハ荒倉敗艦ヲ以テ之レニ供シ甚シキハ土窖獸檻ノ類ヲ以テ之レニ供充ス其事況ノ溷濁慘怛、小說稗史ヲシテ常ニ監獄ヲ以テ材料ノ實庫視スルニ至ラシメタルコト亦タ怪ムニ足ラサルナリ。

監獄ナル用語ノ由來

古代監獄ノ事況

國史、聖武天皇ノ十三年、車駕京中ヲ巡幸シ賜ヒシニ偶々獄舍ノ前庭ニ於テ囚徒ノ悲吟號叫スルヲ聞シ召シ痛ク大御心ヲ腦マセラレタルコトアルヲ記ス亦タ以テ悲慘ノ一班ヲ想像スヘキナリ試ミニ獄史、（エペルチ）

（ヒ氏著監獄沿革史）載スル所ノ印度ニ於ケル埃及ニ於ケル將タ希臘羅馬其他ノ泰西諸國ニ於ケル古監獄ノ實況ヲ閲讀スルトキハ實ニ人ヲシテ慄然魂悸ノ想ヒアラシム

セルビウス、トリウス王、獄ヲ羅馬ニ建テ（此獄ヲトリヤヌームト稱ス）國安ヲ維持スルガ爲メニ王命（マギストラート）ニ背ク所ノ不逞ノ徒ヲ捕ヘテ此ニ監禁シ或ハ有疑者ニ對シテ其決定ニ至ル迄ノ間此ニ拘留シ或ハ又一私人ノ債權者ヲシテ債務者ヲ繫拘スルノ場所タラシム、獄ハ則チ地ヲ堀ルコト深サ十二尺光、入ルナク氣、通セズ異臭鼻ヲ撞キ沍寒堪フヘカラス、飲食、亦タ以テ飢渴ヲ防グニ足ラス王、ユウゲルタ及名將、レンタルスハ即チ此獄ノ犧牲トナリテ終ニ其身ヲ畢フルニ至ル（羅馬當時ニ於ケル獄吏ノ株ハ實ニ巨万ノ額ヲ以テ賣買セラレタリト謂フヲ以テ之ヲ見ルモ其實況ノ如何ニ慘酷ニシテ、又之ヲ逆ガレンガ爲メニ如何ニ厚ク獄吏ニ賄ヒセシヤヲ知ルヘキナリ）

第二節　中古

嗣后、基督教ノ盛行ニ伴ヒ幾分カマタ監獄內部ノ改良ヲ促ガスニ至リシト雖モ然カモ尙ホユースチニヤン帝政ノ時代ニ至ツテモ監獄ハ刑ノ用ヲナスモノニ非スシテ唯人ヲ拘繫監視スルノ場所タルニ止マリシコト、ウルピヤン（ユースチニヤン帝ノ時代ニ於ケル有名ノ法律家）ノ言ニ據ツテ證スベキナリ尤モ同帝時代ニ在ツテハ監獄モ亦宗教、哲學等開發ノ餘惠ヲ受ケ一面ニハ獄吏、暴虐ヲ逞フスルノ弊ヲ矯メ一面ニハ罪囚、不幸ニ沉淪スルノ苦ヲ矜レミ或ハ獄舍ヲ改修シテ男女ノ區劃ヲ立テ或ハ僧侶ヲ派遣シテ安心立命ノ福音ヲ聽受セシムル等其監獄ノ面目ヲ更新スルニ至リタルコト決シテ少小ニアラザルナリ

羅馬民族ノ間ニ行ハレシ所ノ刑法ハ其始メハ總テ復讐ヲ以テ主義トナシ被害者及ヒ其親族ニ於テ刑罰ノ權ヲ掌握セリ而シテ其被害者ナルモノハ或ハ一私人タリ或ハ社會公共タリ、被害者、一私人ナルノ場合ニ於テハ私約ノ體裁ヲ以テ加害者ヲシテ其犯罪ヨリ生スル所ノ損害ヲ賠償セシメ若シ果サヾルトキハ則チ此ニ始メテ公力ヲ要請ス損害賠償ノ額ハ被害者ノ身分ニ從ツテ著ルシク差等アリ賠償ノ資力ナキモノハ則チ之ヲ拘致シテ奴僕トナシ生殺ノ權ハ則チ一ニ擧ゲテ主人ノ

羅馬刑法ノ主義

手裡ニ歸セシム、被害者、社會公共ナルノ場合ニ在ツテハ直チニ公力ヲ以テ加害者ニ對シ或ハ其生命ヲ絶チ或ハ其身體ヲ殘害若クハ追逐ス、是ヲ以テ羅馬民族ニ於ケル刑ノ種類モ同シク亦タ死刑、收贖、追放、體刑等ノ範圍ヲ出テスシテ監獄ハ則チ未ダ一モ刑罰トシテノ性質ヲ具有スル所アルニアラサリシナリ。厥後、羅馬帝政ノ勢力漸ク擴張シ法制ノ

羅馬刑法主義ノ一變

コト亦タ次第ニ發達進歩スルニ從ヒ復讐的刑罰ノ私權ハ終ニ全ク消亡シテ國家ニ移リ其主義モ亦タ一變シテ畏嚇ヲ以テ根據トナシ爾來相承襲シテ以テ中世、羅馬法系統ニ屬スル歐洲各國ノ刑法ノ基礎ヲナス、ニ至レリ、然レモ刑ノ種類及其執行法等ニ就テハ敢テ復讐時代ノ當時ニ於ケルモノト異ナルナク寧ロ監獄內部ノ慘怛殘虐ナルコトニ於テハ彼ノトリヤヌーム時代ニ於ケルモノニ比シ或ハ一層ノ甚シキヲ加ヘタルモノヽ如シ英、佛、獨逸等ニ於ケルモノ皆ナ然リ

トリヤヌーム時代ニ於ケル監獄ノ慘ハ磔刑ノ慘ヨリモ慘ナリト是レ蓋シ刑罰ノ畏嚇主義ニ基クノ致ス所ナリト謂フベシ

グロ―チ氏曰ク"中世ニ於ケル我國ニ在ツテハ大寶律令文武天皇以降四獄ノ制稍々完備スル所アリ男ハ女ト其居所ヲ峻劃シ或ハ老幼、產婦等ノ散禁ヲ許ルシ或ハ有司ヲ派シテ治獄ノ狀況ヲ視察セシメ給養欠クル所ナク病故ハ則チ厚ク之ヲ收療スヽサレハ制度ノ上ニ就テハ上來、記述スルカ如キ泰西諸國ノ獄制ニ比シ遙カニ凌駕スル所アルモノヽ如クナリト雖モ其實況ノ如何ハ考證ノ據ルヘキモノナキヲ以テ今姑ラク此ニ疑ヲ存セサルヲ得ス唯タ夫レ刑ノ種類ニ至テハ我國ニ於ケルモノモ亦タ羅馬民族ノ間ニ行ハレシモノト殆ンド其軌ヲ同フスル所アルニ據ツテ之ヲ見レバ其主義ノ變遷及獄制ノ實況等ニ關シ彼レニ就テ論スル所ノモノハ推テ以テ略ボ之ヲ我レニ及ボスヲ得ヘキナリ

刑ハ畏嚇ヲ以テ唯一ノ目的トナス故ニ其種類ノ如キモ亦タ前記スルカ如ク單ニ生命若クハ身體ヲ殘害スルモノニ止マリ酷虐、至ラサルナク暴戾、只タ及ハサランコトヲ是レ恐ル、然ルニ顧ツテ一方ヲ見レハ啻ダニ犯罪ノ減少スルニ至ラサルノミナラズ反ツテ益々其增加ヲ見ル

ニ至ルノ傾向ヲ致シ終ニ時ノ有識者ヲシテ畏嚇主義ノ治世ニ益ナクシテ反ツテ世道人心ニ惡影響ヲ及ボスノ弊アルヲ認識セシメ此ニ始メテ漸ク刑罰主義ノ一新路ヲ開クノ緒ヲ見ルニ至レリ顯理第八世ノ治下ニ於テ犯罪者ヲ誅戮スルモノ其數實ニ七万二千有餘ノ多キニ及フト稱ス然カモ犯罪者ハ唯ダ益々增加スルノミニシテ曾テ毫モ減少アルヲ見スル

刑罰主義ノ一新路

何ヲカ刑罰主義ノ一新路ヲ開クノ端緒ト云フ曰ク(第一)道義的思想即チ唯タ誅戮是レ事トスルハ世道ノ旨趣ニアラス宜シクマタ懲戒感化シテ社會有用ノ良民ニ復歸セシムベシト謂フノ思想即チ是レナリ尤モ此思想ハ敢テ後世ニ至テ新タニ創始セラレタルモノニ非ス古哲プラトニ既ニ曾テ之ヲ明言シ殊ニ博愛懺悔ヲ以テ要旨トスル基督教ニ於テハ熱心且ツ剴切ニ此主義ヲ說示スル所アリ東洋古聖賢モ亦タ此ニ論及スルモノ少カラス而シテ實際亦タ古代ニ於テハ往々此思想ノ刑事上ニ表顯シアルモノヲ見ルト雖モ中世反ツテ全ク之ヲ中絕スルニ至リタルモノヽ如シ故ニ寧ロ古代思想ノ此ニ復興ヲ見ルニ至リタルモノナリト謂フノ適當ナルヲ信ス

(第二)經濟的思想即チ漫ニ有用ナル人力ヲ滅絕セシメンヨリハ寧ロ之ヲ自由剝奪ハ下社會公益ノ爲メニ使役スルノ利ナルニ如カサルナリト思想即チ是レナリ而シテ此思想モ亦タ敢テ新奇ナルモノニ非ス埃及希臘羅馬等ニアツテハ既ニ夙ク罪囚ヲ採礦ノ業ニ役シ支那ニ於テモ周以前ニアツテ既ニ刑人ヲ監門監宮等ノ役ニ使ヒ降テ又唐代以後ニ在テハ徒刑ノ囚ヲ鐵冶ニ使役スルノ規程アリ佛國ニルンベルヒ、ゲヌア等ニ在ツテハ或ハ舟夫トシテ船艦ニ役シ或ハ街路改修ノ勞役ニ從事セシメ尙ホ中世以降ニアツテハ各國ノ間盛ンニ罪囚ヲ奴隸トシテ賣買セシ等ノコトアルヲ見ル但シ是等古代若クハ中古ノ罪囚ニ對スルノ勞役ハ近代所謂自由刑ト稱スルモノトハ全ク其性質ヲ異ニシ彼レニアツテハ即チ唯タ罪囚ヲ拘繫シテ以テ社會ヨリ離隔セシメ勞役ヲ加ヘテ而シテ益々畏嚇ノ度ヲ層嚴ナラシメント欲スルノ目的タルニ外ナラザリシナリ

道義的及ヒ經濟的思想ノ發達シタル結果トシテ兼テ又必要的理由(第三)ノ之ヲ促カセシモノアリシガ爲メニ此ニ始メテ所謂自由刑ナルモノ、嫩芽ヲ發シ之ヲ以テ漸次幾分カ彼ノ死刑若クハ慘虐ナル體刑適用ノ範圍ヲ縮少スルニ至レリ必要的理由トハ即チ時恰カモ歐洲ニアツテハ兵馬倥偬ノ兵亂ノ餘ニ際會シ漂泊浮浪ノ徒到ル所ニ出役シ漂竊跳梁ノ害ヲ逞フスルモノハ其數擧ケテ算スベカラス始メハ嚴刑酷罰ヲ加ヘテ之ヲ驅逐セシモ從テ制スレハ從テ起リ終ニハ絞臺ニ用フル材木及ヒ捕繩ニ供スル麻苧ニ欠乏ヲ告グルニ至リ亦タ以テ盛ンニ死刑及體刑ヲ用フルニ由ナカラシメタルコト即チ是レナリ

西班牙ニ於テハ浮浪者ニ對シ初犯ハ其耳ヲ截リ再犯以上ハ之ヲ絞ス英國(千五百七十年乃至千五百九十七年ノ法律)ニ於テハ浮浪者ヲ罰スルニ笞杖(肉ヲ破リ血ヲ流カスニ至ル)切耳絞首等ヲ以テシ獨逸ニ在ツテハ初犯ハ之ヲ國境外ニ追逐シ再犯以後ハ或ハ之ヲ縣市シ或ハ之ヲ笞杖シ重キハ即チ之ヲ絞ス、然カモ啻タニ以テ浮浪者ヲ減少セシムルニ至ラザリシノミナラ

懲役監ノ創設

ス反ツテ益々其數ヲ加ヘ其害ヲ多カラシムルニ至リタルコト各國皆ナ然ラサルハナシト云ヘリ

是ニ於テ即チ歐洲二三ノ國ニ在ツテハ始メテ懲役監ナルモノヲ創設シ恒產定業ナクシテ漂々流浪スルノ徒ヲ收禁シ嚴正ナル紀律至難ナル勞役ノ下、秩序的生活ニ馴致セシムルノ必要ヲ感シ英國ニ在ツテハ即チ千五百五十年首都倫敦ニ懲役監(House of correction)ヲ建設シ浮浪者、賣淫婦及ヒ遊惰者ノ徒ヲ集禁シ又ニルンベルヒニ在ツテハ千五百八十八年、病院ヲ改造シテ懲治監トナシ以テ乞食ノ幼者及ヒ遊惰ノ婦女ヲ閉禁スル所トナセリ是等ハ即チ近世所謂自由刑執行ノ場所タル監獄ト略ホ其性質ヲ同フスルモノニシテ此ニ始メテ刑ノ目的トシテ新タニ矯正感化ノ一ヲ加フルニ至リタルノ事實ヲ徵スベク又近世所謂監獄ノ嚆矢トシテ之ヲ見ルヲ得ベシ後チ幾何モナクシテアムステルダムニリウベックニ又ハンブルグニ相續テ懲役監ヲ創設セリ而メ其目的及ヒ組織ニ就テハ各々多少ノ差異アリト雖モ要スルニ浪々產ナク漂

々賴ル所ナキ遊民ヲ懲治矯正シテ終ニ以テ秩序アル良民的生活ニ復歸セシメント欲スルニ至ツテハ即チ一ナリ殊ニ其アムステルダムニ於ケル懲役監ノ如キハ實ニ彼ノ所謂先ヅ之レニ恒産ヲ得セシメヨトト云フノ原則ニ基テ組織セラレタルモノナルコト瞭然タリ

前項記スル所ノ懲役監若クハ懲治場ナルモノハ始メハ尙ホ未ダ一ノ警察的救育保護ノ場所タルニ過ギザリシモ後ニ至ツテ窃盗其他ノ犯罪ニテ既ニ笞杖、鞭墨、梏桎等ノ體刑ニ處セラレタル刑餘賴ルナキ所ノ罪囚ヲモ拘禁シ終ニ暝々ノ間ニ此種ノ場所ニ監禁役使スルコトヲ以テ一ノ刑罰ノ如クニ變遷進化セシムルニ至レリ蓋シ當時ニ在ツテハ一般ニ司法ノ制未ダ確立セズ行政取締ノ權域極メテ廣大ナリシヲ以テ容易ニ斯カル顯象ヲ見ルニ至リシコトナリト信ズ我國幕政時代ニ於ケル石川島寄場等ト稱セシ所ノモノハ刑餘無籍ノ遊民ヲ收禁スル所ニシテ其性質恰カモ歐洲中世ニ於ケル懲役監等ト髣髴タリ

斯クテ社會ハ博愛慈善ノ主義ニ感化セラルヽコト漸ク深ク次第ニ生命及身體刑ノ慘ヲ厭フノ情ヲ生ジ道義的及宗教的懲治矯正ノ反ツテ犯罪防遏ノ道ニ適スルノ感想ヲ起スモノ益々多キヲ加ヘ自由刑ノ前途愈々多望ナルノ機運開ケ一方ニハ又羅馬法王ヲ始メ有力ナル博愛慈善ノ有志ニシテ私費ヲ投ジテ諸種ノ監獄ヲ創設スルモノ少カラス監獄ヲ以テ獨リ國家ノ事ニ放任セズ又慈善的公共事業トシテ社會モ亦タ汎ク其費ヲ盡スヘシトノ新思路ヲ開クニ至レリ

斯クテ歐洲開明諸國ニアツテハ十七世紀ノ末ヨリ十八世紀ノ末ニ至ル迄ノ間殆ンド到ル所競テ或ハ國家ノ公費ヲ以テ或ハ慈善家ノ私費ヲ以テ懲役監勞役場等各種ノ監獄ヲ創設セサルハナキノ傾嚮ヲ呈スルニ至リシカ然カモ彼ノ脅嚇主義ノ根底ハ社會ノ地基ニ入ルコト甚タ深ク容易ニ以テ有力ナル司法行政當局者ノ頭腦ヲ開發スルニ足ラズ爲メニ自由刑モ亦タ實際ニ於テハ殆ンド生命刑若クハ身體刑ト相撰バザルノ狀況ヲ形成シ勞働ハ乃チ人力ニ堪フベカラザル所ノ苦役ヲ以テ之レニ課シ給養ハ乃チ以テ饑餓ヲ凌ガシムルニ難ク教誨ハ唯タ兒戲ト一般ナル儀式ニ止マリ曾テ以テ心性改良ノ效ヲ成サス衞生行ハレス規律立タズ老

幼房ヲ同フシ甚シキハ男女仍ホ席ヲ異ニセズ不潔醜猥實ニ現世ノ地獄界ヲ以テ名狀スヘキモノ比々皆ナ然ラザルハナシ試ミニ當時ニ於ケル重モナル二三邦國ノ監獄ノ實況ヲ記述シテ考證ノ資ニ供スル所アルベシ

中世ニ於ケル監獄ノ實況

英國

英國ニ於ケル當時ノ監獄ハ其目的及ヒ性質ノ甚ダ判明セザリシカ爲メニ大概未決者ト已決囚、犯罪人ト民事囚、乞食ト狂人、孤兒ト浮浪者トヲ同一獄舍ノ內ニ拘禁シ同一ノ看守者若クハ取締役ヲシテ不完全ナル規則ノ下ニ之ヲ管理セシメ或ハ往々ニシテ監獄ハ暴君汚吏ノ誤用スル所トナリ其已レニ便ナラザル者ヲ謂ハレナク捕禁スルノ場所ニ供セシメタルコト亦タ其例ニ乏シカラズ又千五百七十七年千七百三十年及ヒ千七百五十年ノ交ニ於テ監獄發生ノ疫癘ノ爲メニ社會無數ノ人命ヲ鋒シタル事例ヲ以テ之ヲ推ストキハ其當時ニ於ケル監獄內部ノ實況ノ如何ニ溷濁悲慘ナリシヤヲ想像スヘキナリ降ツテ十八世紀ノ下半期ニ於ケル監獄ノ狀況ヲ尋ヌルニ（ホワルド氏ノ報告ニ據ル）監房ハ即チ多クハ其位置、地層ノ下ニアリ室狹クシテ且ツ低ク空氣ノ流通極メテ惡ク光線ノ射入亦タ十分ナル能ハズ濕氣常ニ室內ニ滿チ甚シキハ水ヲ以テ床ヲ覆フモノアリ其給與スル所ハ唯ダ些少ノ麵麭ト水アルノミ其祭日等ニ於テ稀レニ肉ト粗製ノ麥酒ヲ給與スルモノアルハ僅カニ二三ノ監獄ニ過ギズシテ是レスラモ漸ク慈惠家ノ義捐ヲ仰グニ由ル、臥具ヲ給スルハ稀有ニシテ其偶マ之レアルモ半バハ既ニ腐朽シテ其用ヲ成サス冬季嚴寒ノ候ト雖モ毫モ室ヲ煖ムルノ備ヘアルニアラズ已未決、雜居シ男女ノ區劃スラ亦タ甚ダ峻嚴ナル能ハズ殊ニ其民事囚ノ如キハ獨リ妻子ノミナラズ時トシテハ又曖昧的婦女ノ携帶ヲ許ルシ往々ニシテ其數ノ反ツテ眞正ナル在監囚ノ員數ニ超加シタルノ奇觀ヲサヘ呈セシコトナキニ非ズ（キングスベンチニ於テハ在監囚三百九十五人ニ對シ其妻子ノ數、總計六百人ノ多キニ至リタル事例アリ）斯クノ如ク酷遇、至ラサルナク虐待、殆ンド其頂點ニ達スルノ景狀ナルカ故ニ此ニ拘繫セラルヽ所ノ者ガ如何ヲ能ク其健康ヲ保全シ得ベケンヤ氣息奄々トシテ僅カニ朝露ノ餘命ヲ保ツモノ

比々皆ナ是レナルハ固トヨリ其所ナリト雖モ然レモ亦タ其内部ニ於テハ言フベカラザル種々ノ弊風アリ善ク獄吏ニ賄スル者ハ優遇ヲ得ルコト亦タ難カラス所謂地獄ノ沙汰モ金次第、苟クモ金ヲ投ズレバ則チ求メテ殆ンド得サルモノナク甚シキハ長夜ノ宴ヲ張ツテ歌舞管絃ノ快ヲ極ムルコト亦タ敢テ異トナスニ足ラス、金力ノアル所、暴威亦タ之レニ加ハリ罪囚反ツテ獄吏ヨリモ強大ナル權勢ヲ有シ渠レノ眼中、獄則ナク又獄吏ナシ自由ニ自ラ獄則ヲ設ケテ自由ニ之ヲ執行ス、獄吏ノ職トスル所ハ即チ唯タ毎朝死屍ヲ取片付ケ(以テ獄舍ノ惨ヲ知ルヘシ)若クハ罪囚ノ命ヲ聊ンテ獄外ニ使スルカ如キコトニ止マルト謂フモ誣言ニアラズ其人物ノ汚鼻ナルコト知ルヘキナリ尤モ其當時ニ於ケル獄吏ナルモノハ一般ニ非常ノ薄給ニシテ或ハ全ク俸給ヲ與ヘザルモノアリシト言フヲ以テ之ヲ見レバ恰カモ旗亭ニ於ケル娼女ノ如ク凡テ贈遺ニ由ツテ生活スルノ止ム能ハサルノ事情モアリシナラン將タ或ハ始メヨリ贈遺ノ多キモノナルヲ以テ故ラニ之レカ俸給ヲ薄クシ又ハ全ク之レニ給與セザリシモノナラン歟實況、既ニ斯クノ如シ故ニ一言以テ之ヲ覆ヘバ當時ノ監獄ハ其實、糞溜ナリ、酒樓ナリ、遊窟ナリ、又犯罪養成ノ學校ナリ、未ダ以テ一ノ刑罰執行ノ機關トシテ犯罪ノ防遏ヲ目的トスルノ場所トシテ認ムベキ所アラザルナリ

佛國ニ於ケル監獄當時ノ狀態モ亦タ前記、英國監獄ノ狀態ト大差アルヲ見ス其パスチル若クハ王城内ノ監獄(時ノ主權者ガ其己レニ便ナラザル慨世愛國ノ志士ヲ拘禁シタル所)ハ姑ラク措キ通常ノ監獄ハ一般ニ皆ナ室房、狹隘ニシテ不潔、亦タ甚シク構造ハ極メテ脆弱ニシテ逃走頻々相續キ或ハ之レカ爲メニ殆ンド全監ヲ空虛ナルニ至ラシメタルコト啻ダニ一再ノミニ非ズ、給養、足ラズ紀律立タズ、富者ハ寛待セラレ貧者ハ即チ死苦ニ勝サルノ酷遇ヲ受クルヲ免カレズ殊ニ其舟夫刑ノ處分ヲ受ケテ船中ニ苦役スル所ノ者ノ境遇ハ悲慘實ニ言語ニ絶ヘ小過アレバ則チ痛ク之ヲ鞭撻シ再ビスレバ則チ斧鉞忽チ其頭ニ下リ死屍累々殆ンド之レカ爲メニ海底ヲシテ淺カラシメタリト稱ス

普國ニ於テモ彼ノ獄事改良ノ卒先者熱心家トシテ有名ナル時ノ司法大臣フヲンアルニ―ム氏ノ調査報告シタル所ニ據ツテ之ヲ見レハ當時ノ監獄ハ多クハ皆ナ孤兒院、病院、癲狂院等ト接續シテ建設セラレ一房ノ内、異種多數ノ罪囚ヲ雜居セシメ構造ノ不完全ナルコトハ囚徒逃走ニ關スル事務ヲ以テ殆ンド日々獄吏ニ課スル所ノ常務トナセシ程ナリト謂フヲ以テモ之ヲ知ルヘク獄吏ノ員數ハ到ル所、凡ベテ僅少ナラザルナク其人物モ亦タ最モ汚辱賤劣ヲ極ハメ甚シキハ則チ目ニ一丁字ナキ走卒僮僕ノ輩ヲ以テ之レニ任ズルガ如キアリ例ヘハケ―ニグスブルグニ於テハ二百五十人内外ノ在監人ニ對シテ僅カニ理事（インスペクトル）一名書記一名看守一名及門衛一名ヲ以テ之ヲ管理セシメコ―セルニ於テハ六十名乃至七十名ヲ管理スルニ僅カニ一名ノ看守ヲ配置セシニ止マルガ如キ而シテ其官吏ニ對スル俸給ノ如キモ一般ニ極メテ吝儉ニシテ到底、以テ一人ノ糊口スラ完全ナル能ハス故ニ實際ニ於テハ上ミ長官ヨリ下モ門衛使丁ニ至ルマデ何レモ皆ナ賤劣ナル内職ヲ營ムガ然ラザレバ則チ公然賄ヲ在監人若クハ其親族ニ收ムル者比々是レナラザルハナク或ハ兼テ自ヲ在監人ノ食料其他一切ノ給與品ノ請負人タル業ヲ營ミ據ツテ以テ暴利ヲ占ムル者亦タ少カラズ弊害百出、其間マタ一ノ官紀アルヲ見ズ其他マタ獄内ニ在ツテ常ニ出產、墮胎、生兒拉殺等ノ多カリシ事實ヲ以テ之ヲ推セバ如何ニ當時在監男女ガ互ニ交通媒合スルノ自在ナリシカヲ想像スベキナリ、衛生保護等ノコトハ殆ンド一モ此ニ顧慮スル所アラサルモノヽ如ク或ハ日光入ラズ外氣通セザル土窖ヲ以テ或ハ雨雪、漏リ風雹、侵カス所ノ敗屋ヲ以テ監房ニ宛テ（アアルケンブルグ、エルビング等ノ監獄ヲ指ス）糞ハ積ンデ山ヲナシ尿ハ流レテ河ヲ成スモ曾テ之ヲ掃洒スルコトアルニアラズ不潔臭穢ノ極、時ノ觀察者ヲシテ一巡、則チ病ヲ釀サシメタリト云フ程ノ實況ニシテ概括スル所普國當時ノ監獄モ亦タ彼ノ英國佛國等ニ於ケルモノトその慘ニ於テハ則チ相撰ブ所アラザリシモノヽ如シ

英國佛國普國等ニ於ケル監獄當時ノ實況ハ略ホ前述スル所ノ如ク其

慘タル光景ハ實ニ吾人ヲシテ悽然トシテ心悸魂驚ノ感ニ堪ヘザラシム墺國伊國西國魯國等ノ狀況ハ略ボ是ヲ以テ類推スルヲ得ベシ因テ此ニハ姑ラク之ヲ略ス

觸目スル所盡ク是レ慘憺タル暗黑世界ニアラザルハナキノ間ニ介立シテ獨リ和蘭共和國ニ在ツテハ"社會モ亦タ犯罪ニ對シテ幾分ノ責務ヲ有ス故ニ行刑ノ事、獨リ犯罪人其者ノミヲ誅戮スルヲ以テ事トナスベカラヌ併セテマタ之ヲ矯正感化シテ社會有用ノ良民ニ復歸セシムルヲ要スト"ノ眞理ヲ刑事上ノ實際ニ應用シ從ツテ監獄モ亦此旨趣ニ據ツテ大ニ釐革改良スル所アリ故ニ和蘭ニ於ケル監獄ハ當時ニアツテ既ニ清潔、規律、秩序及ヒ勤勉等ノ諸要件ヲ具備シタル完全ノ摸範監獄トシテノ價直ヲ保チ實ニ世人ヲシテ冥々タル陰雨ノ闇夜ニ俾タル一點ノ星光ヲ望ムノ想ヒアラシメタリ

和蘭ニ次ギ大體其規摸ニ照準シテ新タニ一ノ監獄ヲ創設シタルモノヲ白耳義トナス子爵ウイライン第十九世ノ設計ニ係リ千七百七十二年ニ工ヲ起シ同七十五年ニ至ツテ竣工ス建設ノ位置ハゲント府ニシテ Maison de force ト稱スルモノ則チ此監獄ナリ四類別異ノ法凡ベテ其宜シキニ適ヒ其他遇四諸般ノ事亦タ頗ブル摸範トスルニ足ルモノ少カラス其効果ノ顯ハルヽト共ニ一般ノ國民ヲシテ次第ニ死刑體刑等ノ慘ヲ廢シ成ルヘク多ク且ツ廣ク自由刑ヲ以テ之レニ代ハラシムベシトノ希望ヲ惹起セシメ終ニ監獄改良事業ハ漸ク曙々トシテ此ニ其曙光ヲ發セントスルノ機運ヲ見ルニ至レリ

監獄改良事業ノ機運開ク

第三節　監獄改良ノ開始

監獄改良ノ開始

慘憺タル監獄ノ事況ハ爲政家之ヲ知ラサルニアラス法律家亦タ之ヲ認識セサルニ非ラス而シテ其正理ニ適ヒ治世ノ道ヲ得タルモノニアラザルコトモ亦タ善ク之ヲ會得領解セサルニアラス然カモ進ンデ能ク之レカ改良ニ着手セザリシ所以ノモノハ一ハ則チ當時一般ノ風潮トシテ上下尊卑ノ懸隔甚シク治者即チ社會ノ上流ニ立ツ所ノ者ハ被治者タル下層多衆ノ黎民ヲ矜レムノ情甚タ薄ク從ツテ監獄即チ多ク下

層民衆ノ出入スル場所ノ如キハ勢ヒ之レガ利害ヲ等閑ニ附スルニ傾キタル事情アルト一ハ則チ政敎混淆ノ弊痛ク人權保護ニ關スル事項ヲハ輕蔑視スルノ傾嚮アリシ結果ニ由ルモノトス然ルニ時勢此ニ一變シ自由平等ノ哲理ハ到ル所、社會ノ革命的動搖トナツテ其實行ヲ顯明シ上下尊卑ノ階級ハ次第ニ之ヲ打破シ了セントスルニ至リ、學理ノ變遷殊ニ法制ノ學術ハグロツシウス、ホツペス、トマシウス、ウヲルテイア、ベツカリヤ、モンテスキユー等諸家ノ研究ニ由ツテ益々進歩發達シタルノ結果ハ此ニ始メテ政敎殊ニ刑理ト敎理ノ間ニ判然タル境界ヲ劃立シ刑法ハ即チ純然タル人爲的及ヒ國家的基礎ノ上ニ之ヲ創制シ彼ノ人權ヲ蔑視シ若クハ無視スル所ノ凡ベテノ殘虐無道ノ分子ハ盡ク刑罰ノ範圍ヨリ掃清シ了セントスルノ機運ニ際會セリ機一タヒ此ニ開ケ加フルニマタ宗敎革命（十七世紀ノ中葉ニ起リ爾來連續シテ文明各國大概之レガ影響ヲ蒙ラサルハナシ）ノ餘波、信敎的博愛慈善事業ノ之レガ開發ヲ助成スルモノアリ（千七百七十六年及千七百八十七年ノ創立ニ係ル費拉捉費亞監獄改良ハ同盟會 Society for Alleviating the Miseries of Public Prisons ト稱スルモノ、如キハ則チ熱心ナル宗徒ノ發意ニ出テタルモノニシテ其監獄改良ノ上ニ効果ヲ及ボシタルコト實ニ鮮小ニアラサルナリ）監獄改良ノ事業ハ此ニ至ツテ始メテ旭日天ニ朝スルノ勢ヲ見ルニ及ベリ、

ジョン、ホワルド

監獄改良歴史ノ上ニ特筆大書シテ大ニ其名ヲ標置セザルベカラザル所ノ者アリ英國ノ博愛家ジョン、ホワルド氏則チ是レナリ、氏ハ千七百二十六年（千七百九十年）龍動商賈ノ家ニ生レ死ニ至ル殆ンド六十餘年間、終始一日ノ如ク身ヲ擧ゲ資ヲ盡シテ一意唯博愛慈善ノ事業殊ニ監獄改良事業ノ爲メニ營々タリ足跡五タビ歐亞ニ遍ク危害身ニ迫ルモノ前後幾十回ナルヲ知ラス入ツテハ則チ或ハ潛心著述ヲ事トシ或ハ無告ノ窮民ヲ集メテ之レヲ賑恤シ出デ、ハ則チ或ハ鎖窓ノ下ニ起臥シテ監獄内部ノ慘況ヲ探クリ或ハ帝王ニ説イテ之レガ改良ヲ奬勵ス、財ヲ蕩盡スルコト前後凡ソ三萬「パランド、ステルリング」ノ多キニ達シ經歴スル所實ニ四萬二千英里ヲ過グト稱ス而カモ尚ホ以テ足レリトセズ六十有餘ノ高齡ヲ厭ハズシテ六タビ復タ監獄視察遠征ノ途ニ上リ東洋ニ遍歴シテ一層廣ク監獄改良ノ材料ヲ蒐集セント欲スルカ爲メニ劇勞ノ餘熱病ヲ得テ終ニ起タズ魯國ヲ經テヘルソーンニ

至リ終ニ病ヲ得タリ生前一小墳墓ノ地ヲトシ死後唯ダ此ニ質素ナル墳墓ヲ建テ磁針器ヲ以テ之レニ備フルノ外他ニ一モ求ムル所ナシトノ一言ヲ遺レテ遠然瞑目ス後チ幾何モナクシテ英國人ハ此偉人ノ遺爲メニ盛大ナル紀念碑ヲ「パウルス」寺院ノ境内ニ建立セリ氏ノ熱心ハ

如何ニ歐洲各國ノ帝王其他有力ナル學者政治家ノ心ヲ動カシタルカ、如何ニ英國ノ議院ヲシテ監獄改良ノ必要ヲ感ゼシメタルカ、如何ニ監獄一般ノ内部ニ於ケル百鬼夜行ノ眞景ヲ暴露セシムルニ至リタルカ、如何ニ監獄改良ノ氣焰ヲシテ熾盛ナルニ至ラシメタルカ其鞏實且剴切ナル考案ハ如何ニ監獄改良ノ上ニ顯著ナル効果ヲ奏セシムルニ至リタルカ、其著書ハ字々皆血涙ヲ以テ記ルサレタルモノニアザルハナク不磨ノ眞理ハ滂湃トシテ紙上ニ溢ル其惠ヲ後世ニ垂ルヽモノ夫レ果シテ如何ヴヤ氏ノ生涯ハ監獄改良史ノ上ニ關係ヲ有スルコト實ニ絶大ナリ、史家、氏ヲ仰イデ斯ノ改良事業ノ開祖トナス蓋シ溢美ニ非ザルヲ信ズ

警報、一タヒホワルド氏ノ口ニ發シ忽チニシテ大ニ朝野ノ耳目ヲ聳動セリ氏ノ意見ハ時ノ王ゲヲルグ三世ノ嘉納スル所トナリ議會モ亦氏ノ意見ニ成ル所ノ獄制改良法案ヲ可決セリ（千七百七十九年）ブラックストン、エーデン等時ノ有名ナル刑法學者ノ如キハ殊ニ熱心ニ之レカ實行ヲ見ルコトニ協贊助力スル所アリ然ルニ惜イカナ時機ノ未ダ全ク熟セザルニヤ或ル故障（建築合ハサル所アリ往往空シク歳月ヲ經過スル間ニ於テ監獄建築地撰定ニ關シ折衝調査委員ノ間ニ於テ終ニ殖民刑ノ實行ヲ見ルニ至リ爲メニ一時監獄ノ改築ヲ中止スル不幸ニ遭遇セリ）ノ爲メニ終ニ十分其實行ヲ見ルニ及バズシテ止ムニ至レリ若シ英國ヲシテ當時速カニ氏ノ意見ヲ實行スルニ至ラシメナバ分房制監獄ノ卒先者タル名譽ハ英國ノ占有スル所トナリシナラン、此名譽ハ終ニ彼岸ノ屬邦トシテ輕蔑シ來リシ所ノ後進新造國ノ博取スル所トナルニ至ラシメタリ

後進新造國即チ米國ニ在ッテハ既ニ十八世紀ノ中葉ヨリウ井ルリヤム、ペンジャミン、プランクリン等愛國慷慨ノ志士輩出シテ頻リニ監獄改良ノ必要ヲ唱道シタルノ結果、社會公衆ノ此事業ニ傾注スルコト漸ク深ク殊ニ當時、歐洲ノ彼岸ニ嚣々タル監獄改良ノ聲ハ大西洋ヲ傳フテ一層高ク此岸ニ反響シタル者ノ如ク此ニ大ニ獨立新勝ノ餘勇ヲ鼓

分房制監獄始メテ北米合衆國ニ實施セラル

舞スル所アリ研究尋繹ノ末終ニ千七百九十六年始メテ分房制監獄ヲペンシルヴァニア洲ノフヰラデルフィアニ創設シ所謂ソリタリ―システム」Solitory-system ニ據ツテ晝夜嚴格ナル分房離隔ノ監禁法ヲ實行セリ「分房制ノ範ヲ後世ニ貽ス所ノ「ペンシルヴァニヤ」制ト稱スルモノ即チ是レナリ後チ幾何モナクニ―ヨルク洲ニ於テモ亦タ新タニ一ノ監禁法ヲ考案シ之レニ據ツテ千八百二十年アウブルンニ於テ一ノ新監獄ヲ建造セリ「アウブルン」制ト稱スルモノ即チ之ヲ指シフヰラデルフヰヤ監獄ノ「ソリタリ―システム」ニ對シテ或ハ之ヲ「サイレントシステム」Silent-system ト稱ス而シテ此ノ二者ノ異ナル所ハ一ハ別異法ヲ施行スルコト極メテ峻嚴ナルモ一ハ之ニ反シ或ハ夜間寢臥ノ際ノミ獨居セシメ或ハ晝夜室外ノ運動ヲ許ルシ或ハ適當ノ作業ヲ與ヘテ之ニ從事セシムル等大ニ寛和融通スル所アルノ點ニ存ス詮スル所惡交ヲ絶チ善交ヲ奬メ罪囚ヲシテ自ラ反省悔悟スル所アラシメント欲スルノ目的ニ至テハ則チ二者毫モ相異ナル所ナキニモ拘ハラス、一タビ「ソリタリ―システム」ニ對シテ「サイレントシステム」ノ創始セラルヽニ及ヒ爾來互ヒニ相論難攻擊シテ毫モ讓歩スル所アラズ旗色終ニ全ク二樣ニ分ルヽノ結果ヲ見ルニ至レリ斯クテ米國ニ於テハ着々監獄改良事業ノ歩武ヲ進メ且ツ文運開發ノ結果宇内一般ニ大ニ斯ノ事業ニ傾注スルノ趨勢ヲ呈スルニ至リタルヲ以テ流石ニ矜持ニ有名ナル英國ヲ始メトシテ佛國獨逸其他歐洲大陸諸國ヨリ委員ヲ米國ニ特派シテ新制實施ノ利害ヲ討究審査セシムルモノ少カラス委員ノ見ル所或ハ「アウブルン」制ヲ是認スルモノアリ或ハ「ペンシルヴァニヤ」制ニ歸信スルモノアリシト雖ども要スルニ其復命ニ據ツテ此ニ大ニ獄則ノ面目ヲ一新シ歐洲各國ノ到ル所監獄改築工事ノ着手ヲ見ルニ至レリ而シテ彼ノ「ペンシルヴァニヤ」制ハ英國ノ採用スル所トナリペントンヴ井ルノ新監獄千八百二十五年ゲンフニ於テ、千八百三十二年ニ於テ之ヲ實行シ但シ其施行上ノ實際ニ於テハ「アウブルン」制ハ重モニ歐洲大陸諸國ノ採用スル所トナレリ千八百三十九年佛國ニ於テ、其他此前後ニ在ツテ大陸諸國ニ於テ創設シタル所ノ監獄ハ多クハ「アウブルン」制ヲ採用シタル

歐洲各國特ニ獄制取調委員ヲ米國ニ派遣ス

獄制改良ノ第一着手ハ監獄ノ改築ニアリ

如モノ、爾來、拘禁行刑ノ方法ニ就テハ或ハ之ヲ理論ニ就キ或ハ之ヲ實驗ニ徵シ一層益々大ニ研磨ヲ積ム所アリ朝タニ甲國ニ新案出デ夕ベニ乙國ニ奇策顯ハル其狀恰カモ國交際上ニ於ケル競爭的事業ノ如ク獄則ノ良否ハ實ニ以テ文明ノ消長ヲトスルノ標識トナルニ至リ着々改良進歩ノ實効ヲ見ルニ及ヘリ

新案出デ奇策頻リニ顯ハルヽハ皮想上或ハ大ニ獄事ノ改良ヲ促ガスノ効アルガ如クナリト雖モ其實反ツテ之レガ爲メニ改善ノ進行ヲ阻止セシコト少小ニアラス斯道ノ先覺者ミツテルマイエル、ユウリユウス、子ルチル、ワレントラップ、ウエルケル（以上獨逸人）スリンゲル（荷蘭人）ドクペチア（白耳義人）モーリウ、クリトーフ（佛國人）ダフイツド（デンマルク人）ホワイトウヲ—スリユツセル（英國人）等諸氏此ニ見ル所アリ終ニ千八百四十六年萬國監獄會議ヲフランクフヲルトニ開設シ獄制上ノ疑義ニ渉ル諸種ノ案件ヲ提出シ殊ニ紛々トシテ常ニ論議ノ絶ヘザリシ所ノ分房制度ノ利害ニ就テ審議ヲ盡シ結局最多數ヲ以テ或條件（作業ヲ課シ運動ヲ許ルシ教誨ヲ與ヘ教育ヲ授ケ或ハ典

萬國監獄會議ノ開設

獄僧（訪問ヲ爲サシムル等ノ類々ノ類）ノ下ニ「ペンシルバニヤ」制（分房制）ヲ是認スルノ斷案ヲ下シ、是レヨリ次第ニ益々分房制ノ勢力ヲ强メ、其他獄制一般ノ上ニ就テ著ルシク其面目ヲ更新スルニ至レリ

萬國監獄會議ハ第一回ヲフランクフヲルトニ開設シタル以來第二回ハ其翌年（千八百四十七年）ブリュツセルニ第三回ハ千八百五十七年フランクフヲルトニ第四回ハ千八百七十二年ロンドンニ（米人ドクトル、ワインスノ創意ニ成リ通例之ヲ以テ萬國監獄會議ノ第一回ト稱ス）第五回ハ千八百七十八年ストツクフヲルムニ第六回ハ千八百八十五年羅馬ニ第七回ハ千八百九十年ペ—トルスブルグニ開設シ第八回ハ千八百九十五年即チ我カ明治廿八年ニ於テ佛國巴里ニ於テ開設セラルヘキ豫定ナリ

第四節　近世及各國ニ於ケル獄制改良ノ現況

近世及各國ニ於ケル獄制改良ノ現況

若シ夫レ各國個々ノ實際ニ就テ其今日ノ狀況ヲ觀察スルトキハ獄制改良ノ事、或ハ尙ホ未ダ未開幼稚ノ域ニアルヲ免レザルモノアリ或ハ

今、當サニ孜々トシテ改良ノ針路ニ向ツテ其歩武ヲ進メツヽアルモノアリ或ハ既ニ略ボ完全整備ヲ告ゲテ着々其効果ヲ表顯シツヽアルモノアリト雖モ之ヲ要スルニ斯ノ事業ハ始メテ其嫩芽ヲ前世紀ノ末葉ニ發シ十九世紀ノ今日ニ及ンデ漸ク略ボ其大體ノ成熟(少クモ一定ノ旨義方針ヲ確立スルニ至ル)ヲ見ルニ至リタルコト上來開陳シタル所ニ依ツテ之ヲ知ルヘシ今左ニ二三著名ノ邦國ニ於ケル近代獄制改良ノ沿革及ヒ其現今ノ實況ヲ略述シテ讀者ノ參考ニ供ス

〔北米合衆國〕米國ハ分房制監獄ノ卒先者トシテ獄史上、最モ名譽且ツ有力ナル位置ヲ占ムルコト亦タ爭フヘカラサル事實ナリト雖モ一タヒ「ペンシルヴアニヤ」制ニ反シテ「アウブルン」制ノ創始セラレタル以來全國到ル所ニ其利害ヲ論スルノ紛議、絶フルナク互ヒニ極端ニ走ツテ唯々瘡痍ノ摘發ヲ是レ事トシ結局實行ノ上ニハ啻ダニ絲毫ノ益ヲ與ヘザルノミナラズ偶々以テ兩制共倒レトナツテ何レモ其發達ヲ阻止セラルヽニ終了シ且ツ「アウブルン」制ヲ援引擴張シテ之ヲ實際ニ利用スルノ結果、漫ニ重キヲ罪囚勞力ノ上ニ置キ終ニハ監獄ノ費用ハ成ルベク(殆ンド全ク)罪囚勞力ノ所得ヲ以テ支辨スルニ至ラシムベシトマデノ誤謬ニ陷ラシメ或ハ罪囚ヲ擧ゲ一囚若干ノ割合ヲ以テ之ヲ一私人ニ請負ハシメ請負者ハ即チ國家ニ代ツテ給養使役其他一切ノ行刑管理ノ事ニ任スルカ如キアリ(南部諸州ニ於テ之ヲ實行スルモノ多シ)或ハ監獄ヲ以テ恰カモ百工場ノ如キ觀ヲ呈スルニ至ラシムルアリ徒ラニ收利ノ多カランコトヲ是レ務メ甚シキハ則チ罪囚勞力ノ所得ハ監獄諸般ノ費用ヲ辨償シテ尚ホ若干ノ利潤ヲ見ルニ至リタルカ如キモノアリ行刑ノ眞面目ハ此ニ至ツテ殆ンド絶滅シ了セリト謂ハサルヲ得ス之レニ加フルニ米國ニ於テハ常ニ政界ノ動搖ヲ監獄官吏殊ニ典獄等ノ上ニ及ホシ爲メニ屢々其位置ヲ交迭スルノ弊風アルヲ以テ監獄社會獨リ老練堪能ナル人物ヲ求ムルニ至難ナルノミナラス淺見未熟ノ徒常ニ出入シテ獄柄ヲ握リ或ハ卒爾トシテ嚴酷主義ヲ用ヒ或ハ忽然トシテ寛容主義ヲ行ヒ曾テ又一貫スル所ノ主義ノ據ルヘキモノアルニ

アラス斯クノ如クニシテ如何ヲ又秩然整然タル監獄行刑法ノ發達ヲ期待シ得ベケンヤ

米國ニ於ケル監獄今日ノ現況ハ各邦盡ク其制ヲ異ニシテ各監マタ皆ナ其規ヲ同フセス甚シキハ則チ一監獄ノ内ニアツテスラモ亦タ時ト場合(典獄ノ交迭政略ノ變更等)ニ依リ全ク其規制ノ豹變ヲ見ルナキヲ保セス是レ蓋シ統一ナル刑法及監獄則ノ全國ニ共通スルモノナキガ爲メノ致ス所ニシテ此事相、改マラサルノ間ハ到底米國ニアツテ斯ノ事業ノ完全ナル改良進歩ヲ望ムヘキニアラザルナリ識者亦タ此ニ見ル所アリ頻リニ之レカ矯正ニ營々シツヽアルカ如クナリト雖モ結局今日ノ實況ヲ以テ之ヲ推セバ米國ノ獄制ハ大體寧ロ漸々退歩ノ傾嚮アルヲ免レザルモノヽ如シ

米國ニ於テハ重罪監(State prisons)ノ經費ハ國庫ノ支辨ニ屬シ政府之ヲ管轄ス禁錮監(County prisons)ハ之レニ反シ凡ベテ地方費ヲ以テ之ヲ經理ス

〔英國〕英國ニ於テハ未タ完全ナル成文的刑典ノ備ハルモノナシト雖モ今世紀ニ至リ時々ノ單行法ヲ以テ從來ノ刑法ニ對シ更正釐革ヲ加ヘタルモノ少カラズ、曾テ盛ンニ應用シタル「デポルテーション」流刑ノ制ハ既ニ全ク之ヲ廢絶シ死刑モ亦タ大ニ其適用ノ區域ヲ限制シ體刑(笞刑)ノ如キハ僅カニ附加刑トシテ或ル特定ノ罪囚ニ施行スルニ止マリ結局自由刑ヲ以テ刑ノ重要ナル主體トナスニ至リ從テ獄制改良ノコトニ就テハ「ホワルド」氏以來、時ニ多少ノ張弛アリト雖モ孜々トシテ大ニ此ニ熱心計畫スル所アリ、然レモ其希望ハ常ニ或ル事情ノ阻害スル所トナリ前後幾回(千八百十四年乃至二十三年、千八百二十四年乃至三十五年、千八百三十六年、千八百三十九年、千八百六十五年)トナク發布シタル獄制改良ノ方案モ過半ハ即チ徒法死文トナツテ終ニ其効ヲ見ルニ及バス尤モ其間、或ハ階級制ニ據リ(千八百十一年ミルバンクニ於テ)或ハ分房制ニ基ク所ノ(千八百四十二年ペントンヴイルニ於テ)摸範監獄ヲ建設シ或ハ不適當ナル數個所ノ舊監獄ヲ廢閉シテ新式監獄ノ改築ヲ强制シ或ハ監獄改築委員ヲ組織シテヴイクト

リヤ第二及第三(千八百三十九年)發布ノ監獄法ノ厲行ヲ務ムル等少クモ常ニ改良ノ進路ニ向ツテ其歩武ヲ進メツヽアリタルコトハ疑フベクモアラズ而シテ其之レガ進行ヲ阻害セシ事情ト稱スルハ英國固有ナル自治制強盛ノ結果治獄ノ事亦タ地方ニ屬シ地方團體(「カウンチ」「カウンシツプス」「ボロース」「リベルチース」)及ヒ大地領主ニ於テ凡ベテ之ヲ管掌經理スルノ慣行ヲ更改スル能ハザリシコト即チ是レナリ斯クテ時勢ノ必要ハ次第ニ輿論ヲシテ到底地方ノ干繫ヲ解イテ之ヲ國家ニ移シ且ツ國費ヲ以テ統一ニ之レヲ經理スルニアラザレハ根本的獄制ノ改良ヲ望ムベカラザルノ理ヲ認識スルニ至ラシメ終ニ千八百七十七年ノ監獄法ヲ以テ英國及ウエールスニ於ケル凡ベテノ監獄ヲ國家ニ嫁シ其管掌經理ハ擧ゲテ之ヲ中央政府(內務省)ノ事務ニ移スニ至リ此ニ始メテ完全ナル獄制整備ノ緒ニ就クヲ見ルヲ得タリ此監獄法實施ノ結果トシテ一面ニハ著ルシク經費及犯罪人ノ減少ヲ來タシ一面ニハ改築到ル所ニ實行セラレ行刑ハ即チ全國ヲ通ジテ劃一且ツ適實ニ施行セラルヽヲ見ルニ至レリ千八百七十八年乃至七十七年間ノ監獄費ヲ以テ之ヲ比較スルニ新築改築等少カラサル臨時費ノ支出ヲ要シタルニモ拘ハラス尚ホ凡ソ一千萬「マルク」餘ノ節減ヲ見ルニ至リ尚ホ又犯罪逐減ノ實況ハ千八百七十二年ニ於ケル二萬〇四百四十二人ノ在監人員ハ千八百八十七年ニ至ツテ實ニ一年間總計一萬四千九百六十六人ニ減少スルニ至レリ(人口凡ソ四百五十萬餘ノ增殖ヲ見ルニ至リタルニモ拘ハラス)之ヲ要スルニ英國ニ於ケル獄制改良ノ結果、今日ニ於テハ殆ンド全國ヲ通シテ分房制ノ監獄ニアラサルハナク獨リ之レニ據テ自由刑ヲ執行スルノミナラス刑事被告人ノ如キモ亦タ凡ベテ分房組織ニ於テ之ヲ拘禁管束スルノ實況ナリ

〔佛國〕「コード、ペナール」(拿破烈恩刑法)ハ實ニ近代ニ於ケル歐洲各國ノ刑法ノ上ニ强大ナル勢力ヲ及ホシタルト同時ニ獄制一般ノ沿革史上ニ佛國ヲシテ關係ヲ有セシムルコト亦タ少小ニアラス殊ニ佛國ニ於テハ近代ニ至リ著名ナル獄制改良家ノ輩出スルモノ前後踵ヲ接シ

ラロヒフヲークート、ピーモン、トキユーヒル、モーリユークリトーフ、ルカース、ハレンガル、ボンヴ井ルド、マルサンユ、ドソンヴ井ル、デスポート等其他ノ諸氏獄制改良ノ必要及ヒ其方法ニ就キ熱心且ツ適實ニ論議スル所ア

ルヲ以テ獄制モ亦タ一般ニ其惠ニ頼ツテ改良ノ進歩ヲ促スニ至リタルコトハ決シテ爭フベカラザルノ事實ナリ然ルニ俚諺ニ所謂「燈臺基下ヲ照サズ」若クハ「染匠白袴ヲ穿ツ」ノ類ニシテ佛國其レ自身ノ獄制ハ反ツテ割合ニ改良ヲ加フルコト甚ダ少ク他ノ各國ノ獄制ニ比スレハ寧ロ常ニ劣等ノ地位ニアルヲ免レザリシモノヽ如シ而シテ其此ニ至リシ所以ノモノハ實ニ「ナポレヲン」第一世及ヒ第三世ノ帝政興ツテ最モ力アリト謂ハザルヲ得ズ先キニハ則チ第一世帝ノ爲メニ僅カニ發生シタル監獄改良ノ萠芽ヲ摘除セラレ後チニハ則チ第三世帝ノ爲メニ漸クニ復興生育シタル枝葉ヲ苅截セラレ萎微退縮終ニ容易ニ根治スヘカラサル宿弊ヲ貽シテ以テ今日ニ至レリ當初第一世帝カ監獄禁錮四及刑事被告人ヲ拘禁スルモノニ限ル)ハ費用ヲ以テ之ヲ國庫ヨリ地方費ノ負擔ニ移シタルコト(千八百十一年)是レ監獄改良第一着ノ蹉跌ナリ其結果ハ則チ行刑ノ紊亂犯罪ノ暴殖ニ終ハリ終ニ千八百三十年ノ革命ヲ經テ社會ヲシテ監獄改良ノ必要ヲ絶叫スルニ至ラシメ研究調査ノ末(ピユーモン及トキユーピルノ二氏ヲ米國ニ派遣シ「ペンシルブアニヤ」及「アウブルン」制ノ利害ヲ調査セシム)千八百三十四年ヲ以テ始メテ獄制改良法案ヲ議會ニ提出シ幸ニ下院ノ可決ヲ經テ千八百四十七年殆ント唯ダ儀式的ニ上院ノ議事日程ニ上リ將サニ疑ヒモナク其通過ヲ見ルニ及バントシテ此ニ復タ不幸ニモ千八百四十八年ノ革命ニ遭遇シ第三帝政ノ成ルト共ニ終ニ此新法案モ書餅ニ歸シ獄制ハ即チ一ニ第一帝政ノ舊ニ復シ時ノ内務大臣ヲシテ分房制禁止ノ訓令(千八百五十三年)ヲ發セシムルニ至リ折角新築シタル分房制監獄モ無益ニマタ雜居制ニ據ツテ其規模ヲ變更スルノ止ムベカラザルニ至ラシメタリ斯カル逆行的ノ制度ハ爭デ永ク其運命ヲ保チ得ベキ再ヒ復タ時勢ノ必要ハ獄制ノ改良ヲ促迫シ終ニ千八百七十五年ノ法律(ドソンヴ井ル子爵ノ發議ニ由リ議會ニ於テ獄制改良法案取調委員ヲ組織ヲ以テ刑ス此法律ハ即チ該取調委員ノ調査ニ成リタルモノニ係ル)事被告人及刑期一年以下ノ禁錮四ハ凡ベテ之ヲ分房制監獄ニ於テ拘禁執行スベキコトヲ確定シ尚ホ本法實施ニ要スル費用ハ其幾分ヲ國

庫ヨリ補助スヘキコトヲ令達セリ然ルニ此種ノ監獄ノ費用ハナポレヲン第一帝政以來地方經濟ノ支辨スル所タリシヲ以テタトヒ幾分ノ國庫補助アルニモ拘ハラズ多クハ皆其負擔ノ過重ヲ恐レテ容易ニ改築工事ノ實施ニ着手セズ該法律發布後十二年ノ長星霜ヲ經ルモ全國三百八十二ケ所ノ監獄ニ在テ其實行ヲ見ルニ至ラシメタルモノハ僅々十有四個所ノ少數ニ過ギズ法律ハ即チ大體ニ於テ殆ント徒法ニ終了セリト謂フモ可ナリ若シ夫レ佛國獄制ノ現況ニ就テ之ヲ約言セバ地方監獄ハ不十分ナガラモ法律上分房制ヲ適用セザルベカラザルノ規定存シ中央監獄ハ全然雜居制ニ據ツテ之ヲ管理シ其實況恰カモ職工場タルガ如キ觀ヲ呈ス流刑ハ即チ獨リ有識者ノ熱心ナル攻擊アルノミナラズ輿論モ亦タ大ニ之レニ反對ヲ表スルニモ拘ハラズ未ダ以テ之ヲ全廢スルニ至ラス心アル者ヲシテ空シク多額ノ國費ヲ擲ツテ徒ラニ犯罪ノ增殖ヲ求ムルニ汲々タルノ愚ヲ嗤笑セシム佛國獄制ノ實況未ダ以テ一ノ見ルニ足ルヘキモノアラザルナリ

伊太利

〔伊太利〕新造ノ王國、監獄改良ノ前途、今尚ホ悠遠タリ然レトモ遠ク前キニ既ニ法王クレ—メンス第九世ノ始メテ改良ノ端緒ヲ開クアリ中ゴロペツカリヤ（有名ナル法學者）出デヽ大ニ之レカ必要ヲ唱フルアリ刑獄ノ局面、殆ンド此ニ一變ヲ告ゲ千八百三四十年以後ニ在ツテハアレキサンドリヤ、ヲヂ—グリヤバランツア、トスカナ等到ル所、分房若クハ折衷制新監獄ノ創設ヲ見ルモノ少カラス爾來、改良ノ步武ハ駸々トシテ、曾テ休止スルコトナク近代ニ至リザツサリ—、ト—リンペル—ギア、マイランド、ローム等各地方ノ監獄ハ新タニ分房制施行ニ適スルノ大建築ヲ斷行シ着々文明新主義ノ應用ニ維レ日モ足ラザルモノヽ如シ殊ニ其獄務監督ノ組織及ヒ司獄官吏養成ノ方法ニ就テハ大ニ以テ摸範トナスニ足ルベキモノアルヲ見ル彼ノロンボルソ—（刑事人類學派ノ創見者）ヲ出ダスモノ亦タ伊國ナリ、後進國トシテ決シテ輕侮スヘキニアラズ

白耳義

〔白耳義〕白耳義ハ既ニ十八世紀ノ初葉ニ於テ獨リ他ノ輿國ニ挺ンデ、獄制改良ノ端ヲ啓ラキシモ後チ墺國ノ治下ニ頓挫ヲ受ケ再ヒ

佛國ニ隷屬シテ此ニ殆ンド全ク中絶シ獨立王國ノ創建成ツテヨリ以來忽然トシテ復タ改良ノ氣運煥發シ終ニ以テ獄制ノ完備ヲ告グルノ今日アルヲ致セリ、是レヨリ先キ白耳義ニ於テハ「アウブルン」制ヲ實行シテ(ゲントニ於テ)其利害ヲ討査セシガドクペチウ、キユ―テリ―其他有力ナル學者、政治家、法律家等ノ意見ニ據リ「アウブルン」制ノ到底、分房制ノ利ニ如カザルヲ認識シ終ニ千八百三十五年ニ於テ分房制監獄ヲゲント及ヒフイルフヲルデニ新築シ着々改良ノ好成績ヲ表顯スルニ至レリ、而シテ其此ニ至ル敢テ一ノ法律規則ハ之ヲ餘儀ナクセシモノアルニアラズ議會ハ常ニ好意ヲ以テ政府提出ノ監獄改築豫算ヲ歡迎シトングレス、ブリユツセル等ヲ始メトシテ其他全國二十餘個所ノ監獄ヲハ相次イデ盡ク分房制ニ改築シ之レニ向ツテ實ニ千七百有餘萬圓ノ巨額ヲ支出セリ、斯クテ改築工事ノ略ボ竣工ヲ告グルヲ俟ツテ此ニ始メテ(千八百七十年)分房制施行ノ法律ヲ發表シ爾來益々之レガ厲行ニ汲々タリ(斯クノ如クニシテ法律始メテ其効ヲ全フスルヲ彼ノ法制ノ表面ヲ裝飾シ一モ其實行ヲ見ル所ナク徒ラニ彼ノ徒法死文ノ美ニ跨ルモノニ比シ其相庭逕スルモノニアラサルハナシ白耳義ノ如キハ實ニ萬綠叢中ノ紅一點ト謂フベキナリ)白耳義現時ノ獄制上ニ於テ其稍々他國ノ例ニ異ル所ノモノハ全國ノ監獄ヲ以テ盡ク之ヲ司法大臣監督權ノ下ニ隸屬セシムルコト即チ是レナリ國法上ノ學理ニ吻合セザルノ譏アルヲ免カレズト雖モ之レガ爲メ敢テ就一ニ害ナク且ツ當局、常ニ其人ヲ得、執法亦タ渾ヘテ其宜シキニ適スルヲ以テ獄制進歩ノ上ニ於テハ要スルニ毫モ損益スル所アラザルモノ、如シ

〔和蘭〕 滔々タル監獄界、盡ク是レ慘憺タル暗雲暗雨ニ包容セラルヽモノニアラサルハナキノ時代ニ當リ屹然トシテ獨リ道義的法理的適實ノ獄制ヲ施行シタルモノヲ和蘭トナス監獄改良ノ警鐘ハ吾人實ニ和蘭ニ於テ始メテ之ヲ聞クコトヲ得タリ彼ノ改良家ノ泰斗ション、ホワルド氏ヲシテ熱血ヲ濺ガシメタル所ノ千言万句モ詮ジ來レバ和蘭當時ノ獄制コソ實ニ之レガ筌蹄タリ指南車タリシナリ斯ノ改良事業ガ惠ヲ和蘭ニ蒙ムルモノ決シテ少小ニアラザルナリ、和蘭モ亦タ佛國治

政ノ下ニ一旦ハ改良事業ノ進行ヲ中絶セシガ（拿破烈翁ノ覇業及佛國刑典（ゴード、ペナー）ガ如何ニ其惡影響ヲ監獄改良事業ノ上ニ及ボシ、コトノ甚シカリシヲ知ルベシ）後チ幾何モナク再ヒ（千八百十三年）獨立ノ國基ヲ復興スルニ至リタルヨリ以來此ニ全ク佛國刑典ノ羈絆ヲ脫シ再ヒ其固有ノ行刑法ヲ復活シ終ニ議會ヲシテ千八百二十三年ニ於テ"社會ハ罪囚ヲ矯正感化スルノ義務ヲ有ス"トノ旨義ヲ宣明スルニ至リ尙ホ議員スリンガルヲ始メトシテ其他熱心有力ナル學者政治家等諸氏ノ盡瘁ニ依リ社會官民ヲ擧ツテ斯ノ事業ニ傾注シ結局其レヲシテ分房制ニ據ツテ全然行刑組織ヲ革新セザルベカラサルノ理想ヲ認識セシムルニ至レリ一方ニハマタ適實ナル行刑法（法律ヲ以テ）ヲ確立スルニ非ザレバ到底完全ナル刑法ヲ制定シ得ヘキニアラズ（有名ナル法學者テツクス等專ラト卒先シテ此說ヲ唱導セリ）

銳意、行刑ノ理法ヲ研究シ着々相俟ツテ一層改良事業ノ進行ヲ助成セリ、和蘭現行刑法ハ即チ千八百八十一年ノ制定ニ係リ後チ千八百八十四年、監獄則（法律）即チ行刑法ヲ發表シ制定以來六年ヲ經テ千八百八十六年ニ於テ始メテ之ヲ實行セリ（刑法草案ノ脫稿以來之レガ發布ヲ見ル迄ニ其間實ニ六十年ノ長星霜ヲ經過セリ）斯ク法理ニ基ツキ實用ニ稽ヘ研究ニ研究ヲ積ミ注意ニ注意ヲ加ヘタルコトナルカ故ニ形影相伴フノ關係ヲ有スヘキ刑法ト行刑ト互ヒニ能ク渾融貫通シテ兩々相戾ラザルコト和蘭今日ノ實際ニ於ケルカ如キハ未ダ曾テ一モ他ニ其類ヲ見サルナリ

和蘭モ亦タ白耳義ト同シク凡ベテノ監獄ヲ以テ司法大臣ノ所轄ニ屬シ監獄每ニ監督委員（Colleges van regnten）ヲ置キ委員ハ王命ニ依テ之レニ任シ典獄ハ委員ノ指揮監督ノ下ニ獄務ヲ統轄ス監獄ハ分ツテ禁錮監、檢束監及警察監ノ三種トシ禁錮監ハ多クハ既ニ分房制ニ據ツテ組織スルモ他ノ二監ハ尙ホ未ダ之ヲ執行スルニ至ラズ

〔獨逸〕獨逸ハ近ク千八百四十年ノ頃ニ至ル迄ハ尙ホ概シテ無制限ナル雜居制ヲ以テ大小ノ監獄ニ適用シ秩序整ハズ紀律立タズ其實況、往々ニシテ十七世紀時代ノ慘ヲ回想セシムルニ足ルモノアリ、尤モ二三有識ノ士ガ夙ニ獄制改良ノ必要ヲ認識シ或ハ言論ヲ以テ或ハ著述ニ

依リ鋭意熱心シテ切々大ニ此ニ力ヲ盡ス所アリシト雖モ之レニ對シテ政府及監獄當局者ハ堅ク其眼ヲ閉チ耳ヲ掩フテ昏然トシテ視ルナク默然トシテ聽ク所ナカリシモノヽ如シ然ルニ爾來種々ノ事情ヨリシテ犯罪殊ニ再犯件數ノ暴殖ヲ顯出シ社會ハ益々其危害ノ程度ヲ昂騰スルノ傾嚮アリ而シテ世人ヲシテ漸ク之レガ原因ノ監獄制不整備ニアルコトヲ認識セシムルニ至リタルヲ以テ從テ獄制改良論モ亦タ俄然トシテ是レヨリ朝野ニ噴々タルヲ見ルニ至レリ鄙諺ニ曰ク"言多キハ品寡シト"彼ノ徒ラニ噴々タルモノハ分房、折衷、階級等諸制ノ利害ニ關スル空論ニシテ其結果ハ反テ當局者ヲシテ彼此採擇ノ間ニ惑迷シ遑々トシテ之レカ實行ヲ躊躇スルニ至ラシメ終ニ一モ顯著ナル成績ノ見ルヘキモノナクシテ屢々革命政變ノ時代ニ遭遇シ僅カニ一歩ヲ進メテ忽チ數歩ヲ退キ一時ハ非常ニ退歩シテ殆ンド慘刻ナルカル第五世ノ刑法ヲパ逆行セントスルマデニ至レリ

監獄管轄權所在ハ統一ヲ欠キ且ツ其組織ハ宜シキヲ得ザリシコト亦タ實ニ獨逸(普國)ニ於ケル監獄改良ハ進歩ヲ阻害セシ所ノ一大原因ナリ、即チ始メハ一部(懲役監)ヲ警察官ニ隷シ一部(未決監)ヲ裁判官ニ屬セシメ後チ一旦內務大臣ノ統括ニ移シ(千八百十年)撞突ノ結果再ヒ復タ內務司法兩大臣ノ所管ニ分轄シ相因襲シテ以テ終ニ容易ニ根治スベカラザル痼疾ヲ今日ニ貽スニ至レリ、分轄ノ獄制改良ニ不可ナルハ往キニ既ニ(今世紀ノ初葉ニ於テフヲン、アルニ――ム(當時ノ司法大臣ニシテ獨逸ニ於ケル監獄改良家ノ卒先者)之ヲ痛論シミユ――レル(千八百三四十年ノ交ニ於ケル司法大臣)亦タ後チニ之ヲ祖述シ且ツ"何レニモセヨ結局統一ヲ得レバ則チ足レリ敢テ深ク其所屬ヲ撰フノ必要ナシト雖モ何レカト言ハヾ監獄ハ內務大臣ノ所轄ニ屬セシムルヲ適當ナリト信ズ"トノ意見ヲ開陳シ加之千八百四十五年ニ於テ凡ベテノ監獄ヲ以テ盡ク之ヲ司法大臣ノ管轄ニ專屬セシムベシトノ勅令ノ發布ヲ見ルマデニ至リシガ終ニ四十八年ノ國變ノ爲メニ之レガ實行ヲ見ル能ハズ爾後(千八百六十五年)議會ニ於テモ亦タ"內務司法何レカ其一ニ統

括セシムベシトノ意見ヲ議決シタルニモ拘ハラズ荏苒以テ今日ニ及ビ尙ホ未ダ此親易スキノ弊源ヲ杜絶スルニ至ラズ獄制改良ノ前途空シク識者ヲシテ常ニ痛嘆ニ堪ヘザラシム

獨逸ニ於テ始メテ獄制ノ改良ヲ實行スルニ至リタルハフリードリヒ、ウヰルヘルム第四世ノ時代ニシテ王ハ實ニ親シク自ラペントンヴクル監獄ノ視察ヲ遂ゲ之カ爲メニ終ニ自國ニモ亦タ分房制ヲ採用スルノ必要ヲ確認シ其結果モアビート(千八百四十四年乃至四十九年)ミユンステル(千八百五十一年)ブレスラウ(千八百四十四年乃至五十二年)ラチボール(千八百四十五年乃至五十一年)等ノ各所ニ分房制監獄ヲ新築シタトヒ其實際ニ於テハ大ニ王ノ意志ニ反スルモノアリシト雖モ兎ニ角之レニ據ツテ大ニ改良ノ氣焰ヲ盛ンナラシムルニ至リタルハ爭フベカラザルノ事實ニシテ爾來「ドクトル」ユーリユウス及ヒウアレントラツブ、ミツテルマイエル、チルチル、ヤーゲマン、テルカンプ、ホルツエンドルフ、ベルヲル、エベルチー、レーデル、シワルツエ、ワールベルヒ、ウヰツヘルン等有名ナル學者及實際家輩出シ一面ニハ理論的ニ大ニ行刑ノ基礎ヲ固メ一面ニハ實務的ニ着々管理組織ノ改良ヲ計リ多少張弛興敗ノ沿革ヲ經テ以テ今日ニ到リ先ヅ現今ニ於テハ少クモ內務省ノ所轄ニ屬スル所ノ監獄ハモアビートヲ始メトシテ着々分房制施行ノ境域ヲ擴恢シ能ク紀律ヲ厲行シ善ク遇四ノ旨義ヲ貫徹シ既ニ二三ノ監獄ハ全世界ニ對シテ模範監獄タルノ聲價ヲ占ムルマテノ域ニ到達セリ(是レ獨リ司法部內ニ於ケレ冷淡ナラサルヘカラサルヒ司法省ニ屬スル諸ノ監獄ハ概シテ其改良進歩ノ非常ニ遲々タルヲ免レサルモノ如シ)

ノ身ヲ以テ如何ゾ能ク一層劇忙ナル獄務操縱ノ樞局ニ當ルコトヲ得ヘケンヤ冷淡ニ趣ク止ムヲ得サル所以ナリ)アルノミナラズ沒然(深ク其利害ヲ研究スルコトモナク)分房制ニ對シテ感情的(內務部內ニ先制セラレタルカ爲メニ)反對ノ意見ヲ懷抱スルモノ多カリシヲ以テナリ尤モ司法部內ニアツテモ近時ハ分房制ノ必要ヲ認ムル者漸ク多クリ且ツ既ニ近ク數年前伯林市內ニ創設シタル未決監ノ如キハ完全ナル分房制組織ニ因ツテ之ヲ建造セリ

獨逸ニ於テ未ダ統一的監獄則ノ法定シタルモノナキハ欠點ナリ尤モ曩ニ一旦完全ナル監獄則及理由書ヲ草案シテ千八百七十九年、之ヲ議會ニ提出シ議會ニ於テハ調査委員(典獄及ヒ監獄醫等ヲモ撰抜

シテ之レニ加フ)ヲ擧ゲテ審議ヲ悉サシメタルノ末本議ニ付スルニ及ンデパイエルン撰出議員ノ意見ニ據リ終ニ當分之レカ實行ヲ中止スルコトヽナレリ蓋シ該法律發布ノ結果聯邦各國殊ニ多ク不完全ナル監獄ヲ有スル所ノ聯邦ニ於テハ改築若クハ新築ノ爲メ一時ニ多額ノ經費ヲ支出セサルベカラザルコトヲ恐レタレバナリ(法律施行ノ結果改築費トシテ合計凡ソ八千萬乃至一億萬「マルク」ヲ支出スルノ豫算ナリシト云フ)今日ノ景況ヲ以テ之ヲ見レバ將來モ亦タ尙ホ當分ノ間ハ獨逸ニ於テ統一的監獄則ノ發布ヲ見ルニ至ランコト至難ナルベキ歟但シ該草案及ビ理由書ハタトヒ未ダ實行ヲ見ルニ至ラザルモ實際ニ於テハ暗默ノ間ニ殆ンド法律的遵由ノ効力ヲ有スルモノヽ如シ

第五節　日本帝國ニ於ケル近世獄制改良ノ沿革

日本帝國ニ於ケル近世獄制改良ノ沿革

幕政時代ニ於ケル帝國刑獄ノ實況ハ獨リ史書其他群籍類ノ之ヲ記述スルモノアルノミナラス現存ノ人士ニシテ親シク躬ラ之ヲ經歷シタルモノ亦タ少カラズ故ニ若シ今日ニ於テ之レカ窮搜廣輯ヲ盡ストキハ一部ノ近代獄制沿革史ヲ編成スルコト必ズシモ困難ナル事業ニハアラザルベシ然レ𪜈是ハ本書ノ目的トスル所ニアラザルカ故ニ今姑ラク此ニハ之ヲ省略ス

"地"ヲ劃シテ獄ト爲ス民仍ホ之ヲ畏ル"慘虐苛酷ハ刑獄ヲ組織スルニ欠クベカラサル要素ナリトハ世教之ヲ說キ學者政治家亦タ之ヲ敎ヘ馴養ノ久シキ深ク國民ノ法想(獨逸語ニ所謂(レヒツツユーベルツァイグング) Rechtsueberzeugung)ニ浸染シ刑獄ヲ言フ者必ス慘酷ノ連想ヲ伴生セザルハナク輿論擧ゲテ慘酷即チ刑獄本然ノ性質ナリト確信シテ疑ハザリシモノヽ如シ幕政時代ニ於テ未ダ曾テ絕テ獄制改良論ノ起ラザリシコト敢テ深ク怪ムニ足ラザルナリ之レヲ概スルニ幕政時代ニ於ケル監獄ノ慘況ニ就テハ同時代ノ歐洲ニ於ケルモノト敢テ大ニ相懸隔スル所ナキカ如ク歷々トシテ東西其軌ヲ一ニスルノ轍アルヲ見ル然カモ後世之レニ向ツテ曾テ改良論ノ起ラザリシ所以ノモノ蓋シ我國ニ於テハ古來刑獄ノ目的物

ハ庶民ニシテ庶民ハ則チ政治上無能力ノ集團タリ且ツ所謂民ヲシテ據ラシムヘシ知ラシムヘカラズ"主義ヲ以テ爲政ノ要訣トナシタルヲ以テ庶民ハ常ニ蚩々トシテ恰カモ奴隷ノ境遇ニ在ルカ如ク刑獄其他一般ノ政治上ニ於テ曾テ之ヲ可否スルノ知識ナク能力ナクマタ資格ナシ而シテ此知識能力及ヒ資格ヲ有スル所ノ者ハ則チ中流以上ノ士人ニシテ士人ハ則チ刑"不上士"ノ古制ニ基ヅキ常ニ刑獄目的以外ノ主体タリシカ故ニ刑獄ニ對シテ之レカ痛痒ヲ感ズルコト甚ダ薄ク從テ其寛猛如何就ニテハ啻ダニ冷淡ナルノミナラズ寧ロ自己ノ位置ノ利益ノ爲メニ反ツテ一層其嚴ナランコトヲ望ミ所謂刑罰ヲシテ其猛ナルコト虎ヨリモ猛ナラシメンコトヲ要求シ幕政時代ニ於テ士以上ヲ拘禁スル所ノ監獄ヲ揚屋牢トナク其組織、民獄ト全ク相同ジカラズ例ヘバ佛國「パスチール」ニ於ケル國事獄ノ如ク又獨逸ニ於ケル城塞獄ノ如ク大ニ寛大ナル規則ヲ以テ其囚ヲ優遇セリ之レニ加フルニ我國ニ於テハ彼ノ歐米諸國ニ於ケルカ如ク刑獄ニ對シテ宗教社會ノ同情ヲ表スルコト甚ダ薄ク否ナ寧ロ皆無ニシテ或ハ反ツテ因果自然ノ天數トシテ其慘虐ノ正當ヲ認メタルモノ、如キ等ノ事情アリシニ由來スルコトナルヘシト信ズ

獄制改良ノ端緒

帝國ニ於テ肇メテ獄制改良ノ談アルヲ聽クハ實ニ維新政變ノ後ニアリ、明治十一年、ストツクフヨルム萬國監獄會議委員長イー、シー、ワインスニ宛テタル我ガ內務故大久保公司法(大木伯)兩大臣連署ノ公文ニ曰ク

前略夫レ文武天皇大寶元年律令ヲ撰定シ囚獄司ヲ置キ其方法ヲ設ケシヨリ以來千有餘年間時ニ隆汙興衰アルヲ以テ屢々變更スルトコロアリ延ヒテ今上天皇明治元年ニ至テ政法一新囚獄ハ人權ヲ縮メ其生命ノ繫ルトコロナルヲ以テ最モ愼重ヲ加ヘ其方法ヲ改良スルニ注意ス後略

即チ明治二年十二月、刑部省中ニ囚獄司ヲ設クルノ制ヲ定メ專ラ優恤ヲ旨トシ德川氏執柄時代ノ陋弊惡習ヲ剗除スルコトヲ努ム明治四年七月、刑部省ヲ廢シ司法省ヲ置クニ及ンデ一旦囚獄司ヲ以テ之レニ移セシモ幾何モナクシテ又之ヲ廢シ囚獄ノ事、凡ヘテ地方廳ヲシテ之ヲ

管理セシメ司法省ヲシテ其法則ノ執行ヲ監督スルトコロトナス是レヨリ先明治三年新刑法(新律綱領)ヲ頒布シ徒刑ノ制(徒刑ニ五ツアリ曰ク一年半曰ク二年曰ク三年曰ク三年半)ヲ定メ各地方ニ徒場ヲ設ケテ之レガ執行ノ場所トナス徒囚ニ役業ヲ課シ尚ホ幾分ノ傭工錢ヲ給ス傭工錢ハ之ヲ分半シテ其一半ヲ常食外滋養品給與ノ費ニ供シ其一半ヲ滿期放免後營生ノ資ニ宛テシム其他マタ神學、佛學等ノ師ヲ招聘シテ精神教養ノ道ヲモ兼テ施ス所アリ稍々改良感化旨義ノ實行セラルヽモノアルヲ見ル即チ當時ノ規定ニ係ル徒場制規ト稱スルモノヽ節目ニ曰ク

一徒期滿テ後有籍ノ者ハ各自ノ生業ヲ營ムハ勿論無籍ノ者ト雖トモ優恤ノ處置アルニ付宜シク惡意ヲ改メ善事ニ遷ルヲ旨トスヘシ

一期限內ハ辛勞ノ作業ヲ命スルモ懲罰中ナレハ其命ニ背クヘカラサルハ勿論滿期放免ノ時ニ至テ生業ノ資金多カランコトヲ冀望シ命スルトコロノ作業ヲ勉强スヘシ

學舍定則

又學舍(徒刑人ニ工作ノ餘暇ヲ以テ習字讀書ヲ勉メシムル所トス)ノ定則中ニ曰ク

一教授所ニ入ル者ハ博聞多識ヲ求メス只管放心ヲ求ル一端ヲ得ンコトヲ欲スヘキコト

一凡テ役使ノ餘暇ヲ以テ文ヲ學ヒ人倫五常ノ道ヲ篤ク心得ルコトヲ緊要トシ總テ行有餘力則以學文ノ意ヲ體認スヘキコト

獄制改良ノ緒此ニ開ケ着々蹠革進歩ノ形迹アルヲ見ルニ際シ尚ホ泰西諸國ノ獄制ヲ參酌シテ大ニ我獄制ヲ改正セントスルノ議アリ政府ハ特ニ四獄權正小原重哉氏ヲ東洋英領地方(香港、新嘉坡等)ニ派遣シテ其實況ヲ調査セシム使臣復命ノ結果終ニ明治五年十二月監獄則及監獄則圖式ヲ制定發布スルニ至レリ其開卷第一ノ緒言ニ曰ク

獄制調査委員ノ派遣始メテ監獄則ヲ布ク

獄トハ何ソ罪人ヲ禁錮シテ之ヲ禁錮スル所以ナリ

獄ハ人ヲ仁愛スル所以ニシテ人ヲ殘虐スル者ニ非ス人ヲ懲戒スル所以ニシテ人ヲ痛苦スル者ニ非ス

刑ヲ用ルハ已ヲ得サルニ出ツ國ノ爲メニ害ヲ除ク所以ナリ獄司欽

テ此意ヲ體シ罪囚ヲ遇スヘシト殘虐痛苦ヲ剔除シテ專ラ仁愛懲戒ノ道ニ因ル即チ所謂改良主義ヲ採ルノ意向ハ此ヲ以テ炳然タリ實ニ突進的大改良ヲ加ヘタルモノト謂ハサルヲ得ス殊ニ其一躍シテ夜間分房制（興造規模ノ條下ニ曰ク獄舍ノ制ハ樓二層若クハ三層ナルヘシ毎層ノ中央ニ登降ノ梯階ヲ設ケ左右數十房ヲ區別シ一房一囚ヲ法トス然レ已ヲ得サレハ一房ニ五人ヲ容ル又曰ク凡衆犯當ハ出シテ各工役ニ就ケ日暮ハ各其房ニ入レ關鎖ス）定アルニモセヨ後チノ吾人ヲシテ實ニ當時ノ立法者ノ卓見寧ロ其大膽ナルニ驚嘆セシメスンハアラス役法其他諸般ノ遇囚ニ就テモ亦タ彼ノ所謂階級法ニ據テ最モ精密ニ且ツ極メテ周到ニ規定スル所アリテ七綱領數十條今ヨリ之ヲ觀レハ固ヨリ批スベク難スベキノ點少キニアラサレモ然カモ之ヲ概スルニ比較的完全ナルモノト謂フヲ得ヘク吾人ヲシテ偏ヘニ感嘆措ク能ハザラシム然レモ當時ノ立法者ハ果シテ能ク之レカ實行ヲ豫期スル所アリシカ國情果シテ能ク之レカ實

監獄則ノ主義

分房制

階級法

行ヲ許スヘシト思惟シタルカ將タ百難ヲ排シテモ斷然之ヲ決行スルノ決心ヲ有シタルカ爾後數閱年ノ實際ニ徵シテ吾人ハ大ニ當時ノ立法者ヲ疑ハサルヲ得ス何トナレハ一モ分房制ニ據テ監獄ヲ改築シタルモノアラザリシノミナラズ現ニ構造ノコトニ就テハ該法令發布ノ當時除外例ヲ設ケ後亦タ幾何ナラスシテ忽チ法令全部施行ノ中止ヲ布達スルニ至リタルヲ以テナリ（東京鍛冶橋及埼玉縣浦和ニ建築シタル監獄ハ新式ニ準據シタルモノナリト雖モ他ノ地方ニ於テ實行セラルヽヲ見ルニ至ラス）

明治五年十一月布告第三百七十八號

今般監獄則並圖式御頒布相成候尤一般ノ監獄一時御改造相成兼候ニ付追テ東京府下ニ於テ造築可相成候間各地方ニ於テハ禁囚所遇及懲役ノミ先以規則ノ通施行可致事云々

明治六年四月布告第百廿九號

壬申第三百七十八號布告監獄則並圖式ヲ頒布シ且禁囚所遇及懲役法ノミ先可致施行旨相達置候處御詮義ノ次第有之ニ付當分總テ從

前ノ通可取計候事

尤モ爾后遇囚諸般ノ事着々舊來ノ陋弊ヲ更新シ且ツ政府ニ於テモ鋭意此ニ傾注スル所アリシモノヽ如ク明治六年五月ニ至リ更ラニ改定律例ヲ頒布シテ此ニ笞杖等ノ施體刑ヲ廢シ尚ホ大ニ刑名ヲ取捨スル所アリ（斬絞ノ外懲役終身ノ刑ヲ設ケ其以下一齣ニ懲役ニ改メ徒流等ヲ廢ス）明治七年十一月司法省及裁判所所屬ノ監倉ヲ除クノ外全國已未決ノ兩監ヲ內務省ノ統轄ニ移シ九年ニ至リ更ラニ監倉トモ凡ヘテ盡ク內務省ノ統轄トナシ東京ハ警視廳自餘ハ使府縣廳ニ司管セシム是レヨリ先キ監獄ノ經費モ亦タ總ヘテ官費ヲ以テ支辨スルコトニ一定シ刑獄ノ面目此ニ至ツテ殆ンド一變セリ

佛國流政刑ノ旨義ハ和蘭ニ獨逸ニ白耳義ニ將タ墺斯土利ニ伊太利ニ殆ンド全歐ヲ席卷シテ到ル所獄制改良ノ發達ヲ阻格セルコト既ニ前ニ記述スル所ノ如シ泰西文物輸入ノ結果トシテ彼レニアツテハ兵馬ヲ以テ法權ヲ蹂躪セラレタル結果トシテ我國モ亦タ實ニ其厄運ニ遭遇セリ明治十三年十一月五日布告第四十八號地方監獄費ヲ以テ盡ク之ヲ地方稅經濟ニ移シタルガ如キ縱令ヒ直接ニハ兵亂（十年西南ノ役）ノ餘波、財政整理ノ必要ニ出テタルモノナリトハ言ヘ（布告ニ曰ク今般歲計ヲ節約シ紙幣消却ノ元資ヲ增加シ併セテ地方ノ政務ヲ改良スルノ要用ナルヲ察シ云々）トモ間接ニハマタ佛國流制度ノ我ガ政治家ノ思想ヲ養成シタルノ結果終ニ我レヲシテナポレヲン第一世帝ノ故智ヲ學バシムルニ至リタルモノニアラサルナキヲ得ンヤ而シテ此制變ハ實ニ我國獄制改良上ノ第一着的頓挫タリシナリ同年五月「コード、ペナル」（佛國刑典）ニ據ツテ組織シタル新刑法ヲ制定發表シ翌十四年一月ヨリ之ヲ施行スルニ至リタルコト又實ニ第二着的頓挫タリシナリ是レヨリ先キ新刑法實施ノ準備トシテ明治十四年九月改正監獄則ヲ制定頒布セリ（改正ト謂フヨリ寧ロ新定ト稱スルヲ適當トス何トナレハ明治五年發布ノ監獄則ハ爾來殆ンド實施セラルヽ所アラザリシヲ以テナリ）該監獄則ハ分ツテ四篇十五章百十有三條トシ汎則規程構造、役法、給與、教誨、賞罰等治獄上必要ノ事項ハ細大殆ンド漏スナク寧ロ繁細ニ過グルマデニ詳密周到ニ規定スル所アリト雖モ獄制ノ骨子タリ眼目タル拘禁制（ペナルシステム）ニ就テハ其見ル所、極メ

テ淺薄ニ、殆ンド獄制上ノ知識ヲ埋沒シテ終ニ混同雜居ノ制ヲ採リ僅カニ漠然タル刑名、年齡、犯數等ニ依ツテ集團的ニ夜間ノ寢房ヲ別異スルニ過キス之ヲ彼ノ明治五年發布ノ監獄則ニ於テ比較的完全ナル階級制ヲ採用シタルモノニ比スレハ實ニ著ルシキ一大退歩ナリト謂ハザルヲ得ス吾人ハ之ヲ見テ轉タ彼ノナポレヲン第三世帝カ「コ―ド、ペナル」旨義ヲ再興シタルト同時ニ分房制施行ノ中止ヲ發令シタル事蹟ヲ追懷セスンハアラス我カ十四年發布ノ監獄則モ亦タ實ニ「コ―ド、ペナル」ノ餘弊ヲ襲受シタルナリ否ナ「コ―ド、ペナル」ノ旨義體裁ニ據ツテ組織シタル新刑法ノ結果ニ餘儀ナクセラレタルナリ尙ホ語ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ佛國流政刑旨義ノ我カ社會ヲ支配シタルノ一顯象トシテ見ルヘキナリ、改正監獄則ノ罪囚懲戒感化ノ旨義ヲ實行スルニ適セザルコト固トヨリ論ヲ俟タズ獨リ怪ム監獄則當時ノ立法者之ヲ悟ラズ當局ノ有志亦タ此ニ顧慮スル所アラザリシモノヽ如ク之レニ據ツテ尙ホ能ク訓誨勵奬其宜シキヲ得バ遷善悔悟ノ目的ヲ貫徹シ得ベシト確信セルヲ是レ固トヨリ妄信ナリ迷想ナリ妄信迷想ヲ實施シタルノ結果ハ此ニ益々獄制改良ノ道ヲ杜絶シタルモノアルヲ信ス罪囚ヲ待ツコト猶ホ職工ヲ待ツカ如ク獄舍ヲ見ルコト恰カモ作業場ヲ見ルカ如シ懲戒行ハレズ紀律立タズ行刑眞面目ノ要素ハ殆ンド其痕迹ダモ之ヲ見ル能ハズ之レカ爲メ終ニ大ニ社會ノ反動ヲ惹起セリ社會ハ頻リニ監獄ニ向ツテ其寬宥ニ失シテ懲罰ノ効ナキコトヲ攻擊シ犯罪增加ノ在監人ハ漸次增殖シテ十四年末在監人三萬四千〇六十二人ニ達シ十九年末ニ於テハ七萬〇二百七十三人ノ多キヲ見ルノ原因ヲ以テ一ニ其責ヲ治獄ノ不完全ナルニ歸セントセリ

空役說ノ起原

有力ナル政府當局ノ政治家等ノ心ヲモ動シタルモノヽ如シ凡ソ物動モスレハ輙チ極端ニ移リ易シ寬宥ヲ攻ムルノ結果此ニ漸ク嚴酷ヲ要求スルノ傾向ヲ生シ或ハ空役鐵丸罪石等ヲ唱ヘ放流(再犯加重ノ罪囚又ハ別房留置者等ヲ小笠原島其他ノ孤島ニ向ケ)ヲ議シ或ハ給養ヲ薄カラシメ或ハ幾分ノ體刑(例ヘハ懲鞭ヲ用ヒ片鬚ヲ剃除スルノ類)ヲ用フベシトノ意見ヲ主張スル者アルニ至レリ斯クテ又一方ニハ經驗上、實際ニ不便ナルノ點少カラ

ス其他種々外因事情(條約改正等)ノ必要ヲ迫ルモノアリ審復審議多少ノ年所ヲ經過シタルノ末此ニ終ニ明治廿二年七月ニ至テ第二回改正監獄則ノ發布ヲ見ルニ及ベリ現行監獄則即チ是レナリ是レヨリ先、或ハ一時、監獄事務ヲ以テ警察官衙ノ兼掌ニ移シ或ハ監獄局ヲ廢シテ警保局ノ一課ニ併ハスニ至リタル等獄制上不利益ノ影響ヲ受ケタルモノ少カラス其間、概スルニ獨リ退歩ノ傾向アルノミニシテ未ダ曾テ改良ノ成績トシテ見ルヘキモノアラサルモノヽ如シ、廿二年發布ノ監獄則ハ幾カニ或ル點ニ於テ改良ヲ施コス所アリ少クモ舊則時代ニ籠罩セル陋弊ノ幾分ヲ矯治スルニ適當ナル方法トシテ認ムヘキモノ少カラス部著日本監獄法講義緒言ノ一節ニ曰ク

第二回改正監獄則ノ發布

改正ノ要點

改正監獄則ニ於テ最モ著ルシク原則ノ體裁及ヒ規程ヲ改正增補又ハ刪除シタルモノヲ擧クレハ(第一)勅令ヲ以テ治獄大體ニ關スル重要ノ規程ヲ擧ケ省令ヲ以テ之レカ施行ノ細則ヲ規定セラレタルコト則チ是レナリ中署(第二)未決者ヲ待ツニ無罪純無ノ良民ヲ以テスルノ精神ヲ實行センカ爲メニ先ツ其名稱ヲ改メテ刑事被告人ト呼ヒ拘禁ノ場所ヲ改稱シテ拘置監トナシ其食物ノ自辨ヲ許シ且ツ懲罰ノ規程ヲ廢スル等苟クモ拘禁ノ目的ヲ害セサル限リハ務メテ人身自由ノ制限ヲ寛和スルノ方針ヲ取リ(第三)定役ニ服セサル囚人(中署)ニハ其鬚髮ヲ蓄フルヲ許ス等成ルヘク刑餘ノ苦痛ヲ感セシメサル旨義ニ從ヒ尚ホ又一般ノ囚人ヲ遇スル上ニ於テハ(第四)或ハ給與工錢ノ額ヲ增シ(第五)或ハ食物ノ分量ヲ加ヘ(第六)又ハ看讀書籍(第七)差入物(第八)書信及ヒ(第九)接見ノ制限ヲ寛緩シ若クハ(第十)階級主義ニ從ッテ有賞票者ヲ優遇スルノ規程ヲ設ケタルカ如キ何レモ皆治獄ノ本旨ニ適スルモノナリト謂フヘシ其他(第十一)監獄ニ於テ放恣不良ノ少年ヲ感化スルノ得策ニアラザルヲ認メ情願懲治ニ關スル原則ノ規定ヲ創リ此種ノ者ハ渾ヘテ私立專門ノ感化院等ニ托スヘキ精神ヲ示シ又(第十二)彼ノ役付即チ傳告者又ハ誘工者ト稱スルカ如キモノハ往時ノ所謂牢名主ナルモノヽ變制ニシテ動モスレハ漫

ニ威權ヲ弄シテ平四ヲ凌壓スルノ弊風アルヲ以テ之ヲ削リ且ツ(第十三)刑餘頼ルナキ者ハ監獄ニ留置スヘキ性質ノモノニアラサルヲ以テ之レニ關スル原則ノ規程ヲ廢シタルカ如キハ殊ニ最モ策ノ宜シキヲ得タルモノナリト謂ハサルヲ得ス惟フニ此際各地方ニ於テハ彼ノ歐米諸國ノ例ニ倣ラヒ出獄人保護會社等ヲ設立シ刑餘頼ルナキ者ハ勿論刑法附則ニ該當スヘキ者(被監視人)ヲモ收養シ尚ホ進ンテ凡ヘテノ出獄人ニシテ一時治路ニ迷フ所ノ者ヲモ保護監督スルノ方法ヲ講スルニ至ルヘシ云々

之ヲ要スルニ改正監獄則ハ一應ハ大ニ舊監獄則ノ面目ヲ一新シ獨リ體裁ノ上ニ於テ繁簡其宜シキヲ得タルノミナラス幾分カ歐米諸國ニ行ハル治獄ノ旨義ヲ參酌シ且ツ實際應用ノ便否難易ヲ考量シテ制定シタル表面的且ツ比較的完備セルモノト謂フヲ得ヘキカ如シト雖モ然カモ尚ホ退テ之レカ改正ヲ促カスニ至リタル因由ヲ稽ヘ且獄制上ノ智識ヲ以テ忌憚ナク其出來榮ノ巧拙ヲ推敲スルトキハ結局、一言ハ下ニ等シク是レ舊阿蒙タルヲ免レサルモノト冷評シ去ラサルヲ得サルナリ殊ニ其百尺竿頭一歩ヲ進メテ斷然雜居制ノ舊套ヲ脫却スル能ハズ僅カニ階級制ノ糠粕トモ謂フヘキ瑣末姑息ノ一部分ヲ採用スルニ止メタルガ如キ吾人ノ眼ニハ殆ンド些ノ改良ナシト謂フモ決シテ過言ニアラズ況ンヤ折角ノ新監獄則モ其大部分ハ實施セラルヽヲ見ルニ至ラズシテ止ムニ於テヲヤ獄制改良ノ前途未ダ希望峰ヲ發見シ得タリトハ謂フヘカラズ而シテ其之レカ實施ヲ見ルニ至ラズ又當時ニ於テ未ダ完全ナル根本的改正法案ノ制定セラルヽニ至ラザリシ所以ノモノ抑モ其理由ノ基クモノアツテ存ス他ナシ曰ク現行刑法ノ改正セラルヽニ及ハザルコト及ヒ監獄費地方經濟ノ所屬タルコト即チ是レナリ。治獄ノ基ク所ハ刑法ニアリ之ヲ家屋ニ譬フレハ刑法ハ基礎ニシテ監獄ハ屋上タリ屋上ヲ莊嚴ナラシメント欲セハ先ヅ其基礎ヲ改造セザルベカラズ、經濟ノ治獄ニ關係アルコト亦タ最モ重大ナリ之ヲ譬フレハ猶ホ油ノ車軸ニ於ケルカ如ク石炭ノ蒸滊機關ニ於ケ

ルカ如シ完全ナル治獄ノ實行ヲ期セントナラバ先ヅ其經濟ノ出所ヲ統一的圓滑ナラシメスンバアルベカラズ此ニ是レ注意スル所ナクシテ徒ラニ治獄ノ備ハランコトヲ求ム賤ノ緒学卷幾度ヒ繰リ返ヘスモ終ニ其實効ヲ見ル能ハザルコト寔トニ偶然ニ非ザルナリ

法ハ人ヲ須ツテ始メテ其用ヲナス操縦其人ヲ得レバ不完全ナル制度モ幾分カ其實効ヲ庶幾スルコトヲ得ベシ幸ニシテ當時治獄ノ當局者ニ良吏ヲ得タリ（山縣伯内務大臣タリ清浦法次官警保局長タリ）能ク熱心ニ能ク適實ニ獄務ヲ統轄シ或ハ遠ク治獄ニ經驗アルノ名士ヲ獨逸ヨリ聘傭シテ獄制改良ノ顧問トシ（フランゼーバツハト冊スル獨逸「モアビート」監獄ノ實務ニ死ス朝廷其功勞ヲ嘉シ特ニ勲五等瑞寶章ヲ賜フ）官タリ廿二年十一月赴任廿四年九月病ヲ得テ任期中以下ノ司獄官吏ヲ薫陶シ或ハ監獄評議委員（廿三年十一月内務省中ニ之ヲ設ケ法學博士、内務參事官、技師、判事、檢事、典獄等ヲ以テ委員トナシ警保局長ヲ委員長トス）ヲ組織シテ構造其他治獄上ニ關スル重要事項ヲ審議セシメ或ハ頻次巡閲官ヲ各地方ニ派遣シテ實務ノ張弛ヲ監督セシメ其他或ハ各地方ヲ促シテ構造ノ改築ヲ實行セシメ或ハ地方官ニ訓令シテ出獄人保護事業ノ實施ヲ計畫セシメ（假令ヒ尚ホ其實施ヲ見ルニモ至ラザルニモセヨ）或ハ監獄長官ノ位置ヲ進メテ其職權ヲ擴張シ其獨立ヲ鞏固ナラシムル等獨リ表面ノ上ニ於テノミナラズ實際上、マタ着々改良ノ成績ヲ擧グル所アリ獄制進歩ノ機運此ニ至テ俄然トシテ開發ノ兆ヲ見ルニ至リ終ニ進ンテ監獄費國庫支辨ノ問題ヲ提供シ（之レカ立案者ハ實ニ清浦現内閣法次官タリ）大ニ社會ヲシテ斯ノ事業ニ傾注スルニ至ラシメ結局、政府提出案トシテ第二期ノ帝國議會ニ提出セラルヽニ及ベリ是レヨリ先キ（明治廿四年四月）警保局長ニ交迭アリ清浦奎吾氏去ツテ小松原英太郎氏（當時、埼玉縣知事タリ）之レニ代ハリ（清浦氏ハ歐洲視光ノ途ニ上ルコト亦タ其目的ノ一ニ屬スルコト少キニアラス周遊凡ソ一年ニシテ廿五年四月歸朝歐洲現時ノ獄制ヲ視察研究スル故ニ此旅行ハ獄制沿革史ノ上ニ關係ヲ有スルコトヲ信ス或ハ演說ノ上ニ或ハ新聞雜誌ノ上ニ其所見ヲ公ケニシ大ニ社會ノ注意ヲ惹起スル所アリ）能ク前任者ノ意見ヲ承繼シ益々周密ニ獄制改革ニ盡ス所アリ時ノ内務次官白根專一氏亦タ獄事ニ注意スルコト甚タ深ク特ニ監獄費國庫支辨問題ニ向ツテハ最モ熱心ニ盡瘁スル所アリ獄制ノ事、是レヨリ一層ノ活氣ヲ生ズルニ至

監獄費國庫支辨法案

ル爾來、今日ニ至ル迄、制度ノ上ニ於テハ別ニ著ルシキ變更ヲ見ルニ至ラザルモ井上伯入ツテ內務大臣ノ椅子ヲ占メ警保局長ノ位置亦タ屢々交迭小松原氏ニ代ハリ大森鐘一氏(今ノ長崎縣知事)縣治局長トシテ一時之ヲ兼チ次ヒテ高崎親章氏(今ノ茨城縣知事)之レニ代ハリ幾何モナクシテ小野田元熙氏代ツテ之レニ就ク アリ伯ハ曾ヲ監獄則改正首唱家ノ一人トシテ最モ深ク斯ノ事業ニ同情ヲ有シタルノ經歷アルノミナラズ、今此局ニ當ルニ及ンデ又一層、切ニ其改良ニ傾注スル所アリ現任警保局長亦タ近世獄制沿革史上ノ知名ノ士、其他參事官都筑馨六氏書記官久米金彌氏等、內務現任ノ官吏中獄制上ノ知識アル者鮮カラズ又學者トシテ法學博士穗積陳重、同木下廣次、同富井政章、法學士江木衷等ノ諸氏有力家トシテ司法次官清浦奎吾氏、經歷家、功勞家トシテ貴族院議員小原重哉、典獄石澤謹吾等諸氏ノ熱心、以テ監獄行刑ノ理術ニ研究鞅掌スル所アリ獄制改良ノ前途、最モ多望ナリト謂フベシ現內閣ハ監獄費國庫支辨問題ヲ政府案トシテ議會ニ提出スルコトヲ中止シタリ吾人甚タ之ヲ惜ム殊ニ長ク之ヲ政略的中間問題(政府ト議會トニ論ナク)トシテ宙間ニ遊離セシムルノ獄制上、極メテ不得策ナルヲ慨嘆セスンバアラス殊ニ吾人ノ仄カニ傳聞スル所ニ據レハ近ゴロ又獄制改正ノ內議アリ、或ハ一躍シテ完全ナル階級制ヲ採用スルニ至ルベシト、斯クノ如クニシテ始メテ獄制改良ノ實効ヲ見ルヲ得ベシ望ムラクハ完全ナル獄制ヲ組織センナラバ先ヅ現行刑法ニ向ツテ根本的改正ヲ斷行セヨ之ヲ爲サズシテ先ヅ改正監獄則ヲ發布スルガ如キコトアル勿レ、止ムナクンバ暫ラク之レカ發布ヲ猶豫セヨ先ヅ着々現行監獄則ノ規程ヲ厲行シ一面ニハ又其範圍內ニ於テ許ル限リノ改正ヲ實施セヨ操縱苟クモ其人ヲ得バ法規ノ不完全ナルハ必ラズシモ深憂トナスニ足ラズ唯ダ當局者ヲシテ益々大ニ改良進取ノ氣象ヲ發揮セシムル所アレバ則チ可ナリ

監獄ハ國家的公共事業ナリ、內ニハ監獄直接ノ當局者ハ論ヲ俟タズ、司法官、警察官其他地方行政諸機關ノ協力ヲ求メ、外ニハ學者、政治家、實業家、宗教家、慈善家等ノ贊同ヲ要ス、病ヲ治スルノ妙ハ病ナキニ治スルノ巧ニ如カズ、罪惡ハ國家ノ病弊ナリ、刑ハ無刑ヲ期ス、是レ豈ニ治世ノ要ニアラズヤ罪惡ヲ矯治スルハ監獄、夫レ或ハ之ヲ能クセン罪惡ヲ養成

スルコト監獄、亦タ能ク之ヲ爲サン然カモ宜シク退テ犯罪ノ因ツテ起ル所ノ理由ヲ探求セヨ、又能ク之ヲ根治スルノ方法ヲ研究セヨ、監獄以外、豈ニ又罪惡ヲ矯治若クハ養成スルモノナカランヤ慨ムラクハ我國ニアツテ社會未ダ之ヲ知ラズ獨リ外學者、宗教家、政治家等ノ監獄事業ニ對シテ冷淡ナルノミナラズ內、監獄以外ノ當局者ニシテ最モ直接ノ關係アルモノ尙ホ未ダ其事業ノ改良ニ熱注スル所アラズ、貧民救育、惡少年感化、出獄人保護等、種々治獄行刑ニ前後シテ密切ニ其効用ヲ全カラシムル所ノ事業ニ至ツテハ殆ンド未ダ毫モ關トシテ聽ク所アラズ帝國獄制沿革史ヲ記述シテ此ニ至ル、吾人ハ筆ヲ投シテ改良前途、尙ホ甚ダ遼遠ナルヲ嘆ゼザンハアラザルナリ

帝國獄制ノ沿革ニ就テハ先年我カ政府ヨリ「ストツクフヲルム」萬國監獄會議ニ提出シタル所ノ獄制沿革徵略ヲ參考シタルモノ少カラズ讀者尙ホ就テ本書ヲ閲讀セバ其詳ヲ知ルコトヲ得ベシ

第二章　犯罪及刑罰

第一節　犯罪者

國家ハ個人ヨリ成ル、人、各々個々ノ意思ヲ有ス或ハ右セント欲スル者或ハ左セント欲スル所ノ者、所謂其面貌ノ異ルカ如ク意思モ亦タ相同シカラズ若シ夫レ斯ク相同シカラザル個々ノ意思ノ自由ニ活動スル所ニ向ツテ曾テ之ヲ抑制箝束スル所ノモノナシト假定セン乎國家、即チ社會共同的生活ノ體面ハ一日モ能ク之ヲ確保シ得ベキニアラザルナリ、是ニ於テ乎則チ國家アレバ必ズ此ニ法律アリ、法律以テ民人個々ノ自由活動ヲ禁止令行ス、之ヲ禁止シ、之ヲ令行スル須ラク國家ノ强行力ヲ以テセザルベカラズ、是ニ於テ乎即チ刑法ノ必要ヲ生ジ禁止令行ニ背反シテ活動スルノ所爲ヲ犯罪ト稱シ犯罪アル民人ハ即チ犯罪者トシテ强行的ニ之ヲ制裁ス

偶發的犯罪者
慣習的犯罪者

犯罪者ハ通例、分テ之ヲ偶發的犯罪者及ヒ慣習的犯罪者ノ二種トナス感情的、一時ノ、或ル事情ヨリ克己ニ堪ヘズシテ犯罪スルニ至リタル者、之ヲ偶發的犯罪者ト稱シ、苟クモ機會ノ乘スベキモノアレハ何ノ思慮

モナク殆ンド天性的容易ニ犯罪ヲナシ再三再四懲セモ悔ヒス誨フレモ悛メス所謂病膏盲ニ入リテ治シ難キ者之ヲ慣習的犯罪者ト稱ス。劍傷、毆打、奸淫、僞證、誹毀等ノ犯罪ヲナス者、多クハ其前者ニ屬シ殺人罪ノ內、憤激復讐、差辱等ノ爲メニ起リタルモノヽ如キ將タ竊盜罪ノ內ニモ所謂"貧"ノ盜ミト稱スルモノヽ如キモ亦タ之レニ屬ス、之レニ反シ彼ノ竊盜罪ノ最多數、其他詐僞、故賣、媒合、僞造、贋造、强盜、浮浪罪等ヲ犯ス者ハ概シテ之ヲ後者即チ慣習的犯罪者ニ算入スルヲ得ヘシ偶發的ト慣習的ト其犯罪者タルニ至ツテハ則チ一ナリト雖モ然カモ之レカ社會ニ危害ヲ加フルノ度ニ於テハ乃チ彼此、決シテ同日ノ論ニアラス、彼レ偶發的犯罪者ニアツテハ一タヒ其境遇ヲ移スカ或ハ其外部ノ必要ヲ去ルカ將タ多少ノ時間ヲ經過スルトキハ則チ恰カモ驟雨一過、日影ノ樹梢ニ殘ルカ如ク忽チ復タ良必ノ發動ヲ見ルニ至リ直チニ之ヲ縱ルスモ殆ンド再ヒ復タ犯罪ヲナスノ虞ヒアルナク概シテ其社會ニ危害ヲ加フルコト割合ニ輕微ナリト謂フヲ得ヘシ慣習的犯罪者ニ至ツテハ則チ全ク之レニ異リ常住座臥、其傾注スル所唯タ犯罪ノ一アルノミ念々營々、此ニ出デサルハナシ彼レハ則チ犯罪ヲ以テ殆ンド其職業トナシ恰カモ商賈カ切々トシテ其花客ノ多カランコトヲ求ムルカ如ク彼レモ亦タアラユル手段ヲ用ヒテ偏ヘニ其犯罪事業ノ榮昌センコトヲ努ム彼レノ榮ユルハ即チ社會ノ衰漸ナリ彼レ慣習的犯罪者ノ爲メニ社會カ危害セラルヽコトノ甚大ナルハ識者ヲ俟テ後ニ之ヲ知ラサルナリ。是ヲ以テ共ニ均シク犯罪者ヲ以テ論スヘキモノナリト雖モ之レニ對スル刑及ヒ行刑ノ上ニ就テハ此レト彼レト大ニ其權衡ヲ異ニスル所ナクンバアルヘカラス

單ニ犯數ノ多寡ヲ以テ偶發的及ヒ慣習的ヲ別ツハ準トナスヘカラス、刑法上ノ所謂初犯者ニシテ仍ホ慣習的犯罪者ヲ以テ目スベキアリ(竊盜ニ此類ヲ多シトス)之レニ反シ再犯三犯ノ者ニシテ仍ホ且ツ偶發的犯罪者ヲ以テ論スヘキアリ(毆打、誹毀、其他諸般ノ政治犯ニ此類多シ)宜シク其個々ノ事實及ヒ性情ノ上ニ就テ之ヲ鑑識スヘキナリ

犯數

外形上犯數ノ上ヨリ或ハ犯罪者ヲ別テ單ニ初犯者及加犯者トナスモノアリ、此區別ハ即チ各國刑法ノ一般ニ採用スル所ノモノナリト雖モ畢竟其目的ノ刑及ヒ行刑上彼此權衡ヲ異ニセント欲スルニアル所ヨリ之ヲ見レハ寧ロ偶發的及ヒ慣習的ノ二種ニ別ツノ簡明ニシテ且ツ適當ナルニハ如カサルナリ

犯罪者ノ種族

犯罪者ハ社會總ヘテノ階級種族ヲ通シテ之ヲ出サヽルハナシト雖モ然カモ之ヲ出タス上ニ於テ性種、年齡、職業、身分、宗教等ノ異同ニヨリ自ラ亦タ彼此多少ノ差等アルヲ見ル、即チ女子ハ男子ニ比スレハ犯罪者ヲ出ダスコト割合ニ寡ク(男百ニ對シ女二十一ノ割合ナリ但シ罪質ニ依リテ著ルシキ相異アリト知ルヘシ)又年齡ノ上ヨリ之ヲ見レハ丁年乃至四十歳ノ間ニ最モ多ク十二歳乃至二十一歳ノ間之レニ亞ギ四十歳乃至六十歳ノ間ニ至ツテ稍々減少シ六十歳以上ニ及ンデハ最モ著ルシク退縮ヲ致スノ實況ナリ、其他或ハ親族的關係ノ上ニ就テ之ヲ言ヘハ獨身者ハ有偶者ニ比シ犯罪者ヲ出タスコト割合ニ多ク有偶者ノ内ニ於テモ亦子女ヲ有スル者ト否ラサル者トニ依ツテ相異アリ、或ハ職業上ノ關係ヨリ之ヲ觀レハ職工ニ多クシテ農夫ニ少ク一定ノ職業ナキ者ニ於テ最モ多數ヲ出ダシ官職ニ衣食スル者ニ至ツテハ則チ其數最モ僅少ナルノ割合ナリ、或ハ居住地ノ關係ヨリ之ヲ言ヘハ都會ハ概シテ地方ニ比シ犯罪者ヲ出ダスコト割合ニ多ク地方ノ内亦タ貧富ニ依ツテ其影響スル所、尠少ニアラス、將タ又宗教上ノ關係ヨリ之ヲ觀察スルニ歐米ニ在ツテハ舊教信徒ハ新教信徒ニ比シ概シテ犯罪者ヲ出ダスコト多數ナルモノヽ如ク我國ニ於テモ佛教信徒ト基督教信徒、佛教ノ内ニ於テモ亦タ各宗各派ニ屬スル信徒ヲ相比較シテ其犯罪ニ對スル關係割合ヲ計査セハ其間ニ於テ必ラス顯著ノ差異アルヲ見ルヘク尤モ犯罪者ノ多數ハ殆ント全ク始メヨリ宗教ノ觀念ニ缺乏セルコト決シテ爭フヘカラサルノ事實ナリ、

宗教、教育、身分、職業其他社會的諸般ノ關係ノ斯クノ如ク犯罪ニ影響ヲ及ホス事實ヲ認識シ之レニ由テ其原因ヲ稽査シ其救治ノ方法ヲ研究

セバ大ニ以テ刑法及ヒ行刑ノ面目ヲ更新スルニ至ルコト知ルヘキナリ是レ豈ニ獨リ行刑若クハ刑法當局者ノ任務ノミナランヤ

第二節　犯罪

犯罪

犯罪ノ定義

國家生存ノ必要條件タル一定ノ禁令ヲ犯シテ國家ニ毀害ヲ加フルノ所爲ヲ指シテ犯罪ト稱ス試ミニ犯罪總計表ヲ繙テ之ヲ見ヨ犯罪ノ社會ニ現ハルヽモノ年々歳々實ニ驚クベキ非常ノ多數ナルヲ知ルヘシ(帝國統計年鑑ノ示ス所ニ據ツテ之ヲ見ルニ明治二十二年ニ於テハ重輕罪ノ言渡處分ヲ受ケタル件數ノミニテモ其數實ニ二十有餘萬ノ多キニ達ス)而シテ其犯罪直接ノ原因ニ就テハ或ハ刑事人類學派等ノ否拒スルモノアリト雖モ予輩ハ之レヲ以テ大體民人固有ノ自由意思(フライヒ Freie Wille)ニ歸着セシメサルヲ得ズ然レモ亦タ社會的種々ノ關係事情アツテ間接ニ之ヲ犯罪ノ方嚮ニ誘導シ餘義ナクスル者アツテ存スルハ固ヨリ非認スヘカラサルノ事實ニシテ若シ人力ヲ以テ之ヲ除却シ得ルモノト假定セハ據ツテ以テ大ニ犯罪ヲ減少シ得ヘキコト炳然火ヲ觀

犯罪ノ原因

犯罪ノ增減

ルヨリモ尙ホ明ラカナリ唯タ夫レ均シク同一ノ意思ニシテ何ガ故ニ一ハ則チ社會的間接ノ原因ニ打チ勝ツテ正道ヲ陷ミ他ハ乃チ之レニ壓伏セラレテ迷路ニ奔ルヤノ疑問ニ就テハ予輩ハ唯ダ一言、イグノラムース」Ignorrmus 即チ不可思議的事相ト答ヘサルヲ得ズ

單純ヨリ複雜ニ趣クハ社會進化ノ定則タリ昔者、法三章ヲ以テ天下ヲ治メシモ今ハ乃チ千百啻ナラサルノ律令ヲ制定シテ尙ホ以テ足レリトセス、法、繁密ナレハ犯罪、亦タ從テ多數トナルヲ免カレサルハ自然ノ理勢ナリ是ヲ以テ社會文明ノ進歩ト共ニ犯罪モ亦漸次發達增殖スルノ傾嚮アルヲ致ス尤モ重罪殊ニ殘忍暴虐ノ犯罪ニ至ツテハ文明ノ進歩ニ從テ次第ニ其數ヲ減却スルモノヽ如シ

文明ノ進歩ト犯罪ノ係關

文明進歩スレハ則チ戶口蕃殖スルトキハ則チ生存競爭ヲ盛ンナラシメサルヲ得ズ、生存競爭益々盛ンナルトキハ則チ愈々犯罪ノ增加ヲ來サヾルヲ得ザルハ蓋シ必至ノ理勢ナリ是ヲ以テ都會繁華ノ地ハ犯罪者ヲ出ダスコト人烟稀薄ノ村落地方ニ幾倍シ文明進歩セ

ル國ハ勢ヒ常ニ比較的多數ノ犯罪者ヲ現出スルニ至ルヲ免カレス文明進歩スルトキハ社會賢愚貧富ノ懸隔益々甚シキヲ致シ其結果愚者ハ賢者ヲ忌ミ貧者ハ富者ヲ嫉ミ或ハ怨嗟ヲ强メ或ハ非望ヲ高メ終ニ多數貧愚ノ民衆ヲ驅ツテ犯罪ノ犧牲タラシムルニ至ルヲ招來ス彼ノ蚩々タル無智無産ノ民目ニ巍々タル高樓大厦ノ聳フルヲ望ミ耳ニ洋々タル歌舞管絃ノ響クヲ聽キ耳目ノ觸ルヽ所一トシテ上流社會歡樂安佚ノ光景ニアラザルハナク顧ミテ己レヲ見レバ則チ家ハ以テ雨露ヲ凌グニ足ラス衣ハ以テ寒暑ヲ防グニ足ラズ食ハ以テ饑渴ヲ醫スルニ足ラス妻子路頭ニ迷フモ如何トモ亦タ之ヲ救フニ由ナキナリ怨羨ト欲望ト困憊ノ餘終ニ運命ヲ犯罪ニ賭スルニ至ラシムルコト社會モ亦タ幾分カ其實ヲ分タサルヲ得スト謂フヘキナリ文明進歩スルトキハ個人ト國家ノ距離次第ニ近接シ終ニ個人ヲシテ鄉黨組合教會家族等諸般最モ有効ナル社會的制裁力ノ繫鎖ヲ脫却スルニ至ラシメ其結果殊ニ著シク幼年犯罪者ノ增加ヲ來タスヲ見ル文明進歩スルトキハ世運ノ激變スルモノ亦タ甚シク職業上ノ榮枯ハ殆ント朝タニ夕ベヲ計ル能ハサルノ實況ニシテ職業ノ危疑ハ勢ヒマタ犯罪ヲ增加セシムルニ至ルヲ免カレス

若シ夫レ文明ト犯罪ノ種類ハ關係ニ就テ之ヲ稽査スルニ文明ノ發達ハ民産ヲ驅リテ上層少數者ノ掌裏ニ湊合シ下層多數ノ民衆ヲシテ困迷貧苦ノ悲況ニ陷ラシメ機械力ノ進歩ハ次第ニ人力ヲ節シテ殊ニ多數職工者ノ生業ヲ奪ヒ身ニ技能アリ力能ク勞苦ニ堪フヘキ所ノ者スラ尙ホ之ヲ用ヒテ糊口ノ道ヲ得ルニ由ナク經濟上ノ窮乏ハ終ニ財産ニ關スル犯罪ノ增殖ヲ招來スルニ至リ又文明ノ進歩スルニ從ヒ社會生計ノ程度漸ク昂騰シ一方之ヲ充タスノ資ヲ得ルノ道益々限縮シ終ニ幾多ノ壯丁ヲシテ結婚ノ希望ヲ達スルコト能ハザラシムルカ爲メニ彼ノ情慾ノ發動ハ勢ヒ正徑ヲ脫シテ岐路ニ入リ其結果風俗ニ關スル犯罪ノ增加ヲ顯出スルニ至リ其他又文明ノ進歩ハ勢ヒ個人的自主自由ノ觀念ヲ勃興セシメ終ニ或ハ國權ニ對シ公益ニ關シ若クハ名譽

信用等ニ關スル犯罪ヲ增加スルノ結果ヲ誘致スルニ至ラシムルヲ免カレス之ヲ要スルニ文明ノ進歩ニ伴隨シテ犯罪ノ增加スルハ恰カモ水勢ノ高キヨリ低キニ就クカ如ク之ヲ防止抑制センコト頗ル至難ナリト謂ハサルヲ得ス文明國ニ於ケル刑法及ヒ行刑當局者ノ任モ亦タ至重至難ナリト謂フヘシ

第三節　刑罰

刑罰法律及刑法

法律ハ國家生存ノ必要條件ナリ故ニ國家ニシテ苟クモ其生存ヲ保全セントナラハ國家ハ全力ヲ以テ之ヲ强行セサルヘカラス是ニ於テカ則チ刑法ノ必要ヲ生ス刑法ハ即チ國家ト一個人トノ生存競爭ナリト謂フヲ得ヘシ

刑罰ノ因由及其主義

刑罰ハ何故ニ之ヲ課セサルヘカラサルカ(刑罰ノ因由)又如何ニ之ヲ執行セサルヘカラサルカ(刑罰ノ主義)ハ立法者適用者及ヒ執行者ノ最モ研究ヲ要スルノ問題ニシテ殊ニ其執行ノ局ニ當ル所ノモノハ先ツ之ヲ研究領知スルニアラサレハ到底完全ナル行刑ノ目的ヲ貫徹シ得ヘキニアラサルナリ

刑罰ノ因由ニ就テハ古今學者ノ說ク所一ナラスト雖モ結局正理公道ノ要求スル所即チ刑罰起生ノ因由ナリト斷言セサルヲ得ス尤モ所謂正理公道ト稱スル內ニハ純性、屬性、區別アリト雖モ苟クモ社會生存ノ條件ニ適スル以上ハ屬性、マタ場合ニ依リテハ純性ノ正理公道トモ相異ル所アラサルナリ

刑罰ノ主義ニ就テモ亦タ諸家各々其見ル所ヲ同フセス則チ通例分ツテ之ヲ絕對主義、對立主義及ヒ折衷主義ノ三種トナス

絕對主義〔絕對主義〕刑罰ハ方法ニ非スシテ目的ナリ故ニ國ニ刑罰アルハ惡因惡果必至當然ノ理アリテ然ルモノニシテ敢テ他ニ利益ヲ目的トスルカ爲メニ設ケタルモノニアラス〃トハ則チ絕對主義ノ要旨ニシテ刑法學者ベルネル氏ハ左ノ論理ニ據ツテ之ヲ說明セリ

ベルネル氏ノ刑罰主義

(ち)國家重要ノ活動ハ人類必至ノ理ニ基ク

(ろ)刑罰權ノ作用ハ國家重要ナル活動ノ一部分タリ

(は)故ニ刑罰權ノ作用ハ其目的刑罰ノ外ニ存セスシテ刑罰其レ自身ノ内ニアルナリ

對立主義

カント、ヘーゲル、クーザン、ギゾー等諸氏ハ即チ絶對派主義ノ論者トス」

〔對立主義〕對立主義ノ要旨トスル所ハ刑罰ハ國家カ或ル目的ヲ達スルガ爲メノ一手段トシテ設ケタル者ナリト謂フニアリ而シテ其方法ニ就テハ對立論者ノ内、其見ル所亦タ相同シカラス即チ或ハ脅嚇主義ト云ヒ或ハ防衛主義ト云ヒ或ハ復讐主義或ハ警戒主義或ハ矯正主義等數派アリト雖モ其最モ重要ナルモノヲ脅嚇主義及ヒ矯正主義ノ二派トナス復讐主義ハ古代未開ノ社會ニ行ハレタル所ノモノニシテ「モセス」法ニ所謂"齒以齒報之目以目償之"モノ即チ是レナリ中世ニ及ンテハ脅嚇主義最モ强大ナル勢力ヲ占メ近代尙ホ未タ全ク其勢力ヲ失墜スルニ至ラス現行刑法ノ此ニ根據スルモノ亦タ尠カラサルナリ其主義トスル所ハ即チ一殺多生ノ旨趣ニ基ツキ苦痛ヲ犯罪者ニ與ヘ之レニ由リ一般ノ民衆ヲ畏嚇シテ國家ノ法紀ヲ遵奉セサルヘカラサルノ

觀念ヲ起サシメント欲スルニアリ中世ニ於ケル總ヘテノ峻刑酷罰及ヒ殘虐ナル治罪ノ方法ハ何レモ皆ナ脅嚇主義ノ製產物ト謂フヲ得ヘク子產ノ所謂"法"ハ猛ナルコト烈火ノ如クナラシムベシ"ナルモノ即チ脅嚇主義ノ要旨ナリ獨逸有名ノ刑法學者ミッテルマイエル、ブライエルバッハ等諸氏ハ專ラ此說ヲ唱道セリ法理學者スターール氏ハ此主義ニ反對シテ曰ク"脅嚇主義ハ殘忍酷薄ニシテ公道(Sittlichkeit)ヲ紊リ性情(Venunft)ヲ毀ブルコト甚シト矯正主義ハ復讐主義ニ反對シテ起リタル所ノ學說ニシテ即チ犯罪ヲ以テ心性ノ闕陷ニ歸シ犯罪者ヲ改良懲治シテ社會有用ノ良民ニ復歸セシメント欲スルニアリテ近世刑法學者ノ之ヲ主張スルモノ少カラス碩學ブルンチリー氏曰ク矯正主義ハ刑罰ノ傷害タリ苦痛タルコトヲ忘却ス是レ其最モ非難スヘキ欠點ナリト

スターール氏ノ說

ブルンチリー氏ノ說

折衷主義

〔折衷主義〕折衷主義ノ要旨トスル所ハ正理公道ノ要求(絶對主義)スル所ヲ以テ刑罰ノ基礎トナシ之ヲ實行スルノ目的ヲ以テ社會ノ生存ヲ保

ポアソナード氏ノ説明

ペルチル、ヲルトラン、フヲースタン、エリー等ノ説

チ公益ヲ增進セシメント欲スルニ(對立主義)アリテ近世ニ至リ獨リ學説上最モ強大ナル勢力ヲ有スルノミナラス各國現行刑法ノ基礎トスル所亦タ概ネ此ニアルモノヽ如シ帝國現行刑法ノ立案者タルポアソナード氏ノ説明ニ曰ク"本案編纂ニ方テ刑ノ輕重ヲ定擬スルニハ專ラ此中和説(道義及公益ノ折衷説)ニ準據セリ固トヨリ道義上ノ惡重クシテ社會ノ公益輕キモノアリ社會ノ公害重クシテ道德上ノ惡輕キモノアリト雖モ其何レニ重キヤヲ論セス其重キニ從テ乃チ適當ノ重刑ヲ科スルノ理アリトス"云々意義少シク明瞭ヲ欠ク所アリト雖モ要スルニ帝國刑法モ亦タ折衷説ヲ基礎トシタルモノナルコト知ルベキナリ但シ同一折衷主義ノ内ニモ或ハ正理ニ重キヲ置キ公益ヲ附屬物トシテ之ヲ論シ或ハ公益ニ重キヲ置キ正理ヲ輕視シテ之ヲ説クモノヽ區別アリペルチル、ヲルトラン、ヲヲースタン、エリー等諸氏ハ即チ有名ナル折衷派主義ノ論者ナリトスヲルトラン氏ハ左ノ有名ナル問答録ヲ作ツテ簡單ニ其主義ヲ説明セリ

ヲルトラン氏ノ問答録

罪人、社會ニ問フテ曰ク何故ニ汝ハ予ヲ罰スルカ

社會答テ曰ク是レ汝カ招ク所ナリ(正道)

罪人問テ曰ク何故ニ汝ハ自ラ手ヲ下スカ何者カ汝ヲ裁判官トナシ又ハ行刑官トナス乎

社會答テ曰ク是レ余カ保存ヲ計ル爲メナリ(目的)

ミツテルマイエル氏ノ刑罰主義發達ノ沿革

ミツテルマイエル氏ハ刑罰主義發達ノ沿革ヲ概論シテ曰ク"刑罰ノ主義ハ復讐ニ起リ脅嚇ニ中シ正義ニ終ハル"ト正理公道ノ要求即チ刑罰起生ノ因由ナリトハ予輩モ亦タ爾カク之ヲ確信ス而シテ其主義方法ニ就テハ時勢國情ノ如何ニ依リ或ハ脅嚇主義ヲ必要トシ或ハ矯正主義ヲ適當トスル場合アルベク苟クモ其場合ニ於ケル正理公道ノ要求ヲ充タスニ足ルモノハ即チ之ヲ以テ最良ノ主義ト認定スルヲ得ベク必ズシモ絶對的ニ何レヲ可トシ何レヲ不可ト斷定スルコト固トヨリ至難ナリト謂フベシスペンサー氏曰ク"彼ノ峻刑酷罰ハ其本質ニ就テ論ズレバ不正ハ則チ不正ナリト雖モ野蠻社會ニ於テ之ヲ用ヒザレバ法

スペンサー氏

令行ハレズ犯罪ハ益々繁殖シ其影響スル所ハ遂ニ無辜ノ民ニ慘毒ヲ蒙ラスニ至ルベシ是ヲ以テ野蠻社會ニ於テ峻刑酷罰ヲ用フルハ即チ其當時ノ正理公道ノ要求ヲ充タスモノナリト謂ハザルヲ得ズトノ之ヲ要スルニ刑罰起生ノ因由ヲ以テ正理公道ノ要求ニアリトスル以上ハ刑罰ハ即チ此要求ヲ充タスニ足ルノ方法ヲ以テ組織セザルベカラザルコト明ラカニシテ今日ノ時勢ニ於テハ脅嚇ト矯正ト兩々相折衷融和スルコト最モ必要ナリト信ズ完全ナル刑及ビ行刑ハ必ラズ是等ノ要素ヲ具備シタルモノナルヲ要ス

第四節　刑罰ノ種類

個人ノ勢力ヲ怖ルヽハ國權薄弱、法紀確立セザルノ時代ニシテ社會ノ進歩スルニ從テ次第ニ之ヲ恐怖スルノ程度ヲ減却スルニ至ル、刑罰ハ古代ニ峻酷ニシテ今世ニ寛大ナル所以ナリ、古代ニアッテハ個人ノ勢力強大ニシテ從テ其犯罪的行爲ハ國家治平ノ基礎ヲ攪亂スルコト甚シキガ故ニ死刑、體刑、追放等アラユル峻酷手段ヲ用ヒテ之ヲ社會外ニ驅逐スルコトヲ務メズンバアルベカラズ之レニ反シ今世ニ於テハ國權鞏固、法紀亦タ秩然トシテ確立シ蟠斧的個人ノ勢力ハ容易ニ以テ社會生存ノ基礎ニ痛痒ヲ感ゼシムルニ足ラザルガ故ニ犯罪者ニ對スル上ニ就テモ獨リ漫ニ之ヲ驅逐スルガ如キコトアラザルノミナラズ寧ロ收容矯治スルノ方法ヲ用ヒテ反ッテ之ヲ社會ニ復歸セシメンコトヲ務ム。生命ヲ絶ツモノ之ヲ生命刑(死刑)ト稱シ中世以前ニ於テ一般ニ最モ盛ンニ行ハレタル所ノ刑罰ニシテ今世ニ於テハ或ハ全ク之ヲ廢シ(和蘭)或ハ之ヲ適用ノ外ニ置キ(白耳義)或ハ稀レニ之ヲ適用スルコトアルモ實際ニ於テハ殆ンド紙上ノ空文ニ止マラシムルガ如クナルニ至レリ、身體ヲ毀傷スルモノ之ヲ身體刑ト稱シ宮、黥、笞、杖等ノ刑ハ即チ之レニ屬シ、國境外ニ追逐スルモノ之ヲ追放刑ト稱ス此二種ノ刑モ亦タ死刑ト同ジク未開時代ニ多ク適用セラレタル所ノモノニシテ今代ニ於テハ殆ンド全ク消滅シ了スルニ至リタリト謂フモ可ナリ、名譽的感情ノ上ニ强行スルモノ之ヲ名譽刑(加辱刑)ト稱シ、財産ノ上ニ及ボス

モノ之ヲ財産刑ト稱シ、自由ヲ剝奪スルモノ之ヲ自由刑ト稱ス、自由刑及ヒ財産刑ハ今世、文明諸國ニ於テ最モ盛ンニ適用セラルヽ所ノモノニシテ名譽刑ハ多クハ僅カニ附加刑トシテ其用ヲ爲スニ過ギズ尤モ財産刑ハ刑罰ニ必要ナル均一平等ノ要素ヲ欠キ(人ニ貧富ノ差別アルヲ以テナリ)十分ニ正理公道ノ要求ヲ充タスニ足ラザルモノナルガ故ニ今日ノ實況、漸次其適用ヲ減縮セラルヽノ傾向アリ之レニ反シ自由刑ハ次第ニ其領域ヲ擴充シ今日ニ於テハ各國、到ル所之ヲ以テ刑罰ノ基礎トナシ之ヲシテ他ノ種類ノ首班ニ列セシメザルベカラザルニ至レリ」

自由刑ノ種類

罪ノ大小ト刑ノ輕重

第五節　自由刑ノ種類

刑ハ罪ノ反響ナリ、均シク社會ノ法紀ヲ壞亂スルノ行爲ナリト雖モ其社會ヲ毀害スル上ヨリ之ヲ見レバ自ラ亦タ大小輕重ノ區別アッテ存スルハ勿論ニシテ從テ刑罰モ亦タ之レニ適應シテ大小輕重ノ等差ヲ立テシムル所ナクンバアルベカラズ此要件ヲ具備スル所ノモノニシテ始メテ之ヲ完全ナル刑罰ト稱スルヲ得ベク自由刑ハ即チ一日ニ始マリ終身ニ終ハリ其間無限ノ階級アルヲ以テ能ク之ヲ活用スルトキハ千種萬樣ノ犯罪ニ對シ其輕重ニ適應スル相當ノ報果ヲ課スルコト必ズシモ至難ノ業ニアラズ

コード、ペナ

或ハ流刑ト稱シ或ハ徒刑ト名ヅケ或ハ懲役禁獄禁錮等種々ノ名稱ヲ付シテ脅嚇的ニ自由刑ヲ類別セント試ミタルハ「コード、ペナ」(佛國法典)始メテ之レカ俑ヲ作リ歐洲大陸諸國相踵テ之レニ倣ラヒ英國モ亦タ終ニ之ヲ襲用スルニ至レリ其意、蓋シ個々輕重アル所ノ犯罪ニ對シテ各々適當ナル刑罰ヲ賦課セント欲スルニアリタルコト明ラカナリト雖モ經驗上、若シ嚴ニ之ヲ實行スルトキハ其結果自由刑ノ性質ヲ變ジテ死刑若クハ體刑ニ化成スルニ至ラシメ寛假スルトキハ則チ徒ラニ空文ニ止マリテ實刑ニ輕重ノ區別ナキニ至ラシムルヲ免カレズ

自由刑ノ大別

自由刑ハ大體ニ於テ之ヲ重罪、輕罪及ヒ違警罪ニ對スル自由刑、名譽ヲ毀ブル所ノ及ヒ之ヲ毀ブラザル所ノ自由刑並ヒニ主刑及ヒ附加刑ノ三樣ニ大別スルヲ通則トス

帝國自由刑ノ種類

我ガ帝國刑法モ亦タ「コードペナー」採ル所ノ類別法ヲ繼受シタルモノニシテ則チ自由刑ヲ別ツテ徒刑、流刑、懲役、禁獄、禁錮、拘留及ヒ監視ノ七種トナシ尚ホ懲役、禁獄、禁錮ニ對シ各々重輕ノ區別ヲ設ケテ之レニ對ス。徒刑、流刑、懲役及ヒ禁獄ハ重罪ニ對スルノ主刑ニシテ輕罪ニ對スルノ主刑ヲ禁錮トシ拘留ハ即チ違警罪ニ對スルノ主刑タリ而シテ其輕重罪ニ對スル附加ノ自由刑ヲ監視ト稱ス、尚ホ又流刑、禁獄及ヒ輕禁錮ノ三種ハ多クハ破廉恥的ナラザル犯罪ニ課スル所ノモノナルヲ以テ所謂名譽ヲ毀ブラザル所ノ自由刑ニ屬スルモノナリト謂フヲ得ヘシ、

各種刑罰ノ執行

刑法ハ各種ノ自由刑ニ就テ其區別ノアル所ヲ明示シテ曰ク"徒刑ハ島地ニ發遣シ定役ニ服ス(女子ヲ除ク)"(第十七條及第十八條)"流刑ハ島地ノ獄ニ幽閉シ定役ニ服セズ"(第二十條)"懲役ハ內地ノ懲役場ニ入レ定役ニ服ス"(第二十二條)"禁獄ハ內地ノ獄ニ入レ定役ニ服セズ"(第二十三條)"禁錮ハ禁錮場ニ留置シ重禁錮ハ定役ニ服シ輕禁錮ハ定役ニ服セズ"(第二十四條)"拘留ハ拘留所ニ留置シ定役ニ服セズ"(第二十八條)ト然ルニ其執行上ノ實際ニ就テ之ヲ見ルニ斯クノ如ク刑名ニ數種ノ類別アルニ拘ハラズ實刑上、殆ンド一モ相區分スル所アルヲ見ズ、徒刑及ヒ流刑ハ島地發遣ノ點ニ於テ其他ノ自由刑ト稍々劃然タル區別アルカ如シト雖モ女子ニ就テハ明文上、既ニ變例ヲ設ケ男子ノ徒流刑四ニシテ尚ホ常ニ內地(集治監)ニ於テ執行ヲ受クル者其數甚ダ少カラス(現ニ監獄則第一條ニ"集治監ハ徒流刑ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス"ノ明文アリテ內地ニ於テモ亦タ東京宮城及ヒ三池ノ三個所ニ集治監ノ設ケアリ)殊ニ所謂"島地"ト認メタル北海道ニアッテモ內地ト同ジク地方監獄ノ設ケアリテ徒流刑以外ノ自由刑ヲ執行シッヽアルカ故ニ少クモ同地方ニアッテハ刑法、執行地ヲ劃別スルノ精神スラ之ヲ貫徹スル能ハサルノ實況ナリ(北海道ヲ以テ島地ト認ムルノ可否ニ就テハ別ニ部見アレドモ此ニハ之ヲ略ス)懲役以下各種ノ刑ニ就テハ若シ强テ其區別ノアル所ヲ求メントナラハ刑法上、唯ダ僅カニ執行場所ノ名稱ニ相異アルノ一點(或ハ單ニ「獄」ト稱シ或ハ「懲役場」ト稱シ或ハ禁錮場或ハ拘留所ト稱ス)ノミニシテ是レトテモ亦タ監獄則ニ據レハ「地方

監獄)ナル一名稱ノ下ニ併合シ諸般管理法ノ上ヨリ之ヲ見ルモ殆ンド一モ相區別スル所アルヲ見ズ而シテ其定役ト稱スル所ノ者、縱令ヒ立法者ノ精神ニ於テハ佛國流ニ徒刑ニハ最モ至難ノ役業ヲ課シ懲役ニハ稍々困難ノ役業ヲ授ケ禁錮ニハ比較的輕易ノ役業ヲ與ヘント欲シタルニアルガ如シト雖モ(ポアソナード氏著日本刑法草案釋義ニ據ル)啻ダニ其實行ヲ期シ得ベキコトニアラザルノミナラズ既ニ明文ヲ以テ監獄則ニ於テハ刑名ノ區別ナク一般ニ罪囚各自ノ體力ニ應シテ相當ノ定役ヲ賦課スベキコトヲ規定シアルガ故ニ(第十七條)之レニ據ツテ區別セント欲スルモ亦タ望ムベカラズ結局スル所刑名ニ區別アルモ實刑ニ輕重スル所アラズト謂フヲ得ヘク若シ强テ實刑ニ輕重スル所アラシメント欲スルノ結果ハ或ハ體力不相當ノ役業ヲ課シテ或ハ健康ヲ害シ或ハ生命ヲ絕チ或ハ絕海ノ孤島ニ追逐シテ全然絕望ノ深淵ニ墜落セシメ終ニ自由刑本然ノ性質ヲ減却セシムルニ至ルヲ免レズ、然ラザレハ則チ到底名稱ノ如ク管理ノ實際ニ於テ其執行ヲ區別スル能ハザルコト我國今日ノ實況ノ如クナルニ至ルベキハ蓋シ自然ノ勢ナリト謂フヘシ

獨逸刑法主刑ノ區別

獨逸刑法ニ據レハ自由刑ノ主刑ヲ別テ懲役(ストラーフアンスタルト)、禁錮(ゲフェンクニスアンスタルト)、城塞禁錮及ヒ拘留ノ四種トナシ懲役場內ニ於テ一定ノ役業ニ服セシムルモノヲ懲役(第十五條)ト稱シ禁錮場內ニ於テ囚人ノ身分及技能ニ適應スル方法ヲ以テ相當ノ役業ニ服セシムルヲ得ルモノヲ禁錮ト稱シ城塞又ハ其他特定ノ場所ニ於テ囚人ノ業務及動作ヲ監視シテ其自由ヲ剝奪スルモノヲ城塞禁錮ト稱シ單ニ自由ヲ剝奪スルニ止マルモノヲ拘留ト稱ス我カ帝國刑法ニ比スレハ幾分カ其刑名ヲ簡ニスル所アリト雖モ是レスラモ亦タ其執行上ノ實際ニ就テ之ヲ見レハ懲役モ禁錮モ將タ拘留モ城塞禁錮モ殆ンド相區別スル所アラザルモノヽ如シクローネ氏曰ク前略斯クノ如ク法文上ノ區別アルニ拘ハラズ行刑上ノ實際ニ於テハ僅カニ强制的役業ノ有無ニ依テ之ヲ區別スルニ過キス(其實無定役囚ニ對シテモ亦就役ヲ勸誘スルノ方針ヲ取リ且ツ勸誘セサルモ一般ニ自ラ就役ヲ望ンデ一定ノ役業ニ服スル者多數ニシテ就ニ一旦服役シタル以上ハ紀律上、

強制的ニ服役ニ關スル一定ノ規定ヲ實行シヅヽアルカ故ニ此點ニ就テモ亦タ殆ンド定役四ト異ル所アルヲ見ス

定役アル懲役及ヒ禁錮、定役ナキ拘留及ヒ城築禁錮ノ間ニ於テハ實際毫モ其畛域ヲ別ツ所アラザルナリ、禁錮ハ技能及ヒ身分ニ相當ナル役業ヲ課スヘシト云フト雖トモ俳優ニ對シテ演劇セシメ新聞記者ニ對シテ新聞ヲ編纂セシムルコト固トヨリ爲シ能フベキコトニアラズ然ラバ紀律衛生ニ差支ヘナキ限リノ範圍ニ於ケル身分及ヒ技能ニ相當ナル役業ハ如何ト云フニ是ハ獨リ禁錮四ノミニ限ツテ之ヲ施行スベキモノニアラズ、役業ノ性質目的ノ上ヨリ之レヲ言ヘハ禁錮ト懲役ニ論ナク凡ベテ監獄ニ於テハ此旨義ニ適スヘキ役業ヲ撰ンテ之ヲ四人ニ賦課セスンバアルベカラス現ニ監獄則ハ明文ヲ掲ケテ此旨義ヲ明ラカニシ實際マタ到ル所、此規程ニ據ツテ執行セザルハナシ且ツ又刑法ノ明文ニ於テハ禁錮ハ四人ノ承諾ヲ俟ツテ始メテ外役ヲ課シ懲役ハ直チニ之レヲ强制シ得ルノ區別アリト雖モ外役ハ行刑ノ旨義ニ戻ルノ理由ニ依リ承諾ノ有無ニ拘ハラス一般ニ之レガ適用ヲ禁絶少クモ大ニ限縮スルノ方針ヲ取ルカ故ニ此點ニ就テモ亦タ二者ヲ區別スルコト實際ニ望ムヘカラス、殘ル所ハ僅カニ執行場所ノ名稱ヲ異ニスル一點(一ヲ懲役場ト稱シ一ヲ禁錮場ト稱ス)ノミナリト雖モ是レ亦タ實際ニ於テハ到ル所只タ同一監獄ノ門前ニ於テ二個ノ標札ヲ掲ケテ儀式的法文ノ要求ヲ充タスニ止マリ殆ンド一モ以テ法文ノ旨趣ヲ貫徹スルモノアルヲ見ス之ヲ要スルニ懲役ト禁錮トハ只ダ法文上ノ虛名的區別ナリト斷言スルヲ得ヘシ拘留ト城築禁錮トハ定役ナキノ點ニ就テ前二者ト著ルシク相異ル所アリト雖モ定役ヲ課セスシテ單ニ自由ヲ剝奪スル上ヨリ之ヲ見レハ二者ノ間毫モ相區別スル所アルヲ見ズ法文上、城築禁錮ハ業務及動作ヲ監視シテ自由ヲ剝奪スト云フト雖モ果シテ各自、好ム所ノ業務ヲ執リ動作、亦タ意ノ適從スル所ニ一任スルヲ得ベキヤ所謂監視ト稱スル內ニハ自ラ亦タ强制ノ意味ヲ有ス一定ノ業務、一定ノ動作、拘留モ亦タ請願ニ由テ業務ヲ課シ動作ハ即チ一定ノ紀律ニ服從セシム然ラバ則チ均シク定役ナキ拘留ト城築禁錮ノ間、亦タ實際

ニ其區別スル所アルヲ見ス殊ニ刑法第三百六十二條ニ依リ或ル犯罪ニ對スル拘留刑(浮浪、賭博、暴飲、遊惰、賣淫等)ハ監獄ニ於テ內役又ハ外役ニ强制セシムルヲ得ルノ規定アルヲ以テ通則ノ規程ハ此ニ至ツテ全ク空文ニ屬シ拘留ヲ以テ之ヲ定役アル懲役禁錮トスラ區別スル能ハザルノ實況ナリ云々ト實況ヲ穿チ得テ剴切ナリト謂フヘシ

刑名ニ從テ行刑ノ方法ニモ亦タ種々區別スル所アラシメンカ爲メニハ或ハ懲役ニ對シテハ最モ至難ノ役業ヲ撰ンテ之レニ課シ就役ノ時間ヲ長クシ工錢給與ノ額ヲ少クシ或ハ諸般ノ恩遇ヲ禁シテ最モ嚴酷ニ之ヲ管束シ或ハ懲罰トシテ笞杖其他ノ體刑ヲ加ヘ或ハ取締ノ爲メニ特ニ枷械鎖繩等ヲ施スヲ許ルス等ノコトヲナシ又禁錮ニ對シテハ之レニ反シ種々寬大ノ殊遇ヲ如ヘ甚シキハ其囚人ヲ稱呼スルニ貴君"ナル敬稱ヲ用ヒシメタルガ如キ等ノ窮策ニ出テ結局何レモ刑ノ公正嚴肅ノ旨義ニ戻ルノ結果ヲ見ルニ至ラザルハナク終ニ今日ニ於テハ各國一般ニ行刑ニ由ツテ種々ナル刑名區別ノ目的ヲ達セント欲スル

和蘭新刑法主刑ノ區別

ドンヴヰル氏ノ刑名說

コトノ立法者、卓上ノ空思妄想ニ過ギザリシ所以ヲ認識スルニ至リ是ニ於テ手即チ刑名簡約ノ必要ヲ生ジ近世立法ノ主義亦タ此ニ一變シ既ニ和蘭新刑法ノ如キハ此主義ニ據ツテ大ニ其刑名ヲ簡約ニシ即チ自由刑ヲ別ツテ禁錮及ヒ拘留ノ二種トナシ禁錮ヲ無期ト有期ニ分チ有期ハ一日ニ始マリ十五年ニ終ハリ拘留ハ一日ヲ最短期トシ一年ヲ以テ其最長限度ト定メ禁錮ハ役業ヲ强制シ拘留ハ請願ヲ俟テ之ヲ賦課ス斯クノ如クニシテ始メテ能ク刑名ノ區別ヲ行刑ノ實際ニ標識セシムルヲ得ベキナリ、帝國刑法改正草案モ亦タ大ニ刑名簡約ノ主義ヲ採リタルモノヽ如ク未ダ以テ盡ク學說上ノ要求ヲ充タスニ足ラザレ𪜈然カモ徒刑、流刑、禁獄等ノ刑名ヲ排斥シタルハ出色ノ進步ト謂フヘキナリ、ドンヴヰル氏曰ク刑名ノ多キハ以テ其刑法ノ幼稚ナルヲ知ルベシ法理、進步スルニ從テ刑法モ亦タ簡約ニ趣カサルヲ得ズ"ト或ハ曰ク刑名ヲ簡約ナラシムルトキハ以テ千種萬樣ノ犯罪ニ對シテ輕重適當ノ應報即チ刑罰ヲ課スルコト能ハザルニ至ルベシト是レ蓋シ杞

憂ノミ一日ニ始マリ終身ニ終ハル所ノ自由刑其間實ニ限リナキ段階アリト謂フヘシ犯罪ノ輕キモノハ即チ短期ヲ以テ之ヲ刑シ重キハ即チ長期若クハ終身ヲ以テ之ヲ罰ス其活用ノ範圍ハ寧ロ廣博ニ失スルノ嫌ヒアルマデモ決シテ狹隘ニ苦ムノ虞ヒアルベカラズ豈ニ千種萬樣ノ犯罪ニ恰當セシムルニ足ラズトセンヤ況ンヤ强制的役業ノ有無ニ依ツテ之ヲ別チ定役アル者ノ所得ハ一旦之ヲ國家ニ收入シタル後ニ於テ其幾分ヲ惠與的ニ報酬シ定役ナキ者ノ所得ハ四人權利的ノ所得トシ器具費ヲ控除シテ殘餘アレバ則チ之ヲ下付スル等正理公道ノ主義ニ一致スル上ニ於テ行刑上ニ於テモ亦タ適當ニ其輕重ヲ劃別スルヲ得ルニ於テヲヤ唯タ夫レ今日ノ憂ヒハ薫蕕混淆短期ノ自由刑ヲ適用スルコト多キニ過ギ之レカ爲メニ刑ノ眞面目即チ正理公道ノ要求ヲ充タス能ハス偶マ以テ犯罪者ヲシテ所謂「骨休メ」的感情ヲ以テ自由刑ヲ歡迎シ其結果反テ國權ヲ蔑如シ法紀ヲ輕視シ終ニ犯罪ヲ增加シ危害ヲ甚大ナラシムルニ至ルヲ免レザルニアリ是ヲ以テ近世自由

刑最下限ノ標準ヲ改ムベシトノ說漸ク多ク或ハマタ所謂「條件付裁判」ニ由テ短期刑ハ成ルベク之ヲ實行セザルノ方針ヲ取ルベシトノ議論アルニ至レリ

流刑ノ利害

徒刑及ヒ流刑ハ一ハ定役ヲ課シ一ハ之ヲ課セズ一ハ普通犯ニ對シ一ハ政治犯ニ對シテ之ヲ行フノ區別アリト雖モ其均シク島地ニ發遣シテ執行スル上ヨリ之ヲ見レバ歐洲各國ノ刑法ニ所謂「デポルテーション」又ハ「トランスポルテーション」(限リニ流刑ト譯ス)ナルモノト其性質ヲ同クス「デポルテ」ノ意見ヲ抱持スル所アリシガ曩キニ「ボトツクフヲルム」ノ萬國監獄會議ニ於テ殆ンド滿場ノ一致ヲ以テ流刑廢止ノ意見ヲ可決シタルヨリ以來今日ニ於テハ略ボ其議論ノ歸向ヲ一定スルニ至リタルモノヽ如シ英國ニ於テハ一時盛ンニ流刑ノ適用ヲ試ミル所アリシモ其結果弊失多クシテ利益少ク終ニ千八百六十三年ニ於テ全然之ヲ廢絕スルノ餘義ナキニ迫リ現今ニアツテハ佛國及ヒ魯國ノ外復タ流刑ヲ存續ス

流刑ヲ不可トスル理由

流刑ハ刑ノ性質ヲ缺損ス

ルモノアラザルナリ而シテ佛國ニ於テスラ有力ナル學者、政治家アッペルヘ―フエ、ビ―モント、ドクビ―ル等諸氏ニシテ熱心ニ流刑廢止ノ意見ヲ主張スルモノ少カラズ、何ガ故ニ流刑ハ之ヲ廢止セザルベカラザルカ日ク(第一)流刑ハ刑ノ性質ヲ缺損ス、正理公道ノ要求ヲ充タシ因ツテ以テ懲戒及ヒ矯正ノ目的ヲ貫徹セシムルニ足ラズ何トナレハ流刑ハ彼ノ鄕國ヲ追慕シ家族ヲ愛ハ反ツテ奬勵トナリ之レニ反シ家國ヲ愛慕スル良心ヲ存シ改過遷善ノ望ミアル犯罪者ニ對シテハ最モ殘暴苛虐ノ措置タルヲ免カレズ(曾テ英國ニ於テ盛ンニ流刑ヲ實行スルレンガ爲メニ反ツテ自ラ之レニ相當スル所ノ惡漢無賴ノ此刑ニ處セラレ之レ時ニ方リ犯罪ヲナスニ至リタルモノ少カラズ我國ニ於テモ亦タ現ニ監獄ノ禁囚ニシテ進ンデ自ラ島地ノ集治監ニ發遣セラレンコトヲ切望スルモノ多キノ實況ナリ)而シテ島地ニアッテハ絶望ノ極、唯ダ益々罪囚ノ心性ヲ醜壞シ之ヲシテ愈々非義無道ノ深淵ニ陷落セシムルノ一アルノミニ過ギザルヲ以テナリ―ペルトラニ―氏曰ク"流刑ハ啻タニ人ヲ畏懼セシムルニ足ラザルノミナラズ兇惡ノ徒ニ對シテハ反ツテ遠地ニ發遣セラルヽノ愉快ヲ感セシメ之レニ反シ家鄕ヲ愛慕スル良心アル者ニ對シテハ無上ノ苦痛ヲ受ケシムルニ至ルヲ免カレス要スルニ流刑ハ刑ノ公正主義ニ反戻スルモノナリト謂ハザルヲ得ズ"ト―デスポルト氏曰ク"彼レ淺慮無智ノ輩、往々ニシテ海ノ彼岸ニ於テ幸福且ツ容易ナル生活ノ彼等ヲ待ツカ如クニ妄想シ流刑ヲ受ケント欲シテ故ラニ一層重キ罪ヲ犯スモノ少カラサルハ爭フベカラザルノ事實ナリト"流刑ハ此ニ至テ全然刑罰タル性質ヲ滅了セリト謂ハサルヲ得ス

流刑ハ政略ノ公道ニ戻リ殖民地ノ發達ヲ妨ク

(第二)流刑ハ政略ノ公道ニ戻リ殖民地ノ發達ヲ妨害スルコト少小ニアラズ―メッヘリン氏曰ク"文明ヲ以テ自ラ許ルス所ノ者、其同胞中ノ最惡最醜ノ徒ヲ驅ツテ之ヲ桃花流水、無垢清淨ノ別天地ニ放遣ス果シテ所謂文明的道德ノ旨趣ニ適スルモノト謂フヲ得ベキカ"ウ井リアム、ヒンデ―氏曰ク"已レヲ利センカ爲メニ他ヲ戕害ス、本國ノ安寧ヲ維持センカ爲メニ領屬地ノ平和ヲ壞亂ス是レ果シテ政略ノ許ルス所ナルカ政略ナルモノ若シ果シテ德義ノ省察ヲ要セズトナラバ則チ止ム苟クモ正

流刑ハ經濟ノ要旨ニ適セズ

義ニ適スルモノ即チ最上ノ政略ナリトセバ流刑ノ如キハ決シテ政略ノ宜シキヲ得タルモノトハ謂フベカラズ況ンヤ新社會ハ罪惡之カ爲メニ傳播シ良民之カ爲メニ其堵ヲ安ンセス發達、此ニ止マリ退歩、此ニ漸ス歸スル所、據ツテ生スル所ノ害ハ其得ル所ノ利ニ幾數倍スルヲ免レザルニ於テヲヤト墺太利亞、西比利亞等ノ實例、歴々此言ノ誣妄ニアラザルヲ證明セリ(第三)流刑ハ經濟ノ要旨ニ適セズ、蓋シ流刑ハ押送、管理等其經費ヲ要スルコト常ニ莫大ナルヲ免カレズ若シ之ヲ移シテ內地ニ於テ堅牢完全ナル監獄ヲ建築スルノ費途ニ供充セハ獨リ如何ニ兇惡ナル犯罪者ト雖モ十分ニ之ヲ撿束シテ社會ヨリ離隔シ驅逐スルノ旨趣ヲ貫徹シ得ルニ足ルベキノミナラズ併セテ又行刑ノ目的ヲ達シ社會ノ毀害ヲ減少セシムルヲ得ルニ至ルベシ、佛國ハ流刑ヲ維持スルカ爲メニ實ニ二億萬「フランク」ノ巨額ヲ費消シタリ若シ之ヲ移シテ內地監獄ノ建築費ニ供シタリシナランニハ全國大小ノ監獄盡ク完全ナル分房制實施ノ結果ヲ見ルニ至リシコト疑ヒナシ且每年、一萬人ノ流刑囚ヲ拘禁スルノ費用ハ內地ノ監獄ニ於テ拘禁スル五萬人ノ囚徒費ニ匹抗スルニモ拘ハラス其成績ニ至ツテハ啻タニ一ノ見ルヘキモノアラザルノミナラズ得ル所ハ即チ行刑ノ壞亂、國帑ノ濫失及ヒ識者ノ冷笑ノミニ過ギザルナリ、之ヲ要スルニ何レノ點ヨリスルモ流刑ノ不可ナルコト亦タ多辯ヲ要セズシテ明ラカナルモノヽ如ク今日ニ於テ刑法學者中、寧ロ反對ニ保護ノ點ヨリ罪囚ノ善良ナル者ニシテ出獄後內地ニ於テ良民的生活ヲ營ムニ困難ナル事情アル者ヲ撰ミ之ヲ殖民地ニ發遣セシメ以テ新境遇ノ下ニ新生活ヲ營ムノ便ヲ得セシムヘシトノ說ヲ唱道スル者アルニ至レリ(昔者脅嚇手段ニ出デタル所ノ者今者即チ奬勵ノ方便ニ用ヒントス亦タ以テ流刑ノ始メヨリ刑罰ノ要素ヲ具備セサリシモノナルコト知ルヘキナリ)終リニ臨ンデ流刑問題ニ對スルストツクフヲルム會議ノ議決ヲ揭載スベシ曰ク

萬國監獄會ノ議決

流刑ハ實行上、不利ヲ感シ困難ヲ生ズルコト少小ニアラス且ツ完全ナル行刑法ノ要件ヲ實施スル上ニ於テハ全然希望スヘキモノニア

ラサルコトヲ認ム

或人曰ク"流刑ハ自由刑ノ隱遯所ナリ動モスレハ輙チ短見淺慮ナル學者政治家ヲシテ此ニ自由刑ヲ隱遯セシメント欲スルニ至ラシムト至"言ト謂フベシ幸ニ我國ニ於テハ既ニ刑法改正草案ノ徒流刑ヲ廢スルアリ行政ノ實際ニアツテモ亦タ大ニ其實行ヲ制限スルモノヽ如ク從ツテ未ダ著シキ弊害ヲ顯出スルニ至ラズト雖モ幾年ノ後或ハ又學者政治家ヲシテ大ニ此"隱遯所ヲ利用セント欲スルノ妄想ヲ起スニ至ラ"シメンモ亦タ計ルベカラズ是レ上來「デポルテ—ション」ニ就テ其利弊ノアル所ヲ詳述セシ所以ナリ

〔注意〕我カ刑法所謂徒流刑ト彼ノ「デポルテ—ション」ナルモノトハ多少其執行ノ方法ヲ異ニスルノ點ナキニアラズ故ニ「デポルテ—ション」ニ就テ論ズル所ノモノ必ズシモ盡ク之ヲ徒流刑ノ利弊ニ適セシムヘカラザルハ勿論ナリ

第六節　附加刑

帝國刑法ニ於ケル自由權ニ對スル附加ノ刑罰ヲ監視ト稱ス蓋シ監視ナルモノハ拿破烈翁革命時代ニ於テ佛國刑典ノ始メテ規定シタル所ニ係リ歐洲各國ノ刑法モ亦タ相踵テ之ヲ承襲シ次第ニ其適用ノ範圍ヲ擴張スルニ至レリ、ベルネル氏曰ク"監視ノ目的ハ始メハ脅嚇ニアツテ今ハ則チ治安ニアリト佛國刑典カ監視ヲ採用シタルノ旨趣ハ實ニ脅嚇ノ目的ヲ達セント欲スルニアリシナリ然ルニ今日ニ於テハ全ク其旨趣ヲ一變スルニ至リタルコト現ニ我カ帝國刑法ニ於テ"監視ハ主刑ノ終リタル後仍ホ將來ヲ檢束スル爲メ警察官吏ヲシテ犯人ノ行狀ヲ視察セシムルモノトス"(刑法附則第二十一條)トアルヲ以テモ之ヲ知ルヘキナリ

監視ハ通例重大ノ犯罪ニシテ社會ニ危害ヲ加フルノ虞ヒアルモノニ對シテ之ヲ附加スルモノトス我帝國刑法ハ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒズ總ヘテ各本刑ノ短期三分ノ一ニ等シキ時間之ヲ附加シ(刑法第三十七條)輕罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ明文アル或

ル犯罪ニ限リ特ニ宣告ヲ用ヒテ之ヲ附加ス、而シテ其所謂或ル犯罪トハ重モニ財産ニ對スル慣習的犯罪ノ如キ類ニシテ毆傷、倒產、背信其他風俗等ニ關スル所謂偶發的犯罪ニ對シテハ之ヲ附加セザルモノヽ如シ

別房留置

ボアソナード氏編著ノ刑法草案ノ説明ニ曰ク"監視ハ專ラ再犯ヲ防クノ目的ニアリト"刑法ノ旨趣ヲシテ若シ果シテ此ニアラシメバ重罪犯ヲ通ジテ盡ク之レニ監視ヲ附加スルコト甚ダ謂ハレナキコトヽ謂ハサルヲ得ズ何トナレハ重罪犯ノ内ニハ所謂偶發的犯罪ニ屬スルモノニシテ毫モ再犯ノ虞ナキモノ少カラザルヲ以テナリ

監視ヲ科スルノ方法

監視ノ變形シタルモノ之ヲ別房留置ト稱ス、別房留置モ亦タ間接的附加刑ノ一種ナリト謂フヲ得ヘシ何トナレバ主刑滿限ノ後或ル條件ヲ充タサヽル一定ノ期限間ハ强制的ニ監獄ニ留置シテ自由ヲ剝奪スル所ノモノナレハナリ

監視ヲ科スルノ方法ニ就テハ各國ノ刑法、各々其軌ヲ一ニセズ即チ其方法ヲ別テ三種トナス(第一)或ル定期ノ自由刑ニハ監視ノ附加ヲ宣告スルヲ以テ必然トナスモノ(第二)裁判官ニ於テ情狀ニ依リ監視附加ヲ宣告シ得ル權利ヲ與フルモノ(第三)裁判官ニ於テハ唯タ監視ヲ附加シ得ルノ宣告ヲ爲スノミニ止マリ其實行スルト否トハ高等警察官署ニ一任スルモノ即チ是レナリ、右第一種ノ方法ハ我帝國刑法ノ採用スル所ノモノナリトス是ハ果シテ事体ノ宜シキヲ得タルモノナリト謂フベキカ監視ノ目的ヲシテ若シ再犯ヲ豫防シ治安ヲ維持セシメンガ爲メニアリトセハ彼ノ個人的犯情ノ愍諒スベキ關係アル者ハ勿論其他ノ者ト雖モ主刑執行中ニ於テ顯然既ニ遷善改心ノ徵候アル者ニシテ再ヒ犯罪ヲナシ治安ヲ妨害スル恐レナキ保證アル者ニ對シテ尙ホ儀式的ニ之ヲ附加スルコト甚ダ事理ニ適セサルノ措置ナリト謂ハサルヲ得ズ、而シテ右第三種ノ方法ハ目下、獨逸刑法等ノ採用スル所ノモノニシテ其實行スルト否トハ高等警察官署ノ裁定權内ニアリト雖モ一應ハ必ズ監獄官吏ノ意見ヲ要シ警察官署ハ實際之ニ對シ濫リニ取捨スル所アラサルモノヽ如シ、監視刑ノ旨趣ニ適シタルモノト謂フヘシ」

監視ノ効果

監視執行ノ條件及其方法ニ就テハ國ニ依リ寛嚴相同シカラズ繁簡其宜シキヲ異ニス即チ我ガ刑法附則第二十一條乃至第三十七條ハ之レニ關スルノ規程ヲ列擧セリ

監視ノ効果ニ就テハ學說上及實際上ヨリ其利弊ヲ論爭スル者甚ダ多ク今日ニ至ルモ尙ホ其歸着スル所アルヲ見ルニ至ラス殊ニ矯正派主義ノ論者ノ如キハ熱心以テ之レニ反對ヲ表シ"監視ハ當該者ノ良民的生活ヲ阻礙スルコト少小ニアラス、其再犯ヲ豫防セント欲スル所ノモノ偶々以テ良民ヲ驅ツテ犯罪ノ餘義ナキニ至ラシムルヲ免レズト論"爭セリ予輩モ亦タ往々之ヲ事實ノ上ニ認メザルニアラス然レモ社會ハ犯罪者ニ對シテ已レヲ防衛スルノ權利アルヘキコト勿論ナルカ故ニ其未タ十分ニ犯罪的危害ノ消滅スルニ至ラサルヲ認メタル者ニ就テハ之レニ對シテ相當ナル方法ヲ以テ監視處分ヲナスコト亦タ必要ナリト謂フヘシ唯タ宜シク其方法ヲ改良シ被監視者ヲシテ必要ナキ不便若クハ苦痛ヲ感ゼシメ爲メニ良民社會ニ復歸スルノ道ヲ杜絶ス

普國ニ於ケル監視執行法

ルカ如キコトナカラシムルハ注意アルヲ要ス

之ヲ要スルニ監視ノ弊ハ監視其物ニ存セズシテ之ヲ執行スル方法ノ巧拙如何ニアツテ存ス善良者不良者ノ區別ナク同一被監視者トシテ同一ノ制限同一ノ檢束ノ下ニ之レヲ監視スルコト即チ第一ノ弊事タリ、執行ノ局ニ當ル所ノ警察官吏ニシテ往々適當ノ措置ヲ過マルモノアルコト即チ第二ノ弊事タリ、普國ニ於テハ最初被監視者ノ個人的關係ヲ省察シテ之ヲ二級ニ分チ其第一級ニ屬スル者ニ對シテハ最モ寛大且ツ間接的ニ監視ヲ執行シ第二級ニ屬スル者ハ比較的嚴重ナル取締規則ノ下ニ之ヲ監視セシガ（其何レノ級ニ編入スベキヤハ監獄官吏ノ意見ニ據リ警察署ニ於テ之ヲ決定ス）後刑法改正以來曾テ第一級ニ屬スベカリシ程ノ信認アル放免囚ニ對シテハ全然警察監視ノ附加ヲ廢シ其他一般ニ監視執行ノ方法ヲ寛大ニシ且ツ之ヲ執行スルニ當ツテハ一層注意シテ被監視者ノ個人的關係ヲ省察スルコトヽナスニ至レリ之レニ據リ現今獨逸ニ於テハ監視執行ニ關スル第一ノ弊事ハ略ホ之ヲ矯正シ得タルモノヽ如シ只タ第

二ノ弊事ニ至ツテハ未タ全ク之ヲ脫却スル能ハサルノ實況ナリ監視ニ關スル獨逸刑法ノ規定ニ曰ク

第三十八條　自由刑ニハ此法律ニ定メタル場合ニ於テ共ニ警察監視ニ附セシムルノ言渡ヲナスコトヲ得

其言渡ニ由リ上等地方警察署ハ監獄署ノ意見ヲ聽キタル後其言渡ヲ受ケタル者ヲ五年以下ノ警察監視ニ付スルノ權ヲ得ルモノトス

其期限ハ自由刑ノ滿期、期滿免除又ハ免刑ノ日ヨリ起算スルモノトス

第三十九條　警察監視ハ左ノ効力ヲ有スルモノトス

(第一)上等地方警察署ハ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シ一定ノ土地ニ滯在スルヿヲ禁スルヲ得

(第二)上等地方警察署ハ外國人ヲ獨逸國內ヨリ放逐スルコトヲ得

(第三)家宅搜査ハ法律上ノ時限ニ拘ハラス何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得

(被監視者ヲシテ警察署ニ出頭謹慎ヲ表セシムルノ規定ハ之ヲ廢止セリ)

監獄官吏ハ往々囚人ヨリ監視ニ對スル情訴ヲ聽クコト尠カラズ曰ク"予"ノ出獄スルヤ百方周旋奔走シテ漸クニ一ノ生業ヲ得タルニ計ラザリキ此生業ハ忽チ警察官吏ノ爲メニ奪掠シ去ラル、ノ不幸ヲ見ルニ至ラントハ、彼レ警察官吏ハ予ヲ監視スル爲メニ來ツテ余ノ行狀ヲ審究シ同時ニマタ余ノ身分ハ近頃監獄ヲ放免セラレテ現ニ監視執行中ノ危險ノ人物タルコトヲ觸言セリ是ヲ以テ余ハ世人ヨリ畏避嫌惡セラル、コト一層甚シク終ニ又一人トシテ予ヲ顧ミル者ナキニ至レリ、勞シテ食スルハ天下ノ通理ナリ、然ルニ社會ハ予ニ勞働ヲ與ヘス偶々之ヲ得レハ忽チ之ヲ奪フ社會ハ即チ予ニ迫ルニ饑餓ヲ以テシ予ヲ促シテ犯罪ノ境遇ニ陷ラシムルモノナリト"吾人若シ虛心平意ニ之ヲ玩味セハ自ラ亦タ多少眞理ノ其間ニ伏在シアルヲ發見スヘシ是レ蓋シ執行方法ノ宜シキヲ得ザルニ生ズルノ弊失ノミ若シ警察機關ヲシテ

特別監視

財産刑

沒收

十分ニ其執行ニ注意スル所アラシメ如何ナル場合ニ於テモ成ルヘク良民的生活ヲ妨害スルガ如キコトナキニ至ラシメバ斯カル弊失ナカラシムルヲ期スルコト敢テ難キニアラザルベシ

監視ノ一種ニシテ假出獄者ニ對シテ執行スル所ノ取締法ヲ指シテ之ヲ特別監視ト稱ス(刑法附則第四十三條乃至第四十七條)我ガ裁判上ノ先例ニ於テハ特別監視ヲ以テ之ヲ附加刑ノ一種ト認ムルモノヽ如シ其不當ナルコトハ後章ニ於テ之ヲ詳述スベシ

第七節　財産刑

財産ノ刑ハ輕罪ヲ以テ論スルモノ之ヲ罰金ト言ヒ違警罪ニ係ルモノ之ヲ科料ト稱シ或ハ單獨ニ(主刑)之ヲ課シ或ハ附加刑トシテ自由刑ニ之ヲ併課ス(刑法第八條及ヒ第十條)其他沒收ト稱スル所ノモノモ亦タ財産刑ノ一種トシテ之ヲ見ルヲ得ヘシ沒收ハ常ニ附加刑トス(刑法第十條及ヒ第四十三條)

財産刑ハ各國現行ノ刑法ニ於テ自由刑ニ亞ギ最モ廣ク且ツ普通ニ行

ハルヽ所ノモノニシテ一ハ自由刑適用ノ過度ヲ緩和スルカ爲メニ之ヲ用ヒ一ハ不正不義ノ利得ヲ計ルニ出デタル犯罪ノ制裁ヲ强ムルガ爲メニ之ヲ行フヲ通例トス即チ違警罪ノ多クノ場合ハ科料ヲ以テ之ヲ罰シ輕罪以上ニアツテモ輕微ナル犯罪若クハ賭博詐欺取財等ハ多クハ單獨或ハ附加刑トシテ罰金ヲ以テ之レニ課ス

財産刑ハ刑罰ニ必要ナル平等均一ノ要素ヲ欠ク即チ人各々貧富ノ度ヲ同フセサルニ依リ或者ニ對シテ非常ニ重ク感スル罰金モ或ル人ニ對シテハ殆ンド毫モ痛痒ヲ感セシムルニ至ル能ハサルヲ免カレズ是ヲ以テ之レヲ實際ニ施行スル場合ニ於テハ其犯罪ノ輕重ヲ標準トスルコト勿論ナリト雖モ併セテマタ犯人個人的ノ關係即チ貧富ノ程度ヲ省察シ成ルヘク平等均一ノ要件ヲ充タサシムルノ注意アルヲ要ス是レ即チ刑法ニ於テ罰金科料ノ最多及ヒ最寡限ノ間ニ等差ヲ設ケ裁判官ヲシテ犯罪及犯人相當ノ額ニ適從スルヲ得ルノ餘地アラシメタル所以ナリ我カ刑法ニ於テハ罰金ハ二圓ヲ以テ最寡限トシ仍ホ各場

合ニ於テ其多寡ヲ區別シ(刑法第二十六條)科料ハ五錢以上一圓九十五錢以下トナス(獨逸ニ於テハ科料ハ一「馬克」罰金ハ三「馬克」ヲ以テ最寡限トシ科料ハ百五十「馬克」罰金ハ六千「馬克」ヲ超過スルヲ得ス)

換刑及折算法

財産刑ハ裁判確定後一定ノ期限内ニ之ヲ納完セシムルモノトシ納完セサル場合ハ自由刑ヲ以テ之レニ換罰ス換罰ノ程度ハ一日ヲ以テ一圓トシ一日ニ滿タサル者仍ホ一日ヲ以テ之ヲ計算ス(刑法第二十七條及第三十條)(獨逸ニ於テハ科料罰金共ニ一「馬克」一日ニ折算ス乃至十五「馬克」ヲ以テ一日ニ折算ス)一日折算ノ金額ハ成ルヘク低度ナラシムルコト必要ナリ殊ニ犯罪者ノ多クハ其生活ノ程度甚タ低クキヲ常トナスカ故ニ若シ折算金額ノ度ヲ高カラシムルトキハ實際罰金ヲ納完セサルモノ必ラス多カルヘク財産刑ハ唯タ名ノミニシテ其實始メヨリ自由刑(不完全ナル)ヲ行フモノト相撰ハサルナリ我國今日ノ實況ニ徴シテ之ヲ知ルヘシ且ツ罰金納完ノ期限ノ如キモ成ルヘク之ヲ寛大ニシ其一時ニ納完スル能ハサル者ハ彼ノ徴税法ノ如キ方法ヲ以テ租税ト共ニ之ヲ徴收スルコト亦タ財産刑ヲシテ實効アラシムルハ一手段ナルヘキナリ之ヲ要スルニ罰金ノ實行ヲ期シ換罰自由刑ノ變例ヲ少カラシメント欲センニハ受刑者ヲシテ換罰ノ反ツテ己レノ勞働報酬ニ對シテ比較的非常ニ不利益ナルヲ認識スルニ至ラシムルコト最モ必要ナリ

クロ―チ氏ノ罰金説

クロ―チ氏曰ク"罰金ハ一定シタル額ニ由テ之ヲ科スヘカラス宜シク階級税及ヒ所得税ノ月額ニ應シテ之ヲ科シ其是等ノ納税義務ナキ者ハ町村税ノ負擔物ヲ基礎トシテ之ヲ料リ全ク納税ノ義務ナキ者ハ最モ僅小ナル月額ヲ定メテ之ヲ科スヘシ而シテ其納完ノ義務ヲ果ス能ハサル者ハ勞役場ニ入レテ就役ヲ命シ衣食費ヲ控除シタル所得工錢ノ殘金ヲ以テ充テシムヘシ斯クノ如クセハ則チ國家ハ彼ノ監獄ヲ以テ一時ノ寄食場トナスカ如キ幾多ノ無頼漢ヲ拘禁シテ無用ノ經費ヲ支出スルノ煩ヲ省略シ得ルコト必然ナリト至言ト謂フヘシ"

名譽刑

第八節　名譽刑

名譽刑ハ中古以前ニ於テ最モ盛ンニ行ハレタル所ノ刑罰ノ一種ナリ

シカ社會ノ進歩ト共ニ次第ニ其價直及ヒ範圍ヲ減縮シ今日ニ於テハ僅カニ附加刑ノ一種トシテ其命脈ヲ存スルニ止マルニ至レリ蓋シ此刑罰ハ矯治改良ノ旨義ニ戻リ獨リ犯罪者ノ廉恥心ヲ消滅セシムルノミナラス之ヲシテ永ク社會ノ擯斥ヲ受ケ自暴自棄終ニ再犯ノ餘義ナキニ至ラシムルノ結果アルヲ免カレザレバナリ然レ𪜈既ニ不名譽不信用破廉恥ナル犯罪アル者ニ對シテ仍ホ名譽ヲ標シ信任ヲ與フル所ノ勳爵ヲ有シ公權ヲ執行セシムルコト固トヨリ事理ノ許ルス所ニアラサルカ故ニ今日尚ホ刑法ニ於テ附加刑トシテ之ヲ存スルコト實ニ止ムヲ得サルニ出ツルナリ但シ其旨義及ヒ方法ニ於テハ舊時ノ所謂名譽刑ナルモノトハ全ク其面目ヲ更新スルニ至レリ

公權ノ剝奪及停止

我カ刑法ニ於テ公權ヲ剝奪若クハ停止スト稱スルモノハ即チ名譽刑ニシテ重罪ノ刑ニ處セラレタルモノハ別ニ宣告ヲ用ヒスシテ終身公權ヲ剝奪シ禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス現任ノ官職ヲ失ヒ及ヒ其刑期間公權ヲ行フコトヲ停止ス而シテ其所謂公權ナルモノハ國民ノ特權、官吏ト爲ルノ權、勳章、年金、位記、貫號、恩給ヲ有スルノ權、外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權、兵籍ニ入ルノ權、裁判所ニ於テ證人トナルノ權、後見人ト爲ルノ權、分散者ノ管財人ト爲リ又ハ會社及ヒ共有財産ヲ管理スルノ權、學校長及教師、學監ト爲ルノ權即チ是レナリ(刑法第三十一條、第三十二條及第三十三條)和蘭ノ新刑法ハ名譽刑ニ於テ殊ニ著ルシキ改良ヲ施シタリ即チ或ル一定ノ權利(陸海軍ニ入籍スルヿ、官職、爵位、尊稱、勳章ヲ有スルヿ議權、撰擧權、被撰擧權其他公權ヲ行フヿ、證人タルヿ、後見人、管財人、附添人、親族會議員タルヿ)ヲ剝奪スルニ當リ之ヲ取捨スルハ凡ヘテ裁判官カ犯人ノ罪質其他ノ個人的關係ヲ省察シタル上ノ意見ニ一任セリ

和蘭新刑法

第三章　行刑法(Strafvollzugssystem)

行刑法

刑罰ノ目的ニ就テハ前章既ニ之ヲ說述セリ行刑ハ常ニ此目的ニ一致スル所ノ方法ヲ以テ之ヲ組織セサルヘカラス自由刑執行ノ方法ハ或ハ雜居制ト稱シ或ハ分房制ト稱シ或ハ緘默法、分類法、表黜法、階級法等

ノ區別アリト雖モ通例之ヲ大別シテ雜居制、分房制及ヒ階級制ノ三種トナス

第一節　雜居制(Gemeinsame Haft)

雜居制

自由刑執行ノ最モ古ク最モ簡單ニ且ツ最モ疎笨ナル方法ヲ指シテ之ヲ雜居制ト稱ス雜居制トハ多數ノ罪囚ヲ同一ノ監房同一ノ工場ニ起臥就役セシムルモノ即チ是レナリ此方法ハ往時ハ勿論今日ニ於テモ尙ホ最モ多ク且ツ普通ニ行ハルヽ所ノモノニシテ唯ダ今日ニアツテハ男女罪質年齡犯數役業等ニ由テ相當ノ類別ヲ施シマタ昔日ノ如ク亂暴狼藉ニ混同雜居セシムルモノ少シト雖モ然カモ受刑者ヲシテ犯罪的一社會ヲ形成セシムル點ニ至ツテハ即チ敢テ異ル所アラサルナリ、我カ監獄則第十一條乃至第十五條ノ規定ニ據テ之ヲ見レバ我國ニ於テモ亦タ現ニ雜居制……稍々改良シタル雜居制ヲ採用シツヽアルコト知ルヘキナリ、罪惡ノ傳播ハ傳染病ノ傳播ヨリ尙ホ一層迅速ニシテ且ツ危險ナリ、人心ノ同シカラサル猶ホ其面ノ如シ既ニ二人以上ノ犯罪者ノ集合アリトセハ甲ハ乙ト其犯罪ノ度ヲ同フセス、程度ノ同ジカラザル所ハ即チ恰カモ冷温、相異ル所ノ空氣カ毛髮ノ間隙ヲ通シテ其平均ヲ保タントスルノ作用アルカ如ク向囚ノ間モ亦タ言語、形容其他種々ナル微妙ノ機動ニ由ツテ忽チ犯罪的思想ノ交換ヲ遂ケ罪惡傳播ノ結果ハ終ニ小惡ヲ化シテ大兇トナシ微罪ヲ變シテ大辟トナスニ至ルヲ免カレス、是レ即チ彼ノ所謂集同排異ノ旨趣ニ基ツキ罪質、年齡、犯數、身分等ニ由ルノ外尙ホ或ハ教育、技能、性行其他廉耻心ノ有無及ヒ改良希望ノ有無等ニ據リ多數ノ犯罪者ニ對シテ頻リニ詳密ナル類別法ヲ施スモ其結果、徒ラニ管理上ノ混淆錯雜ヲ來タスノミニシテ終ニ全ク罪惡傳播ノ弊ヲ防遏スルニ至ルコト能ハサル所以ナリ

雜居制ノ實況

雜居制ノ施行ノ實況ハ監獄ノ大小ニ依テ自ラ其趣ヲ異ニスル所アリ小監獄ニアツテハ管理上、諸般ノ設備殊ニ完全ナル能ハス獨リ罪質、年齡、犯數等ニ由テ適當ノ別異ヲ爲ス能ハサルノミナラス甚シキハ即チ男女、尙ホ其房壁ヲ接スルカ如キモノナキニアラス、作業ト稱スルモノ亦タ多ク

ハ儀式的手足ヲ動作セシムルマテノコトニシテ一モ以テ定役トシテ見ルニ足ルヘキモノアルニアラス、吏員ノ數ハ常ニ僅少ニシテ僅少ナル吏員亦タ多クハ適當ノモノニアラス動モスレハ輙チ囚徒ト相狎狃シ主僕相親ムノ觀ヲ呈スルニ非レハ則チ隣佑相和スルノ關係ヲ作スニ至ル。紀律行ハレス視察周到ナル能ハス、幾回トナク監獄ヲ出入シ監獄ヲ以テ殆ント常住トスル所ノ竊盜掏摸乞丐浮浪者等所謂慣習的犯罪者ハ即チ一朝誤テ微罪ヲ犯シタル初犯、短期ノ者即チ所謂偶發的犯罪者ト其居席ヲ同フシ、智慮辨別ナキ無垢ノ幼童ヲシテ惡漢無賴ノ成年者ト同一監房ノ内ニ繫禁シ少クモ區劃不十分ナル同一工場ノ内ニ就役セシム、同囚相語ル所ノモノハ過去ニ於ケル犯罪若クハ遊蕩ノ事蹟ニアラサレハ則チ之レニ關スル將來ノ計畫ニアラサルハナク、監獄官吏ヲ瞞着スルノ術ニ非レハ則チ警吏若クハ法官ヲ欺罔スルノ手段ニアラサルハナク交談僅カニ止ムノ時ハ即チ不倫ノ快樂ニ兩々枕ヲ同フシテ華胥ノ夢ヲ結フ所ノ就寢令後、起床令マテノ數時間ノミ、而シテ此ニ出入スル所ノ者多クハ皆ナ短期ノ受刑者ノミナルカ故ニ往來ノ頻繁ナルコトハ恰カモ逆旅ノ客ヲ迎フルカ如ク社會新奇ノ出來事ハ郵置シテ傳フルヨリモ尚ホ速カニ監獄ノ内部ニ傳播シ、談話材料ノ多キハ三十石船ノ同乘ニ於ケルヨリモ尚ホ豐富ナリ、時到レハ則チ坐シテ給食ノ配與ヲ受ケ巧言以テ官吏ノ甘心ヲ買フヲ得レハ則チマタ屢々賞詞優遇ノ典ニ浴ス、被服ハ固トヨリ時季ニ適シ僅カニ病故アレハ則チ勞働ヲ止メラレ醫療亦タ至ラサルナシ、之ヲ要スルニ殆ント一モ受刑者ヲシテ刑ノ其身ニアルヲ感セシムルニ足ルモノナク彼ノ憐レムヘキ幾多ノ魯鈍愚昏ノ民、誤テ微罪ヲ犯シ所謂偶發的犯罪者トシテ始メテ監獄ノ鐵門ヲ潛クルニ當リ戰々兢々心悸レ魂驚キ口言ハント欲シテ言フ能ハサリシ所ノ者モ居ルコト幾何ナラスシテ獨リ忽チ監獄ノ畏避スヘキ所ニアラサルノミナラス反テ其無上ノ樂土タルヲ感知セシメ惡友ヲ慕フコト寧ロ其妻子ヲ愛スルノ情ニ優サリ終ニ相牽ヒテ慣習的犯罪ノ深淵ニ墮落セシムルニ至ルヲ免カレス、雜居制小監

獄ハ所謂初犯罪ニ入ルノ門ニシテ之ヲ指シテ犯罪ノ小學校ト謂フハ實ニ誣言ニアラサルナリ

雜居制大監獄(五百四以上千四以下)ノ實況ニ就テ之ヲ見ルニ其上乘ナルモノニ至ツテハ表面紀律秩序及ヒ清潔ノ整備セル觀アルヲ呈シ集同排異別異法ノ如キモ亦タ頗フル愼密ノ注意ヲ加フルモノナキニアラス、晝間ハ即チ三十乃至五十ノ罪囚ヲ區處シテ一群トナシ廣濶ナル工場ニ於テ混同就役セシム、一二ノ看守及ヒ授業手アツテ場內ヲ見張リ一面戒護ヲ掌リ一面作業ヲ督勵ス罪囚ハ能ク緘默ノ義務ヲ守ルト云フト雖モ混同就役ノ結果ハ勢ヒ言ヲ作業上ノ必要ニ托シテ喋々相交談スルモノアルノ弊ヲ防ク能ハス或ハ此所ニ製品ヲ提出スルモノアレハ彼所ニハマタ素品ヲ要求スルモノアリ或ハ病故ヲ告クル者或ハ器具ノ欠損ヲ訴フル者喧々囂々宛然タル職工場ノ光景ニアラサルナキモノハ殆ント稀レナリ、夜間ハ即チ少キモ三人或ハ五人、多キハ則チ三十乃至五十ノ多囚ヲ一監房ニ拘禁シ燈光、薄ク視察充分ナル能ハサ

ル暗黑場裏ニ就寢セシム其他日曜及ヒ祭日ハ免役シ平日、マタ三十分乃至二時間ハ休憩シ或ハ教誨堂ニ群集シ或ハ工場若クハ監房內ニ於テ讀書スルニアラサレハ則チ被服臥具ノ補綴ヲナシ然ラサレハ則チ空坐欠伸ス、此間及ヒ夜間ハ彼レ罪囚ノ爲メニハ最モ其犯罪的思想ヲ交換スルニ便利ナルノ時機ニシテ縱令ヒ戒護官吏ノ周到ナル視察アルニモ拘ハラス甲ハ乙ヲ識リ乙、亦タ丙ニ親ミ忽チニシテ全監ヲ擧ツテ同囚、相懇親ヲ結フニ至ラシムルヲ免カレス、詐欺ハ即チ竊盜ヲ學ヒ竊盜ハ則チ强盜ヲ習ヒ强盜ハ益々進ンテ陰險殘虐ノ手段ヲ講究シ偶發犯者ハ即チ幾何ナラスシテ醜汚ナル慣習犯罪ニ化成スルニ至ラサル者殆ント鮮シ、偶々悔悟ノ狀ヲ表彰セント欲スル者アレハ則チ同囚ノ爲メニ或ハ侮辱セラレ或ハ逆待セラレ巧ミニ僞善ヲ裝ヒ能ク獄則ヲ潛リ能ク獄吏ヲ欺瞞スル者ハ則チ英雄豪傑トシテ尊崇セラル、多囚合同ノ勢力ハ常ニ囚情ノ傲惰ヲ養成シ能ク官吏ノ命ニ抗シ懲罰ノ痛苦ニ堪フル者ハ則チ恰カモ凱歌ヲ以テ勝將ヲ迎フルカ如クニ同囚、之

ヲ厚遇シ獄則ノ威信ハ終ニ之レカ爲メ毫モ行ハレサルニ至ルヲ免カレス

之ヲ要スルニ雜居制ハ(第一)刑ノ道義的要件ニ一致スル能ハス何トナレハ雜居制執行ノ結果ハ受刑者ヲシテ刑罰ノ爲メニ却テ其道義心ヲ潰亂破壞セシムルニ至リ且ツ之レニ由テ獨リ國家ノ法規ヲ保全スル能ハサルノミナラス反テ益々之ヲ危險ナラシムルノ虞ヒアルヲ免カレサレハナリ(第二)雜居制ニ由テ刑ヲ執行スルノ結果ハ到底刑ノ眞面目ヲ保持セシムルニ足ラス何トナレハ雜居制ハ犯罪人ヲシテ强盛ナル國家ノ權力ニ對シテ其眇タル一個人ノ勢力ノ極メテ微弱ナルヲ認識セシムルニ至ルコト能ハサレハナリ(第三)雜居制ハ刑ノ公平ヲ期スル所以ノ旨趣ヲ貫徹セシムル能ハス何トナレハ多四ヲ雜居セシムルコト、醜汚兇惡ノ徒ニ取リテハ反テ無上ノ快樂ナルヘキモ多少身分アリ良心アル者ニ對シテハ則チ非常ノ苦痛タルヘキヲ以テナリ(第四)雜居制ハ自由刑ノ旨義ニ適セス何トナレハ、同四相借合シテ彼我ノ思想

雜居制ノ非點

ヲ交換スルノ自由ヲ剝奪スルコト能ハサレハナリクロ―ヂ氏曰ク"雜居制ヲ以テ刑ヲ執行スルハ恰カモ猶ホ國家ノ費用ヲ擲テ犯罪ヲ養成シ犯罪者ヲ薫陶スルカ如キモノナリト"吾人ハ往々ニシテ四人ノ語ヲ聽クコトアリ曰ク"予ハ當初某監獄ノ支署ニ繫カレ次回ハ進ンテ某監獄本署ニ入リ今ハ則チ集治監拘禁ノ身ニ榮達スルニ至ル故ニ予カ爲メニハ某支署ハ即チ小學ニシテ某本署ハ即チ中學タリ集治監ハ即チ大學ヲ以テ之ヲ見ルヘク此所ヲ卒業スルニアラサレハ則チ終ニ犯罪社會ニ自立シテ予カ畢生ノ目的ヲ達スルコト能ハスト"

雜居制固有ノ弊失ヲ剔除センカ爲メニハ各國到ル所種々ノ考案ヲ運ラシテ之レカ實行ヲ試ミサルハナキモ緘默法(アウブルンニ始マル)厲行ノ結果ハ徒ラニ懲罰件數ノ增加ヲ見ルノミニシテ一モ其目的ヲ達スルニ至ラズ級別法實施ノ結果ハ空シク僞善假面者ノ養成ヲ助クルノミニシテ毫モ其効果ヲ見ルニ至ラズ結局終ニ一人ヲ以テ一級ヲ作ルニアラザレハ個人的過四ノ旨義ヲ貫徹スル能ハサルヲ悟リ此ニ始メ

テ分房制施行ノ必要ヲ確認セシムルニ至レリ拙著日本監獄法講義ノ一節ニ曰ク（四十五頁）

前略但シ我カ立法者ノ賢明ナル固トヨリ雜居制ノ不可ナルヲ認メサルニアラス又分房制ノ有効ナルヲ辨ヘサルニアラスサレハ我監獄則ニ於テハ表面コソ雜居拘禁法ヲ採用セルモノタルニ相違ナシト雖モ尚ホ他ノ別異ニ關スル條文ノ規定ニ就テ之ヲ詳察スルトキハ我監獄則モ亦タ着々分房制ノ主義ニ向ツテ其方針ヲ取ルノ精神ナルコト知ルヘキナリ（中略）故ニ地方情況ニ由リ經費其他諸般ノ關係ニ於テ差支ヘナキ限リハ此最低限度ヲ超ヘテ尚ホ種々ノ點ニ由テ細別ヲナシ更ラニ進ンデ純粹タル分房制ヲ施行スルニ至ルモ啻タニ違法ノ事ナラサルノミナラズ反ツテ監獄則ノ精神ニ適合スルモノナリト謂フヘシ云々

第二節　分房制（Einzelhaft）

分房制ハ敢テ近代ニ於テ新タニ創見セラレタルモノニアラス唯タ往時ニアツハ其適用ノ範圍極メテ狹ク且ツ重モニ膚罰主義ニ基キ之レニ依リ單ニ刑ノ痛苦ヲ增加セシメント欲スルニアリシカ一タヒ北米合衆國ニ於テ「ペンシルヴァニヤ」監獄之レカ實行ヲ試ミシ以來分房拘禁ヲ以テ獨リ寂寥ノ痛苦ニ堪ヘサラシムルノミナラス併セテ又罪惡ノ傳播ヲ防ギ且ツ之レニ依ツテ遷善改過ノ効果アラシメント欲スルニ至リ更ラニ一層進ンデ今日ニ在ツテハ大ニ其旨義方法ヲ改良シ終ニ前日ニ所謂分房制トハ殆ンド全ク其面目ヲ更新スルニ至レリ

今日ニ所謂分房制ナルモノハ實ニ左ノ要旨ニ基テ之ヲ組織セサルヘカラス

（第一）刑罰ノ眞面目ヲ保チ囚人ヲシテ全然其自由ノ剝奪セラレアル觀念ヲ起スニ至ラシムルコトヲ要ス

受刑者ハ晝夜一監房（十平方メートル）二十五立方メートル）ノ廣サアル）ノ内ニ之ヲ拘禁シ起臥就役此所ニ於テシ衣食其他生活上必要ノ事項モ亦タ總ヘテ此所ニ於テ其用ヲ遂セシム左視右顧曾テ一人ノ己レヲ

憐レミ己レヲ助クルノ同類アルヲ見ス、鉄窓ハ高ク且ツ密ニ格子ヲ以ヲ望見ヲ防キ戸扉ハ堅ク閉鎖シテ外界ヲ劃ス寂々寥々勢ヒ四人ヲシテ此所ニ己レヲ强行スルニ至リタル威力ノ尊嚴ヲ感シ之レカ淵源タル國權法紀ノ强盛且ツ神聖ニシテ到底、一個人ノ微力ヲ以テ之ヲ干犯シ能ハザルモノナルコトヲ銘識セシム、是ニ於テ乎則チ受刑者ヲシテ自由ノ全ク己レノ身ニ剝奪セラレアルコトヲ確認セシムルコトヲ得ヘシ、監獄ノ紀律ハ嚴正ニ之ヲ厲行スルコトヲ要ス、犯ス者ハ則チ毛髮ノ微モ假借スル所ナク之ヲ責罰セサルヘカラス、分房ニアツテハ則チ能ク此目的ヲ達シサシモ强暴硬勁ナル惡漢兇徒モ獨力以テ如何トモ之レニ對抗スルニ由ナク痛憤ノ餘リ其頭腦ヲ房壁ニ碎クニアラザレハ則チ懺悔シテ嚴正ナル紀律ノ下ニ屈服セサルヲ得ス是ニ於テ乎則チ國家ノ法規ハ全然、强行セラレ刑ノ眞面目ハ是ニ據ツテ始メテ完全ニ保持セラルヽヲ得ヘシ、分房制ニ據テ刑ヲ執行スルノ結果ハ刑罰ヲシテ至嚴ナラシムルコト固トヨリ論ヲ俟タズ然レモ亦タ能ク紀律ヲ遵奉スルモノニ對シテハ寛トナリ之レニ背戻スル者ニ對シテハ則チ層重ス、寛ト嚴トハ四人、自ラ招ク所ノ結果ニシテ之ヲ要スルニ敢テ毫モ正理公道ノ要求ニ戻ル所アラサルノミナラス不良者ハ之レニ據ツテ益々痛苦ヲ感シ惰落、未タ甚シカラサル者ハ反ツテ之レカ爲メニ幾分カ痛苦ヲ寛和セラルヽヲ得ルコト蓋シ刑ノ道義的眞面目ノ旨義ニ適スルモノト謂フベシ

(第二)犯罪者ノ共同ヲ防遏シ之レニ依リ行刑ノ爲メ反ツテ犯罪ヲ養成スルニ至ルカ如キ弊ナカラシムルコトヲ要ス

分房制ニアツテハ如何ナル場合ニ論ナク四人ヲシテ毫モ同四相接スルノ機會ヲ與ヘシメズ是ヲ以テ四人ハ其同四ノ氏名、刑期等ハ言フヲ俟タス在監人員ノ概數スラ之ヲ知ル能ハス偶マ禁ヲ犯シテ相通聲セント欲スル者アレハ則チ霹靂一聲、忽チ嚴罰ノ其頭上ニ墜落シ來ルヲ免カレス、犯罪的思想ノ交換ハ是ヲ以テ全ク防遏セラレ彼ノ犯罪者中、狡猾老黠ナル先輩ヲ以テ稱セラルヽ所ノ者モ終ニ其蘊奥ヲ叩イテ初

犯輕微ノ後輩ヨリ師事セラルヽノ快ヲ得ル能ハス、同類監ヲ同フスルモ其所在ヲ知ル能ハス偶マ之ヲ知ルモ互ヒニ其秘術ヲ闘ハシテ後圖ヲ期スルニ由ナク要スルニ偶發犯者ハ慣習犯者ノ薫陶ヲ免カレ輕微初犯ノ者亦タ少クモ其罪惡浸染ノ度ヲ一層深カラシメラルヽノ弊ナキヲ期スルヲ得ヘシ

(第三)惡交ヲ絶チ善交ヲ奬メ以テ四人ヲシテ良民的生活ニ復歸セシムルノ便ヲ與フルノ注意アルヲ要ス

分房制ハ世人ノ妄想スルカ如ク狹隘ナル監房圏内ニ生體埋葬ヲナスモノニ非ラス、絶對的ニ社交ヲ禁絶スルモノニ非ラス、唯タ有害ナル犯罪的即チ罪囚相互ノ交際ハ飽クマテ嚴重ニ之ヲ防遏スルモ有益ナル交際ハ紀律ニ支障ナキ限リ務メテ之ヲ勸奬ス、看守及ヒ授業手ハ最モ頻々囚人ニ直接シテ或ハ憂愁ヲ歓舞シ或ハ精勉ヲ督勵ス、典獄醫師教誨師其他多數ノ監獄官吏モ亦タ屢代ハル々々其監房ヲ訪問シ或時ハ友侶トナリ或時ハ協議者トナツテ懇切ニ慰諭訓誡スル所アリ、父兄妻子其他最近親族ト接見及ヒ書信ノ贈答モ亦タ紀律ノ許ルス限リハ啻タニ之ヲ許容スルノミナラス反ツテ成ルヘク之ヲ奬勵ス、其他マタ心身ヲ無事ニ苦悶セシムルカ如キコトナカラシメンカ爲メニ或ハ作業ヲ課シテ之レニ精勵シ或ハ教誨ヲ施シ或ハ教育ヲ授ケ或ハ有益ナル書籍ノ看讀ヲ許可シ或ハ時々適度ノ運動ヲ與ヘテ一面其健康ヲ保全シ一面其精神ヲ改良センコトヲ勉ム、夜間人定マリ氣靜カナルノ時ハ即チ既往ヲ追懷シ前非ヲ悔悟スル所ノ良心發動ノ時機ニシテ胸裏マテ一片ノ迷執アルヲ見ス、斯クノ如クニシテ始メテ能ク刑罰ヲシテ正理ノ要求ヲ充タシ且ツ道義ノ目的ヲ貫徹セシムルヲ得ルモノト謂フヘキナリ

分房制施行ノ方法

分房制施行ノ方法ニ就テハ二派ノ潮流アツテ互ヒニ相縱横スルモノアルヲ見ル一派ハ即チ獨リ監房ヲ別異スルノミヲ以テ足レリトセス如何ナル場合ニ於テモ渾テ毫モ同囚相見ルノ機會ヲ得サラシムルヲ必要トシ監房ヲ出ツル時ハ忽チ覆面ヲ以テ其面ヲ覆ハシメ運動ノ際